
宜野湾市市民協働推進基本指針の策定に向けた
市民、自治会、団体(NPO・ボランティア団体・市民団体等)、企業(事業所)、市職員
アンケート調査【報告書】

平成 26 年 12 月
宜野湾市市民協働推進協議会
宜野湾市 市民協働推進課

目次

I	調査の概要	
1.	調査目的	6
2.	調査項目及び回収結果	7
	(1) 市民対象	7
	(2) 自治会対象	8
	(3) 団体（NPO・ボランティア団体・市民団体等）対象	9
	(4) 企業（事務所）対象	10
	(5) 市職員対象	11
II-i	調査結果	
	市民対象	
1.	基本属性	13
2.	地域への「愛着」など	15
3.	地域活動について	17
4.	「協働」について	22
5.	自由意見	26
6.	まとめと今後の課題（市民対象）	
	(1) 地域への「愛着」などについて	28
	(2) 地域活動について	28
	(3) 「協働」について	29
II-ii	調査結果	
	自治会対象	
1.	基本属性	32
2.	自治会への加入状況	32
3.	自治会の活動状況及び課題	33
4.	「協働」について	37
5.	自由意見	42
6.	まとめと今後の課題（自治会対象）	
	(1) 自治会への加入状況	43
	(2) 自治会の活動状況及び課題	43
	(3) 「協働」について	44

II-iii 調査結果

団体(NPO・ボランティア団体・市民団体等)対象

1. 基本属性	47
2. 団体の活動状況	47
3. 「協働」について	53
4. 自由意見	60
5. まとめと今後の課題 (団体対象)	
(1) 団体の活動状況	62
(2) 「協働」について	63

II-iv 調査結果

企業(事業所)対象

1. 基本属性	67
2. 企業(事業所)の概要	67
3. 企業(事業所)の地域貢献活動について	70
4. 「協働」について	76
5. 自由意見	80
6. まとめと今後の課題 (企業対象)	
(1) 企業(事業所)の概要	82
(2) 企業(事業所)の地域貢献活動について	83
(3) 「協働」について	84

II-v 調査結果

市職員対象

1. 基本属性	87
2. 地域への「愛着」等	88
3. 地域活動について	90
4. 「協働」について	92
5. 自由意見	104
6. まとめと今後の課題(市職員対象)	
(1) 地域への「愛着」など	106
(2) 地域活動について	106
(3) 「協働」について	107

Ⅲ 調査票様式

1. 調査票(見本)

(1) 市民対象	111
(2) 自治会対象	117
(3) 団体（NPO・ボランティア団体・市民団体等）対象	124
(4) 企業（事務所）対象	130
(5) 市職員対象	138

I 調査の概要

1. 調査目的

本市では、多様化する市民ニーズやまちづくりに対応していくため、市民、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)などを新たなまちづくりの担い手として捉え、それぞれの持つ能力や資源等を活用する「市民協働のまちづくり」の推進に取り組んでいます。

本調査は、平成26年度において、「市民協働のまちづくり」を進めるにあたっての市民協働の理念や方向性を定めた「宜野湾市市民協働推進基本指針」の策定を行うにあたり、地域活動の実態や「協働」についての考えなどを把握し、指針策定の基礎資料とするとともに、今後の本市のまちづくり施策に反映していくことを目的としています。

2. 調査項目及び回収結果

(1) 市民対象

(市民向けアンケート調査項目)

調査項目	質問項目
1. 基本属性	性別
	年齢層
	世帯
	職業
2. 地域への「愛着」等	問1 地域への「愛着」等
	問2 「愛着」等の具体的内容
3. 地域活動について	問3 地域活動の状況
	問4 地域活動への参加状況
	問5 参加した地域活動の分野
	問6 参加した地域活動の具体的内容
	問7 地域活動に参加して良かった点
	問8 今後参加したい「地域活動」の分野
	問9 「地域活動」を活性化するために必要なこと
4. 「協働」について	問10 「協働」の認知度
	問11 「協働」によるまちづくりに対する考え
	問12 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野
	問13 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的内容
	問14 「協働」によるまちづくりに対して市に期待すること
5. 自由意見	問15 「協働」によるまちづくりについてのご意見・アイデア等

(市民向けアンケート回収結果)

調査対象	宜野湾市在住の18歳～69歳の方(無作為抽出)
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成26年10月20日～11月17日
対象者数	1,500
有効回答数	381
有効回答率	25.4%

(2)自治会対象
(自治会向けアンケート調査項目)

調査項目	質問項目
1. 基本属性	問1 自治会名
2. 自治会への加入状況	問2 自治会への加入率
	問3 自治会への加入率の増減
	問4 加入率が低下して困っていること
	問5 加入促進のために行っていること
3. 自治会の活動状況及び課題	問6 行なっている活動・事業の分野
	問7 今後積極的に取り組みたい活動
	問8 現在の自治会の活動状況
	問9 自治会活動を行っていく上での課題
	問10 課題をどのように解決したいと思うか
4. 「協働」について	問11 「協働」の認知度
	問12 これまでの「協働」有無について
	問13 これまでの「協働」した具体的内容
	問14 今後「協働」してみたいと思うか
	問15 今後「協働」したい具体的内容
	問16 「協働」によるまちづくりに対する考え
	問17 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野
	問18 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的内容
	問19 「協働」によるまちづくりに対して市に期待する事
5. 自由意見	問20 「協働」によるまちづくりについてのご意見・アイデア等

(自治会向けアンケート回収結果)

調査対象	宜野湾市内23自治会
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成26年10月20日～11月17日
対象自治会数	23
有効回答数	14
有効回答率	60.9%

(3) 団体(NPO・ボランティア団体・市民団体等) 対象
 (団体向けアンケート調査項目)

調査項目	質問項目
1. 基本属性	問1 団体名
2. 団体の活動状況	問2 活動分野について
	問3 主な活動内容
	問4 活動している地域
	問5 活動のための事務所について
	問6 活動状況(活動・会合等)について
	問7 団体の会員数
	問8 主な収入の内訳
3. 「協働」について	問9 団体活動での課題
	問10 「協働」の認知度
	問11 これまでの「協働」有無について
	問12 これまでの「協働」した具体的内容
	問13 今後「協働」してみたいと思うか
	問14 今後「協働」したい具体的内容
	問15 「協働」によるまちづくりに対する考え
	問16 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野
	問17 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的内容
問18 「協働」によるまちづくりに対して市に期待すること	
4. 自由意見	問19 「協働」によるまちづくりについてのご意見・アイディア等

(団体向けアンケート回収結果)

調査対象	宜野湾市内 NPO・ボランティア団体・市民団体等
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成 26 年 10 月 20 日～11 月 17 日
対象数	82
有効回答数	39
有効回答率	47.6%

(4)企業(事業所)対象
(企業向けアンケート調査項目)

調査項目	質問項目
1. 基本属性	問1 企業(事業所)名
2. 企業(事業所)の概要	問2 企業(事業所)の業種
	問3 企業(事業所)の資本金
	問4 企業(事業所)の所在地
	問5 企業(事業所)の営業年数
	問6 企業(事業所)の従業員数
3. 企業(事業所)の地域貢献活動について	問7 地域貢献活動への取り組み
	問8 地域貢献活動に取り組む理由
	問9 地域貢献活動の分野
	問10 地域貢献活動の具体的内容
	問11 地域貢献活動から得られる効果
	問12 地域貢献活動を進める上での課題
	問13 今後の地域貢献活動の方向性
	問14 過去に地域貢献活動をしていたが、現在はしていない理由
	問15 これまで地域貢献活動をしてこなかった理由
問16 地域貢献活動を行う環境を作るための市役所の役割	
4. 「協働」について	問17 「協働」の認知度
	問18 今後「協働」してみたいと思うか
	問19 今後「協働」したい具体的内容
	問20 「協働」によるまちづくりに対する考え
	問21 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野
	問22 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的内容
	問23 「協働」によるまちづくりに対して市に期待すること
5. 自由意見	問24 「協働」によるまちづくりについてのご意見・アイデア等

(企業向けアンケート回収結果)

調査対象	市内に事業所を設置し、従業員数が20名以上の企業100社
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成26年10月20日～11月17日
対象数	100
有効回答数	39
有効回答率	39.0%

(5)市職員対象
(市職員向けアンケート調査項目)

調査項目	質問項目
1. 基本属性	性別
	年齢層
	所属
2. 宜野湾市への「愛着」等	問1 宜野湾市への「愛着」など
	問2 「愛着」等の具体的内容
3. 地域活動について	問3 地域活動への参加状況
	問4 参加した地域活動の具体的内容
4. 「協働」について	問5 「協働」の認知度
	問6 これまでの業務の中での「協働」の有無
	問7 「協働」の形態
	問8 「協働」した具体的内容
	問9 「協働」した理由について
	問10 「協働」した際の課題について
	問11 「協働」しなかった理由
	問12 本市で「協働」が進んでいるか
	問13 本市で「協働」が進んでいると思わない理由
	問14 今後、本市で「協働」を進めることが必要か
	問15 今後、本市で「協働」が必要だと思ふ理由
	問16 本市で「協働」が必要だと思わない理由
5. 自由意見	問17 「協働」によるまちづくりを進めていくために期待すること
	問18 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野
	問19 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的内容
	問20 「協働」によるまちづくりについてのご意見・アイディア等

(市職員向けアンケート回収結果)

調査対象	市職員
調査方法	直接配布・直接回収
調査期間	平成26年10月20日～11月17日
対象数	414
有効回答数	364
有効回答率	87.9%

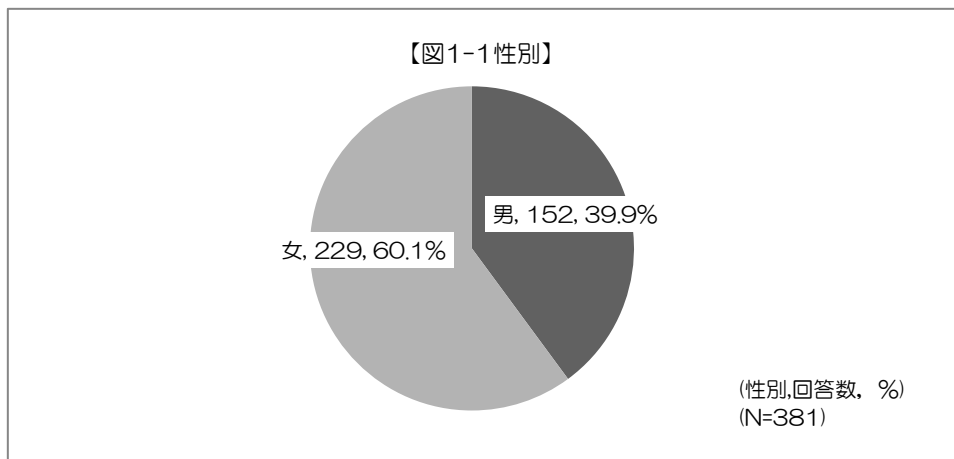
Ⅱ-1 調査結果

市民対象

1. 基本属性

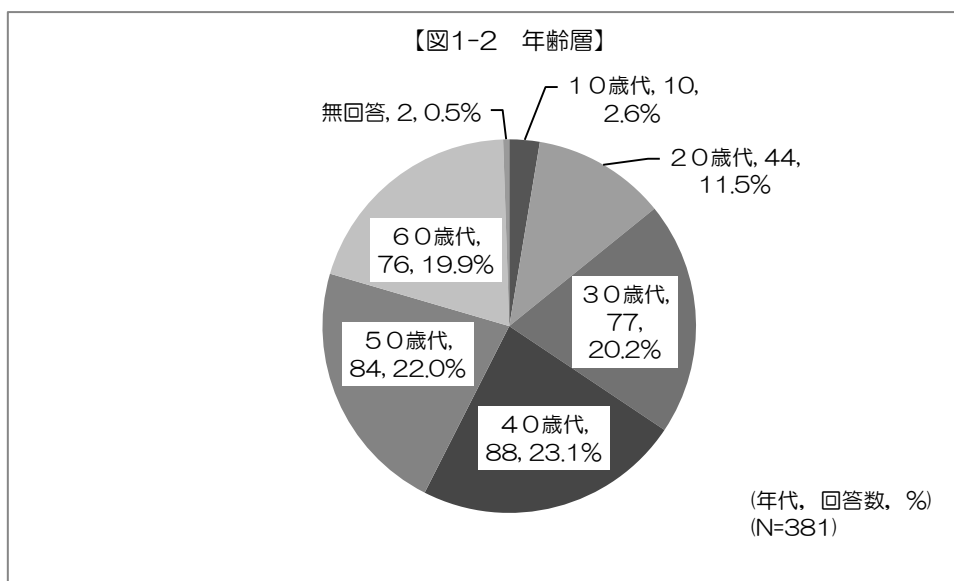
(1) 性別、年代

①性別



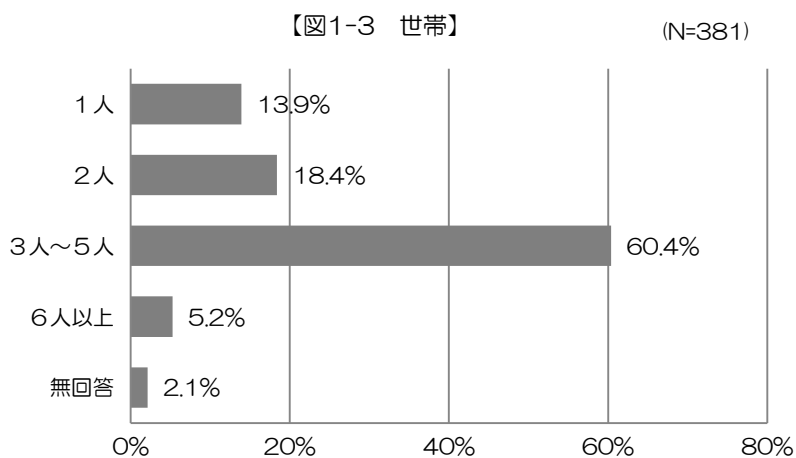
性別構成は、「男性」が39.9%、「女性」が30.6%であった。(図1-1)

②年齢別



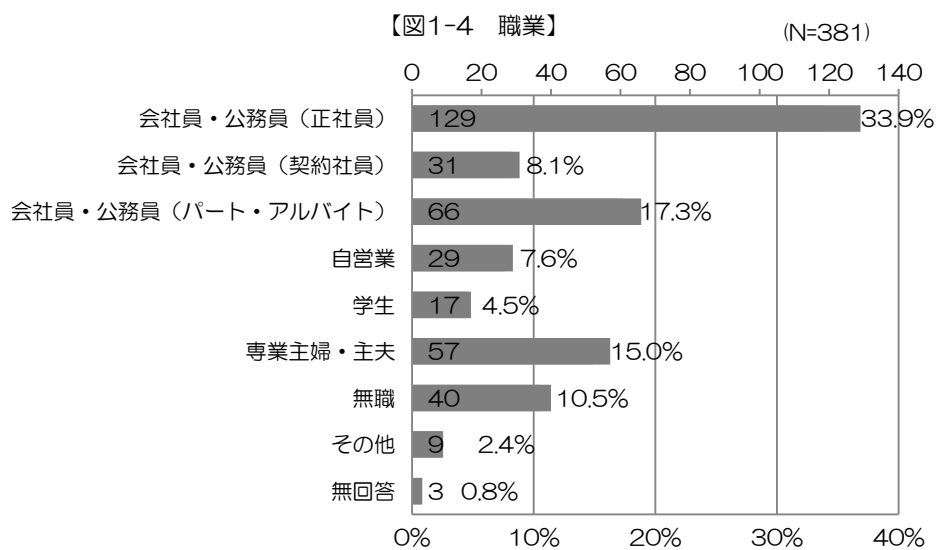
年代は、「30歳代」「40歳代」「50歳代」「60歳代」がそれぞれ20%前後、「20歳代」11.5%、「10歳代」2.6%であった。(図1-2)

③世帯



世帯は「3人～5人」が60.4%と最も多く、次いで「2人」18.4%、「1人」13.9%、「6人以上」5.2%であった。(図1-3)

④職業

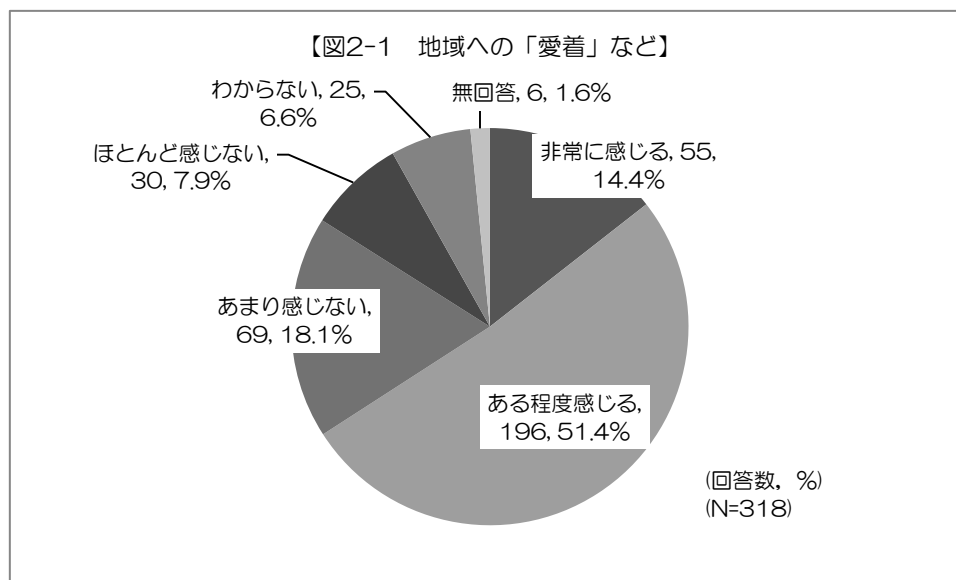


職業は、「会社員・公務員(正社員)」が33.9%と最も多く、次いで「会社員・公務員(パート・アルバイト)」17.3%、「専業主婦・主夫」15.0%などであった。(図1-4)

2. 地域への「愛着」等

問1 地域への「愛着」など

問1 あなたは住んでいる地域に対して「愛着」や「誇り」、「良い点」や「好きなどころ」を感じることはありますか？（〇は1つ）



住んでいる地域に対する「愛着」などをたずねたところ、「非常に感じる」14.4%と「ある程度感じる」51.4%を併せると全体の約65%を占めた。一方で「あまり感じない」18.1%、「ほとんど感じない」7.9%を併せると全体の約26%であった。(図2-1)

問2 「愛着」等の具体的内容

問1で1.「非常に感じる」若しくは2.「ある程度感じる」とお答えした方におたずねします。あなたは住んでいる地域に対して「愛着」や「誇り」、「良い点」や「好きなどころ」を感じることはありますか？具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

【主な意見】立地環境が良い点(回答数：97)

●	海が近い、今後発展しそうなところがよい。
●	大山の田いも畑ののどかな風景、青い海、広い空を見ることが好きです。
●	2つの大学、図書館もあり、静かな落ち着いた街だと思う。
●	北部や南部に行くときもとても便利である。大学も近くて子どもたちの教育にとっても便利である。
●	空港や市街地（那覇市）にも近く生活するのに便利な立地であり、多くの商業施設や人口があるのに加えて、トロピカルビーチや海浜の景観に優れ、そこに暮らしていることに誇りを感じる。

【主な意見】生まれ育った・住み慣れた愛着(回答数：42)

●	私の先祖がここの出身なので愛着があります。普天満神宮が好きです。
●	生まれ育った場所なので、好きというより落ち着くところである。
●	生まれも育ちもここ宜野湾だから愛着を感じる。
●	この地域に住んで30年余になますが、子どもたちもここで生まれ育ち近所の子どもたちと近くの公園で遊んだり、それに伴って親同士の交流もあり、お互い気心も知れているので住んでいて安心感があります。

【主な意見】人のやさしさ、つながり(回答数：39)

●	地域の間人間関係では束縛されないで、それでいて自分にできることは受け入れてくれる
●	近所の方々が子どもたちに声をよく掛けてくる。
●	公民館でのイベント事が地域住民の交流の場として大事にされているところが好きです。
●	公民館を中心とした班の制度があり、地域の清掃等で近所づきあいもあり、顔の分かる住民が暮らしている。近所にはまだ庭のある家畑をしている家もあり、花の話題や収穫した野菜・果物の交換もあり、ある程度都会でありながら繋がりもある。
●	地域でのあいさつ声掛け、困った時に助け合える関係。子育てに良い関係、老人にも優しい。不幸があった家の手伝いに隣近所が駆けつける。

【主な意見】安心、安全なところ(回答数：10)

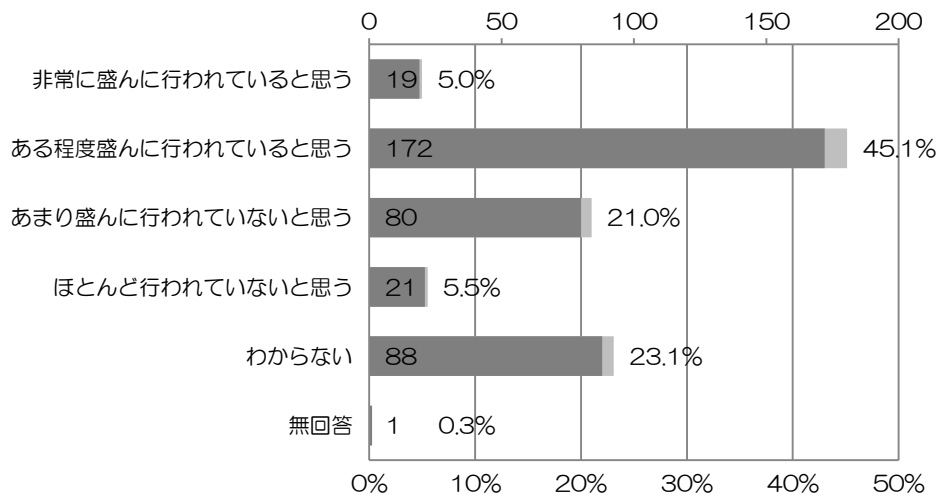
●	治安が良いところが好きです。
●	安全で安心な生活が送れるところ
●	自然災害に対する安心感がある（高台に居住）、交通が便利。
●	防犯パトロールを夕方家の周りをやってくれるので安心感があります。

3. 地域活動について

問3 地域活動の状況

問3 あなたが住んでいる地域の「地域活動」は盛んであると思いますか？（〇は1つ）

【図3-1 住んでいる地域の「地域活動」の状況】 (N=381)

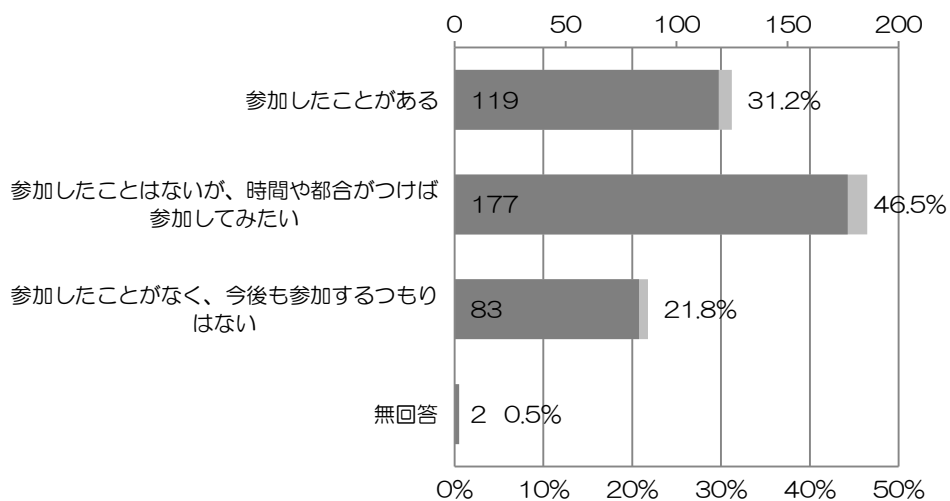


住んでいる地域の「地域活動」の状況を尋ねたところ、「非常に盛ん」5.0%と「ある程度盛ん」45.1%と併せると全体の約半数(50.1%)を占めた。一方、「あまり盛んではない」21.0%、「ほとんどない」5.5%を併せると全体の約26.5%であった。また「わからない」23.1%もあった。(図3-1)

問4 地域活動への参加状況

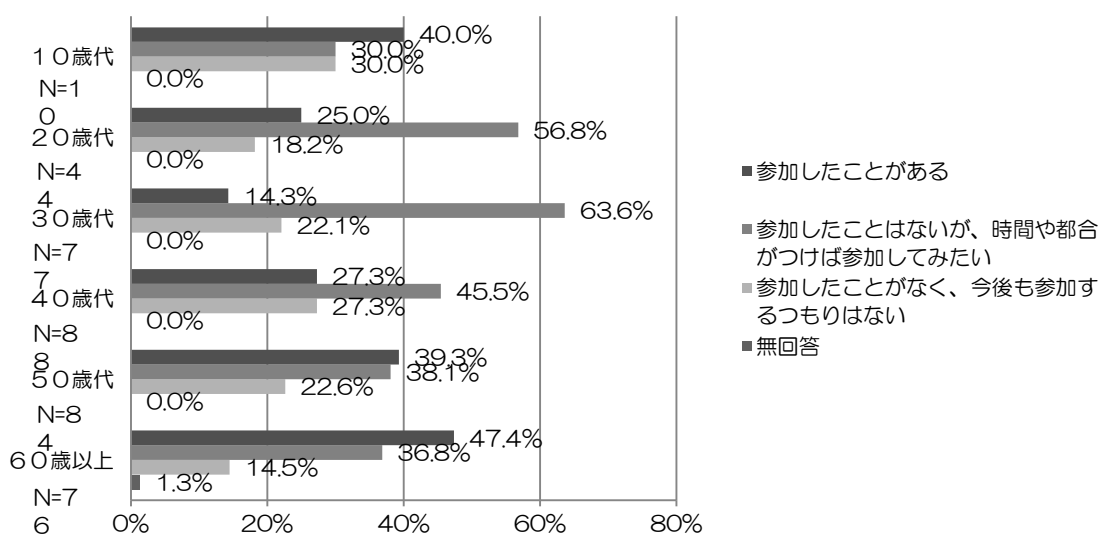
問4 あなたは「地域活動」に参加したことがありますか？（〇は1つ）

【図3-2 地域活動への参加状況】 (N=381)



【図3-3 地域活動への参加状況（年代別）

(%)



「地域活動」への参加状況をたずねたところ、「参加したことがある」31.2%と「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」46.5%を併せると、全体の77.7%を占めた。一方「参加したことがなく、今後も参加するつもりもない」は21.8%であった。(図3-2)

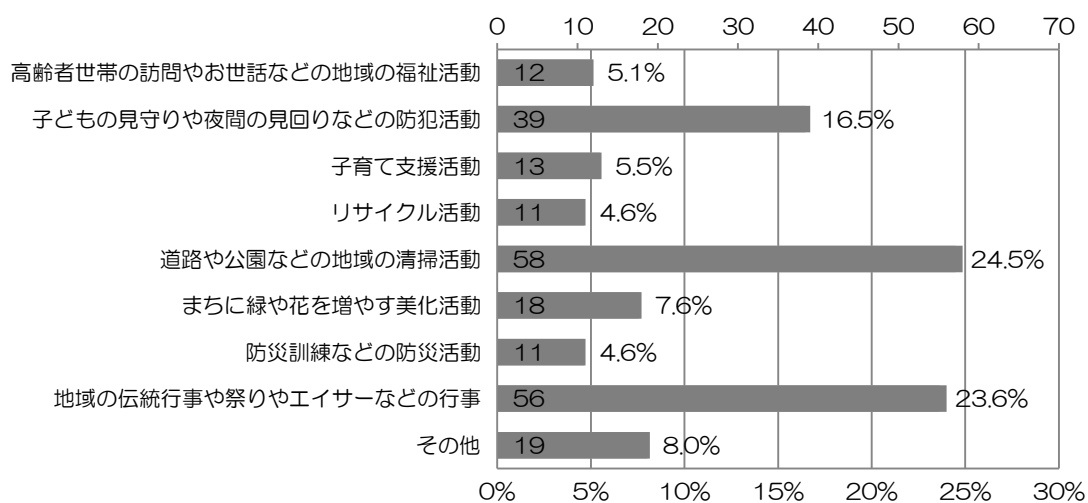
「地域活動」への参加状況を年代別でみると「20歳代」「30歳代」「40歳代」は、「参加したことがある」よりも「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」が多いのに対して、「50歳代」「60歳以上」は「参加したことがある」の方が「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」よりも多い。(図3-3)

問5 参加した地域活動の分野

問5 問4で1.「参加したことがある」とお答えした方におたずねします。どのような「地域活動」に参加しましたか？（あてはまるもの全てに○）

【図3-4 参加した地域活動の分野】

(N=237)



参加した「地域活動」の分野をたずねたところ、「道路や公園などの地域の清掃活動」が24.5%と最も高く、次いで「地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事」23.6%、「子どもの見守りや夜間の見回りなどの防犯活動」16.5%、「その他」8.0%などであった。「その他」と回答したなかには、「小学校における読み聞かせ」、「地域スポーツ大会」、「自治会役員」などがあった。(図 3-4)

問6 参加した地域活動の具体的内容

問6 差支えなければ、問5の地域活動の「地域活動」の具体的内容について記入ください。

【主な意見】 道路や公園などの地域の清掃活動(回答数：25)

●	住んでいる区域の清掃活動。道路や公園、公民館近くのゴミ拾いや草刈りをしました。
●	年に一回の清掃があり、割り当てられた場所をやったことがある

【主な意見】 地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事(回答数：15)

●	子ども会の行事（お泊り会）の手伝いや納涼祭りのエイサーの準備。
●	自治会主催のバザー等の参加及び子ども会エイサーの手伝い

【主な意見】 子育て支援活動(回答数：9)

●	小学校の母親に対して朝食メニューの講習
●	読み聞かせ等参加することで子どもたちの顔も分かるようになりよかった

【主な意見】 子どもの見守りや夜間の見回りなどの防犯活動(回答数：8)

●	小学校のPTA 活動で夜間見回りをやっている（年一回）
●	防犯パトロール

【主な意見】 高齢者世帯の訪問やお世話などの地域の福祉活動(回答数：6)

●	公民館でミニデイサービスのボランティアを20年以上やっている。
●	デイ・サービスにおける紙芝居等

【主な意見】 まちに緑や花を増やす美化活動(回答数：2)

●	公園内の花の植え付けや公民館等の美化活動
●	ロータリーの中の草刈、花の苗植え

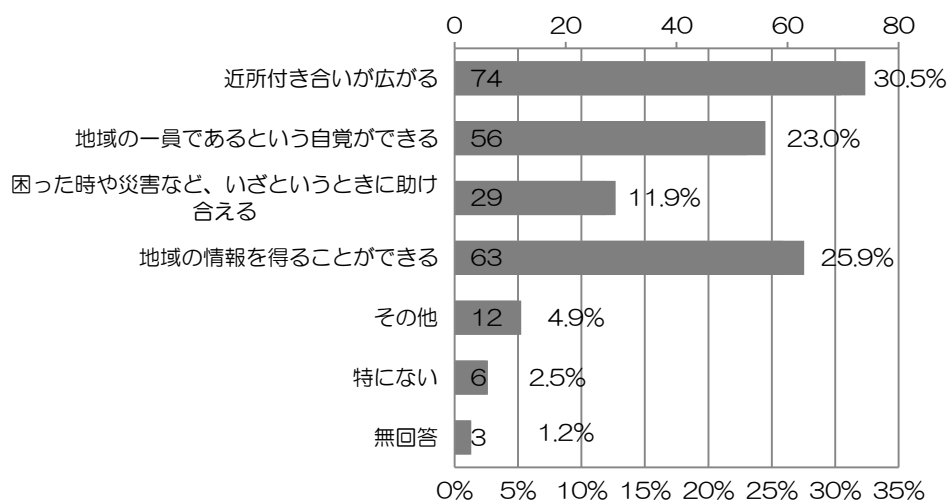
【主な意見】防災訓練などの防災活動(回答数：2)

●	津波の避難訓練
●	防災訓練の計画等

問7 地域活動に参加して良かった点

問7 問4で1.「参加したことがある」とお答えした方におたずねします。「地域活動」に参加して良かった点はどのようなことですか？(あてはまるもの全てに○)

【図3-5 「地域活動」に参加して良かった点】 (N=243)

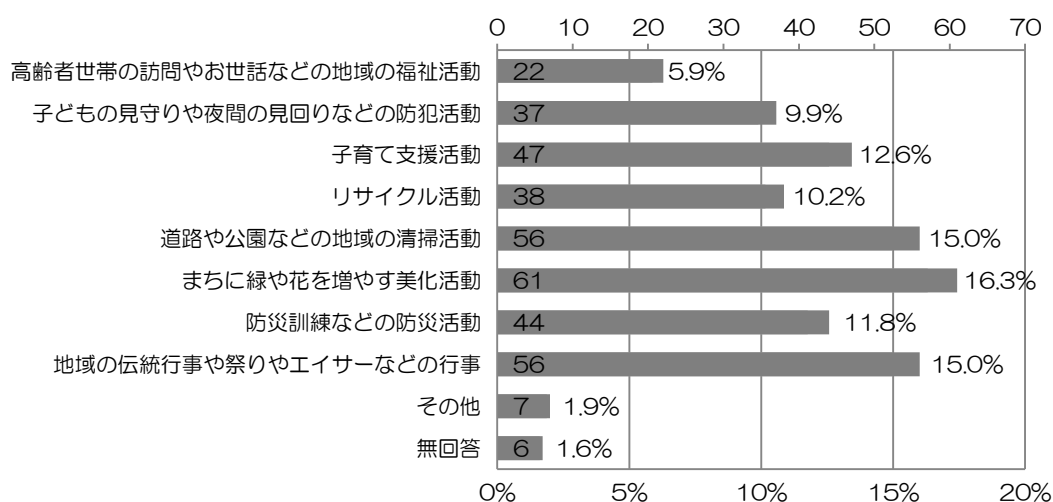


「地域活動」に参加して良かった点をたずねたところ、「近所付き合いが広がる」が30.5%と最も高く、次いで「地域の情報を得ることができる」25.9%、「地域の一員であるという自覚ができる」23.0%、「困った時や災害など、いざというときに助け合える」11.9%などであった。「その他」と回答したなかには、「宜野湾市民としての誇りができた」、「子どもにも公的意識を持ってもらいたい」、「子どもたちの喜びが楽しみになる」との声があった。(図3-5)

問8 今後参加したい「地域活動」の分野

問8 問4で2.「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」とお答えした方におたずねします。今後、どのような「地域活動」に参加したいと思いますか（〇は3つまで）

【図3-6 今後参加したい「地域活動」の分野】 (N=374)

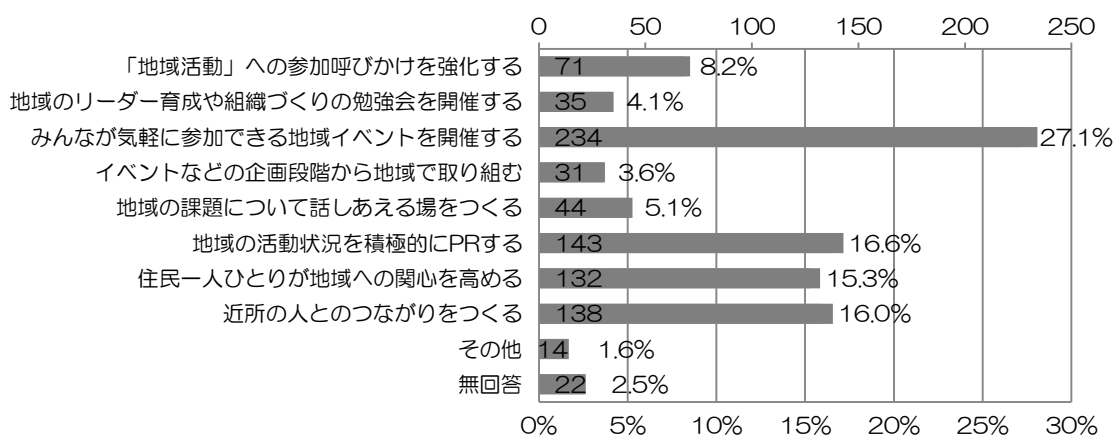


「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」とお答えした方に対して、今後参加したい「地域活動」の分野を尋ねたところ、「まちに緑や花を増やす美化活動」が16.3%と最も高く、次いで「道路や公園などの地域の清掃活動」15.0%、「地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事」15.0%、「子育て支援活動」12.6%などであった。「その他」と回答したなかには、「小学校の読み聞かせ」、「ボランティアで地域のレクリエーションの相手等」、「地域猫などの活動、命の大切さを県民に訴える活動」などがあった。(図3-6)

問9 「地域活動」を活性化するために必要なこと

問9 住んでいる地域の「地域活動」をより活性化するためには、何が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【図3-7 「地域活動」を活性化するために必要なこと】 (N=864)

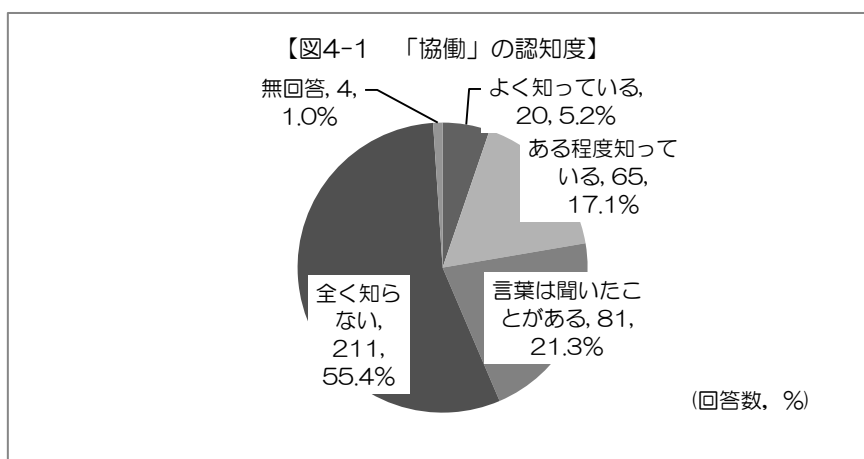


住んでいる地域の「地域活動」をより活性化するためには、何が必要だと思いますかと尋ねたところ、「みんなが気軽に参加できる地域イベントを開催する」が 27.1%と最も高く、次いで「地域の活動状況を積極的に PR する」16.6%、「近所の人とのつながりをつくる」16.0%、「住民一人ひとりが地域への関心を高める」15.3%などであった。「その他」と回答したなかには、「小学校 PTA と共同作業を多くすること」、「地域とのつながりが深まるための仕組みづくり。」などがあった。(図 3-7)

4. 「協働」について

問 10 「協働」の認知度

問 10 あなたは「協働」という言葉を知っていますか (〇は 1 つ)

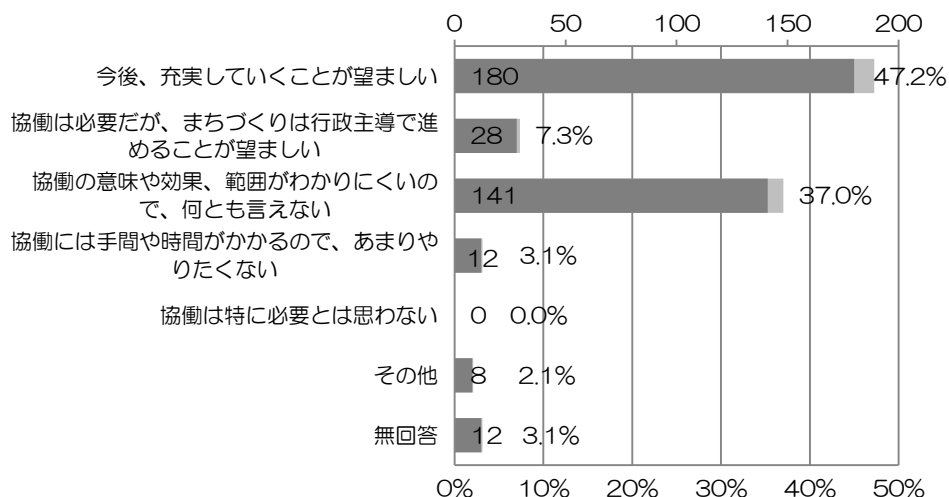


「協働」についての認知度としては、「全く知らない」が 55.4%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」21.3%と併せると、全体の割合の 76.7%を占めた。一方、「良く知っている」5.2%、「ある程度知っている」17.1%で併せると 22.3%であった。(図 4-1)

問 11 「協働」によるまちづくりに対する考え

問 11 宜野湾市では「協働」によるまちづくりを進めよう考えていますが、このことについてどのように考えますか（〇は1つ）

【図4-2 「協働」のまちづくりに対する考え】 (N=381)

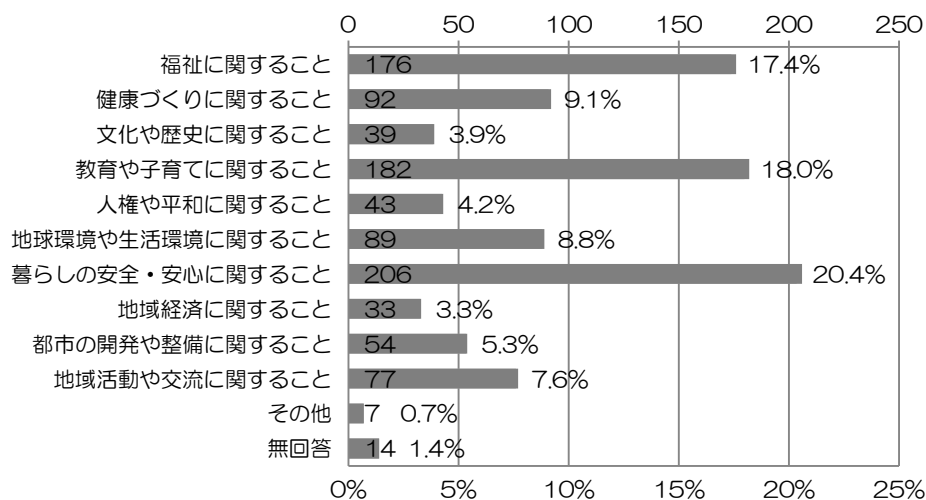


「協働」によるまちづくりについてたずねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が47.2%と最も多く、次いで「協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので何とも言えない」37.0%であった。また「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」7.3%、「協働には手間や時間がかかるので、あまりやりたくない」3.1%もあった。「その他」と回答したなかには「市民みんなで関わった方がいい、規模が多すぎるため小規模なグループをつくったほうがいい。」との意見もあった。（図 4-2）

問 12 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野

問 12 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがあります。今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。（〇は3つまで）

【図4-3 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野】 (N=1012)



「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野についてたずねたところ、「暮らしの安全・安心に関すること」が20.4%と最も多く、次いで「教育や子育てに関すること」18.0%、「福祉に関すること」17.4%などであった。(図4-3)

問13 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的な内容

問13 差し支えがなければ問12でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入下さい。

【主な意見】福祉に関すること

●	児童虐待防止の見守り、独居高齢者の見守りなど。
●	福祉に関する事や教育・子育ては地域に眠っている人材を少しずつ出会える場があっても良いと思う。
●	各地域も高齢化していて、新興住宅地等多種多様な住民がいると思うが、地域活動に全く関与したくない人もいる。その地域の特徴を活かし二ヶ月に一回の持ち寄り食事で一人暮らしの老人を公民館に集め一緒に食事をするなど。
●	高齢化について今後の在り方をどうするか。安心して暮らせるまちづくり

【主な意見】健康づくりに関すること

●	メタボ対策やロコモ対策に小規模かつ多様な視点で取り組む。
●	現役世代を含め、中高年が参加できる時間(夜間)で健康づくりの体操。他の活動(踊り、食育)などがあればよいと思う。
●	健康づくりではもっと気軽に参加できるイベント等があればよいと思う

【主な意見】文化や歴史に関すること

●	遺跡めぐりの歩け歩け大会
●	地域の伝説、伝話、文化遺産などを通して地域愛を高める。
●	博物館での歴史講座(普天満宮の大祭など参加者が多い)などみな関心があるのでは。

【主な意見】教育や子育てに関すること

●	学習塾(寺子屋風)の運営。
●	育てや教育に関して親は同様な悩みを持っている事が多いと思う(ワーク・ライフ・バランスや子どもの行動、食生活、学校生活の事等)講義や勉強会があると嬉しい。
●	企業などでは小・中学生向けの職業体験的なイベントの協力など
●	塾に通えない子(経済的理由)への学習支援を教育機関と連携して行う場合、どちらも負担にならないよう気軽に参加できる環境づくり。

【主な意見】暮らしの安全・安心に関すること

●	不審者や事件の多い世の中になり、子どもを一人で歩かせたり、帰宅させることが心配です。安心して暮らせる宜野湾市のためにパトロール、見回りなど強化していく対策などがあればよいかなと思います。
●	暮らしの安全、地震や津波の時の災害時の対応を知りたい。

【主な意見】都市の開発や整備に関すること

●	まちづくりに関するワークショップの開催（若者を中心として）。普天間基地返還の跡利用について全市的に取組む態勢をつくり、協働のキッカケづくりにする（継続的な協働作業の構築）
---	---

【主な意見】地域活動や交流に関すること

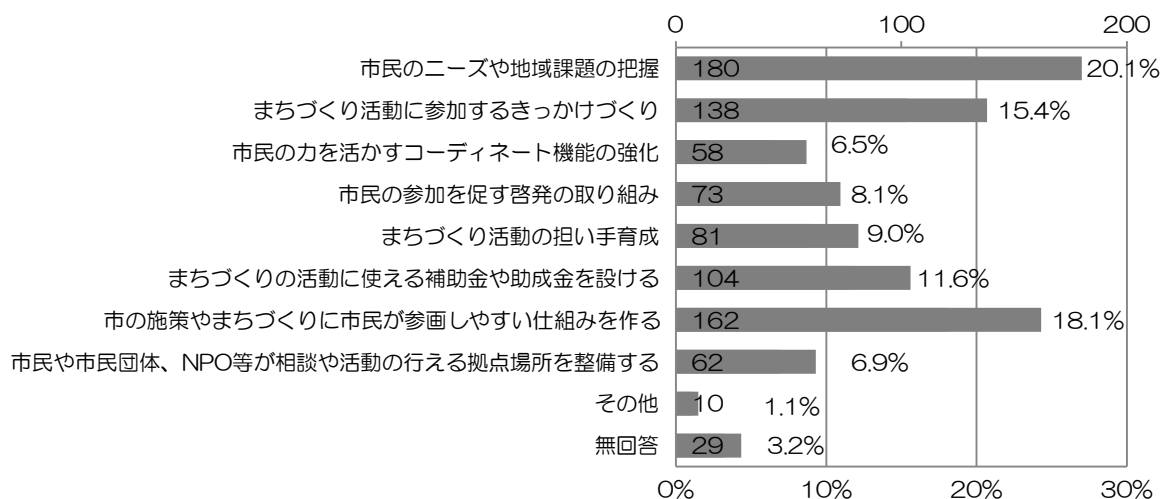
●	人が生活する中で、人との関わりは必要です。中々入ることが難しい人の輪に、地域から声をかけて関わりの窓口を作ってはどうか。
●	地元の人や昔ながらの人は隣近所との付き合いやつながりがあるが、よそから引っ越してきた人にとっては隣人がどのような人なのか知らない人も多く、何か助けが必要な時でも近くにいっても状況が見えず残念なこともあると思うので、地域の人たちとの交流がしやすい環境づくりがあればいいと思います。
●	地域活動に参加することにより、若いお父さんやお母さんが学ぶ事が多くあると思う。
●	世代間の交流の気合を増やすため、高齢者と学童・保育園との関わりを考える。

問 14 「協働」によるまちづくりに対して市に期待すること

問 14 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは何だと思えますか。(〇は3つまで)

【図4-5 「協働」のまちづくりに対して市に期待すること】

(N=897)



「協働」のまちづくりに対して市に期待することについてたずねたところ、「市民ニーズや地域課題の把握」が20.1%と最も多く、次いで「市の施策やまちづくりに市民が参加しやすい仕組みを作る」18.1%、「まちづくり活動に参加するきっかけづくり」15.4%などであった。「その他」と回答したなかには「市民全体に分りやすく説明すること」や「協働は言葉としてわかりづらい」などの意見もあった。(図 4-5)

5. 「自由意見」

問 15 「協働」によるまちづくりについてのご意見、アイデア等

問 15. 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由にご記入ください。

【主な意見】参加しやすい環境づくり

●	単身者としては隣人とある程度の距離を取りたいが、地域社会のつながりは持ちたいと言う微妙な心理があります。そういった声をうまく反映してほしい
●	個人個人が参加しやすいような細かなイベント等があった方がいいと思います。
●	若い人が参加しやすい環境を作ってもらえば

【主な意見】「協働」のきっかけづくりについて

●	協働によるまちづくりがすごく大切だと感じますが地域に住んでいるとイマイチ関わっていません。” やりたいんだけど”” 興味はあるんだけど” 地域活動に参加できない。きっかけがわかると良いですね。
●	働き方の多様化や普通に65歳まで働ける時代になった今日では、協働に参加してくれる働き盛りの40～50代の人材の確保がむずかしいと思いますが、人的資源を協働に活用するきっかけづくりが必要だと思います。分野ごとの人材バンクの作成、研修会等。
●	宜野湾市の地域課題を一つ一つ解決するためには幅広い年齢層を集め、意見交換、提案などしていくことで、みんなで「協働」できるきっかけづくりはできるかなと思う
●	まちづくり（特に子どもに関する）には興味がありますが、時間を作る大変さと情報のなさを言い訳に参加できない状況です。更に近所づきあいも薄く、活動がある事を知っても、参加しづらいかなと正直思います。私自身の勇気と頑張りも必要ですが、きっかけがあるといいなと思います。
●	市民が協働に対して取り組みやすいようなキャッチフレーズを作って参加しやすくするのも必要だと思う。

【主な意見】「情報提供」について

●	住んでいる地域についていろいろ知りたい、情報を提供することで住んでいる地域の
---	--

	理解が深くなると思う。
●	集合住宅に住んでいるので、コミュニティに関する情報がほとんど入らない。

【主な意見】 新たな枠組みづくり

●	現在の地域活動は主に自治会単位で行われていると思うのですが、それは広範囲になりすぎて（広域）になりすぎて高齢者や子どもにとって参加しにくいところがある。4～5ブロック（地番）をまとめた小さな単位で隣組を組織し大人の指導者を育成して指導者の指揮の元、子ども、青年、成人、高齢者とそれぞれの世代に添って交流イベントや地域美化、文化活動を行っていくことにより地域再建ができるのではないかとと思われる。
---	---

6. まとめと今後の課題（市民対象）・・・有効回答数 381/1,500 回収率 25.4%

(1) 地域への「愛着」などについて【問 1～問 2】

●市民の半数以上が地域への「愛着」を感じている

【問 1】で住んでいる地域への「愛着」等についてたずねたところ、「非常に感じる」14.4%と「ある程度感じる」51.4%を併せると全体の半数以上（65.8%）であった。一方で「あまり感じない」18.1%、「ほとんど感じない」7.9%を併せると全体の26%であった。

【問 2】で具体的にどのようなところに「愛着」や「誇り」、「良い点」や「好きなところ」などを感じているかたずねると、分野別では、「立地環境の良さ」を答える方が最も多く、次いで「生まれ育った・住み慣れた愛着」、「人のやさしさ、つながり」「安心、安全なところ」の順となった。

●最も多いのは、「立地環境が良い点」、次いで「生まれ育った・住み慣れた愛着」

「立地環境の良さ」としては、「海や田芋畑、大学施設、商業施設などが立地している環境」や「北部や南部へのアクセス環境」を挙げており、次いで「生まれ育った・住み慣れた愛着」では、「もともと住んでいるから安心感・落ちつくところ」を挙げていた。「人のやさしさ、つながり」では、「地域公民館を中心とした従来在地縁による結びつき」が挙がる一方で「地域の間人間関係に束縛されずに受け入れてくれる地域性」の意見も挙がった。「安心、安全なところ」では、「防犯パトロールを夕方家の周りでやってくれるので安心感がある」が挙がっていた。

今後、本市の立地環境は、基地跡地利用によって、ますます充実することが予想される。これからものまちづくりでは、立地環境が充実する一方で、地域への愛着を生み出す取り組みや地域に見合った絆やつながりを育む仕組みづくりが必要である。

(2) 地域活動について【問 3～問 9】

●「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加したみたい」46.5%

【問 3】で住んでいる地域の「地域活動」をたずねたところ、「非常に盛ん」「ある程度盛ん」を併せると、全体の約半数であった。

【問 4】で「地域活動」に参加したことがあるかについてたずねたところ、「参加したことがある」31.2%、「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加したみたい」46.5%であった。今後、これらの潜在的に活動する可能性のある人が参加しやすいような環境づくりを整えることで、「地域活動」参加者拡大につながると思われる。

●イベント的な要素を持つ地域活動への参加が多いが、福祉・子育て支援の分野の活動は参加が少ない。

【問 5】で参加した「地域活動」の分野をたずねたところ、「道路や公園などの地域の清

掃活動」が 24.5%と最も高く、次いで「地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事」23.6%、「子どもの見守りや夜間の見回りなどの防犯活動」16.5%の順であった。

一方、「高齢者世帯の訪問やお世話などの地域の福祉活動」5.1%、「子育て支援活動」5.5%の分野の参加率は低い傾向にあった。イベント的な要素を持つ活動に比べ、福祉分野や子育て支援の活動のような個別的・継続的な取り組みが必要な活動は参加がしにくい状況となっている。

●地域活動から「近所付き合い」や「助け合い」、「地域情報」を得る

【問7】で「地域活動」に参加して良かった点をたずねたところ、「近所付き合いが広がる」が30.5%と最も高く、次いで「地域の情報を得ることができる」25.9%、「地域の一員であるという自覚ができる」23.0%、「困った時や災害など、いざというときに助け合える」11.9%の順となっている。これらは地域活動に参加することによって得られる最大の効果(メリット)である。今後、「地域活動」へ参加したことの無い人に、このような効果(メリット)を伝え、「地域活動」の参加の輪を広げる取り組みが必要である。

●参加したい地域活動は「美化活動」、「清掃活動」、「伝統行事や祭り行事」

【問8】で「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」と答えた方を対象に、今後参加したい「地域活動」の分野についてたずねたところ、「まちに緑や花を増やす美化活動」が16.3%と最も高く、次いで「道路や公園などの地域の清掃活動」15.0%、「地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事」15.0%であった。「地域活動」に参加する第一歩としては、イベント的な要素を持つ分野の活動が入りやすいと考えられる。

●参加しやすい地域イベントの開催と地域活動情報の発信

【問9】で住んでいる地域の「地域活動」をより活性化するためには、何が必要かとたずねたところ、「みんなが気軽に参加できる地域イベントを開催する」が27.1%と最も高く、次いで「地域の活動状況を積極的にPRする」16.6%、「近所の人とのつながりをつくる」16.0%、「住民一人ひとりが地域への関心を高める」15.3%などであった。今後「地域活動」への参加の裾野を広げるためには、気軽に参加できるような環境づくりを行なう一方、地縁・地域の組織に属していなくても、簡単に地域の活動状況やイベントを知ることができる情報発信の仕組みづくりが必要である。

(3)「協働」について【問10～問15】

●「協働」という言葉は、「全く知らない」が半数以上

【問10】で「協働」という言葉の認知度をたずねたところ、「全く知らない」が55.4%を占めた。「言葉は聞いたことがある」21.3%と併せると、全体の76.7%が「協働」の内容や意味を知っていない。今後、「協働」によるまちづくりを進めていくためには、広報等

で分かりやすい表現を用いて、概念や用語説明、事例紹介など周知・啓発を進めていくことが必要である。

●「協働」によるまちづくりについては賛同するものの、協働の意味や効果、範囲がわからない

【問 11】で「協働」によるまちづくりについてたずねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が47.2%と最も多く、次いで「協働の意味や効果、範囲がわかりにくので何とも言えない」37.0%であった。「協働」によるまちづくりについては肯定するものの、それ以前に、協働の意味や効果、範囲がわからないので判断できないと読み取ることができる。「協働」によるまちづくりを進めるためには、今後の「協働」の意味や必要性を理解する学習機会の提供や広報などを用いた啓発活動が必要である。

●「協働」が必要な分野は「暮らしの安全・安心」「教育・子育て」「福祉」が上位。

【問 12】で「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野についてたずねたところ、「暮らしの安全・安心に関すること」が20.4%と最も多く、次いで「教育や子育てに関すること」18.0%、「福祉に関すること」17.4%などであった。

【問 13】で具体的にたずねると「暮らしの安全・安心に関すること」では、「不審者や事件の世の中になり、子どもの安全、安心した暮らしのためのパトロール、見回り」や「地震や津波などの災害時の対応」が挙げられた。「教育や子育てに関すること」では、「経済的理由により塾に通えない子に対する学習支援の環境づくり」や「企業における小中学生向けの職業体験」が挙げられた。「福祉に関すること」では「児童虐待防止、独居高齢者世帯の見回り」や「子育て」が挙げられた。どれも市民生活でニーズの高い分野であると共に、地域の協力やつながりがなくては解決することができない分野であるので、今後、特に「協働」による活動推進を図る取り組みが必要である。

●市に期待することは「市民ニーズ・地域課題の把握」と「市民が参加しやすい仕組み・きっかけづくり」

【問 14】で「協働」のまちづくりに対して市に期待することについてたずねたところ、「市民ニーズや地域課題の把握」が20.1%、「市の施策やまちづくりに市民が参加しやすい仕組みを作る」18.1%、「まちづくり活動に参加するきっかけづくり」15.4%などであった。「市民ニーズ・地域課題の把握」は当然であるが、「市民が参加しやすい仕組みやきっかけづくり」については、今後、多くの市民が参加できるような、地域の事情に見合った仕組みづくりが必要である。

Ⅱ-2 調査結果

自治会対象

1. 基本属性

問1 自治会名

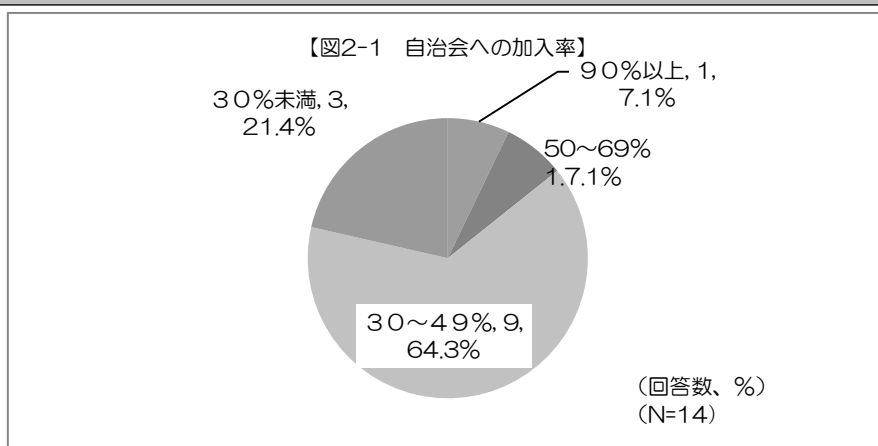
問1 自治会名をご記入ください。

14自治会から回答があった。

2. 自治会への加入状況

問2 自治会への加入率

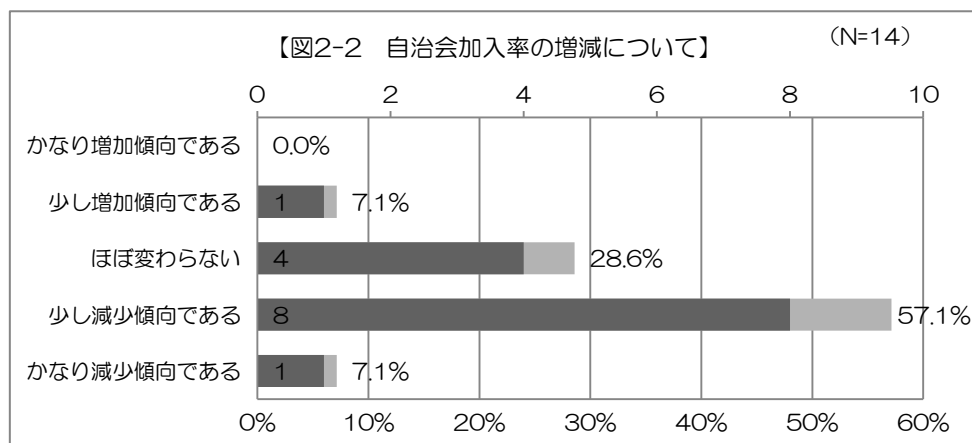
問2 自治会への加入率はどれくらいですか。(〇は1つ)



自治会への加入率についてたずねたところ、「30~49%」9自治会と最も多く、次いで、「30%未満」3自治会であった。「90%以上」1自治会、「50~69%」1自治会、などであった。(図2-1)

問3 自治会への加入率の増減

問3 自治会への加入率の増減についてお伺いします。(〇は1つ)

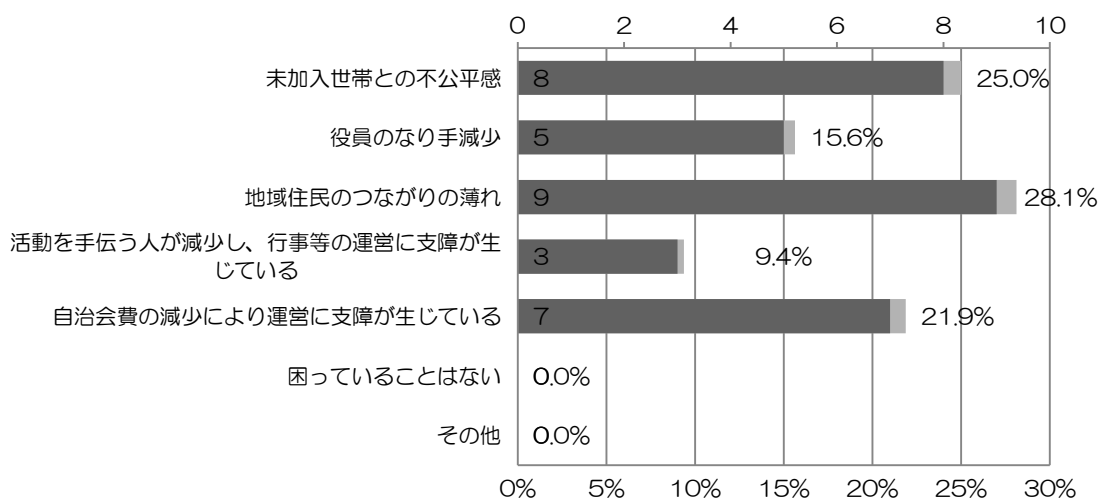


自治会への加入率の増減についてたずねたところ、「少し減少傾向である」8自治会が最も多く、次いで「ほぼ変わらない」4自治会であった。(図2-2)

問4 加入率が低下して困っていること

問4 問3で4.「少し減少傾向である」、若しくは、5.「かなり減少傾向である」とお答えした自治会におたずねします。加入率が低下したことで困っていることは何ですか？(当てはまるもの全てに○)

【図2-3 加入率低下で困っていること】 (N=32)

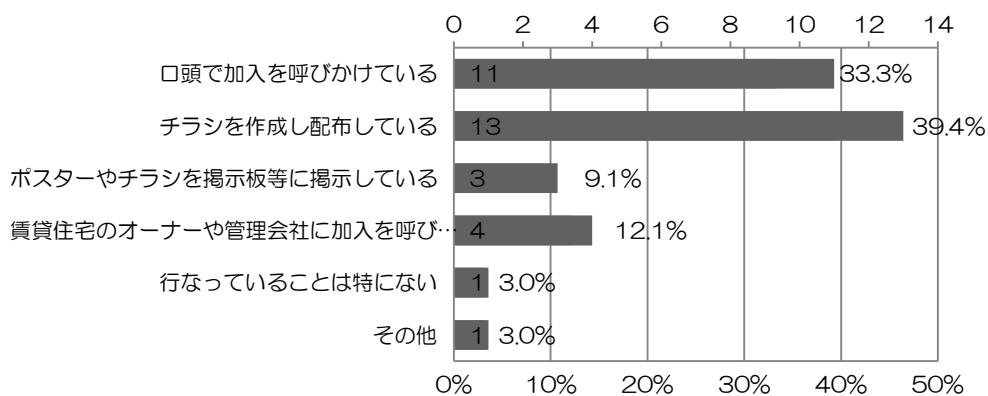


加入率が低下して困っていることについてたずねたところ、「地域住民のつながりの薄れ」9自治会が最も多く、次いで「未加入世帯との不公平感」8自治会、「自治会費の減少により運営に支障が生じている」7自治会などであった。(図2-3)

問5 加入促進のために行っていること

問5 自治会への加入促進のために自治会独自で行っていることはありますか？(当てはまるもの全てに○)

【図2-4 加入促進のために独自で行っていること】 (N=33)



加入促進のために独自で行っていることについてたずねたところ、「チラシを作成し配布している」13自治会、「口頭で加入を呼びかけている」11自治会、「賃貸住宅のオーナーや管理会社に加入を呼びかけている」4自治会などであった。「その他」と回答したなかには、「横断幕、ノボリを設置」との意見もあった。(図2-4)

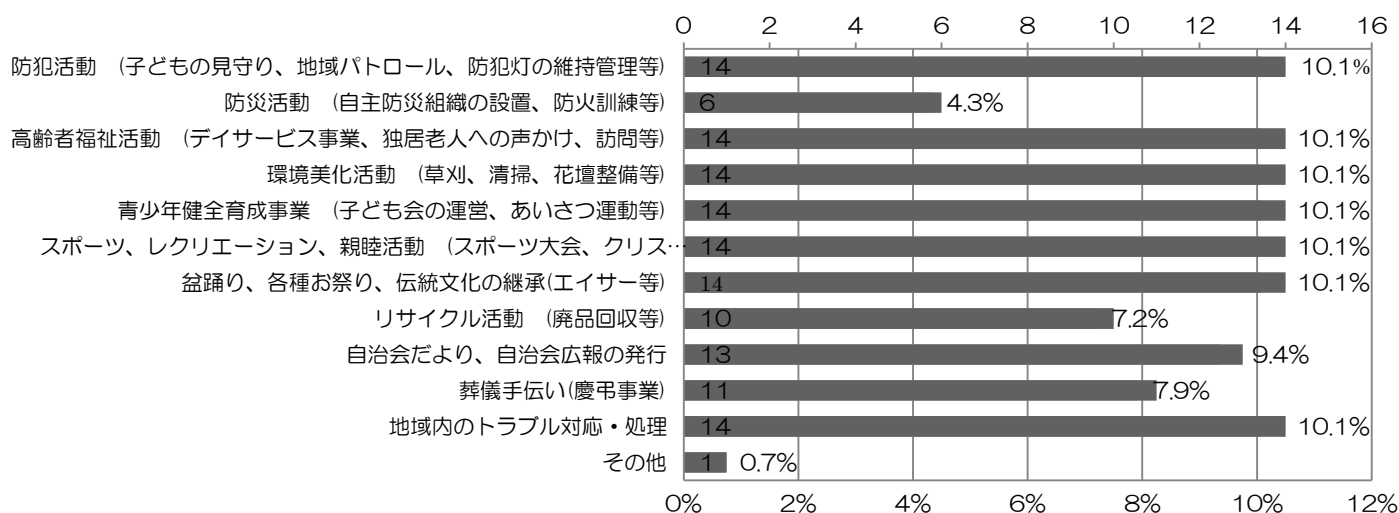
3. 自治会の活動状況及び課題

問6 行なっている活動・事業の分野

問6 自治会で行っている活動・事業について当てはまるものに○をつけてください。(当てはまるもの全てに○)

【図3-1 自治会で行っている活動・事業】

(N=139)



自治会が行っている活動・事業の分野についてたずねたところ、「防犯活動」、「高齢者福祉活動」、「環境美化活動」、「青少年健全育成事業」、「スポーツ、レクリエーション、親睦活動」、「盆踊り、各種お祭り、伝統文化の継承」、「地域内のトラブル対応・処理」などが14自治会、「自治会だより、自治会広報の発行」13自治会、「葬儀手伝い」11自治会など、多方面の分野で自治会活動が行われている。また、「その他」と回答したなかには「ラジオ体操サークル」との回答もあった。(図3-1)

問7 今後、積極的に取り組みたい活動

問7 今後、自治会活動において、積極的に取り組んでみたい活動がありましたら、ご記入ください。

【取り組みたい活動】美化活動

●	環境美化活動 (草花の植え付け、花木の植え付け)
●	全区民・企業・店舗等を巻き込んだ、クリーン活動・花植え等の環境美化活動

●	県道、市道への美化運動、花いっぱい運動を展開している。老人クラブ等の協力を得ながら区の行事、区内清掃（年二回）と連携して進めている。
---	--

【取り組みたい活動】 つながり・交流に関すること

●	子ども会（小学生・中学生）の育成、伝統文化の歌や三線等の継承
●	小・中学校区の自治会と学校との交流会
●	自治会へ加入してよかったと思えるような行事・活動。

【取り組みたい活動】 自治会加入強化に関すること

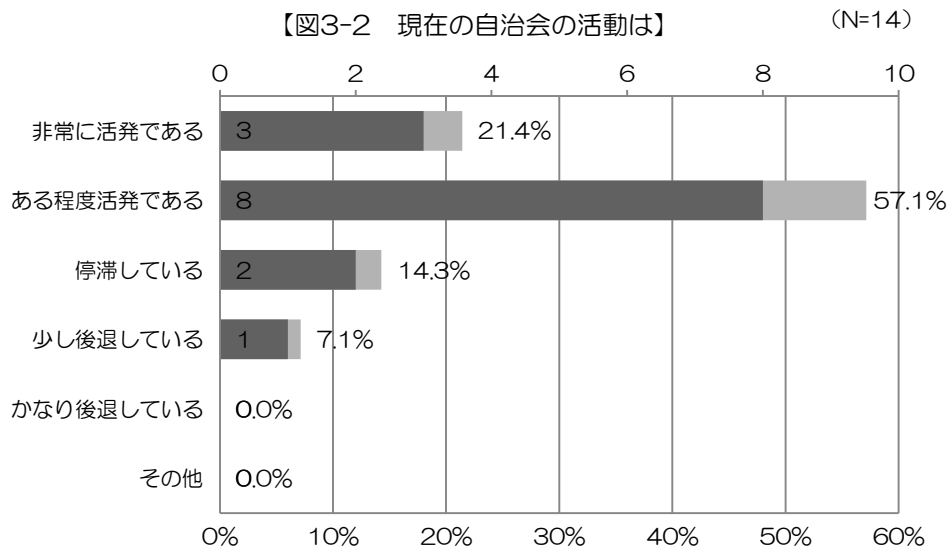
●	自治会費の条例化
●	自治会員加入促進、30～50代の団体づくり

【取り組みたい活動】 その他

●	フリーマーケット
---	----------

問8 現在の自治会の活動状況

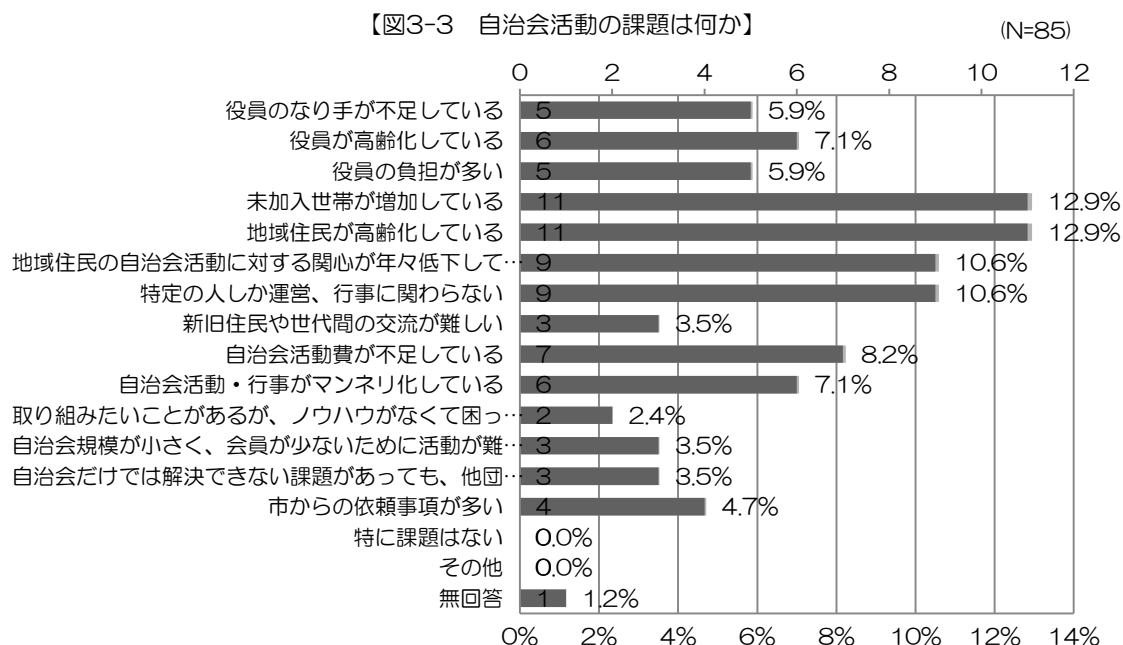
問8 現在の自治会の活動状況はどう感じていますか？（〇は1つ）



現在の自治会の活動についてたずねたところ、「ある程度活発である」8自治会、「非常に活発である」3自治会であった。一方、「停滞している」2自治会、「少し後退している」1自治会となっている。（図3-2）

問9 自治会活動を行っていく上での課題

問9 自治会活動を行っていく上で、課題となっていることは何ですか。(当てはまるものを全てに○)



自治会活動を行っていく上での課題をたずねたところ、「未加入世帯が増加している」、「地域住民が高齢化している」11自治会と最も多く、次いで「地域住民の自治会活動に対する関心が年々低下している」、「特定の人しか運営、行事に関わらない」9自治会、「自治会活動費が不足している」7自治会などであった。(図3-3)

問10 課題をどのように解決したいと思うか

問10 問9の課題について、どのように解決したいと思いますか。ご記入ください。

【取り組みたい活動】自治会加入強化・広報に関すること

●	会員を増加して会費徴収を上げる。班長不在の所があり、自治会長か書記の方で徴収強化する。
●	子育て世代や、40代・50代の会員の方々、非会員の方々へ声掛けをし、自治会行事への参加を促す。楽しく利用できることを伝えたい。
●	宜野湾市の自治会すべてで取り組まないといけないと感じる。自治会離れが急速のため。
●	自治会活動の広報に力を入れたい（ホームページを立ち上げるなど）。メリット・デメリットという点を質問されることが多いため、役員で細かく話し合い、自治会の必要性について自信を持って伝えていけるような基盤を作っていきたい。

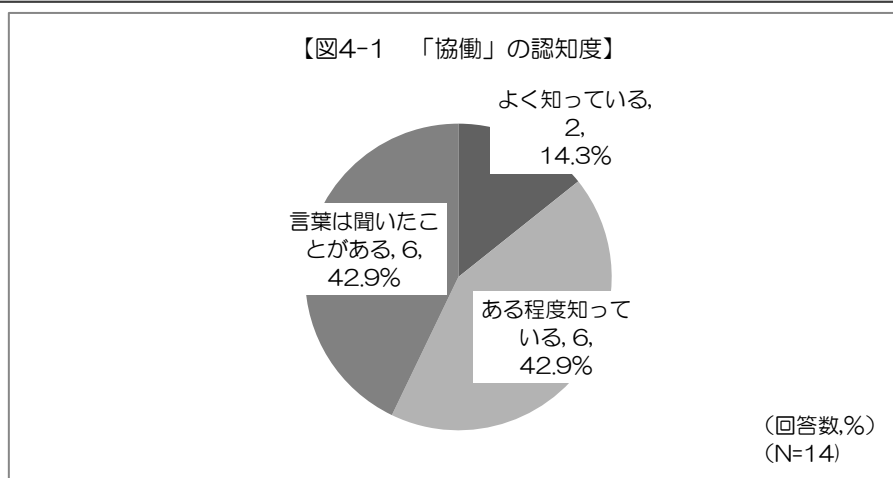
【取り組みたい活動】事業の活性化

●	行事についてはマンネリ化しないように常に新しい企画を計画し、参加者を増やす努力をしている。
●	湧水を利用した水道事業を起こして収入強化につなげたい。

4. 「協働」について

問 1 1 「協働」の認知度

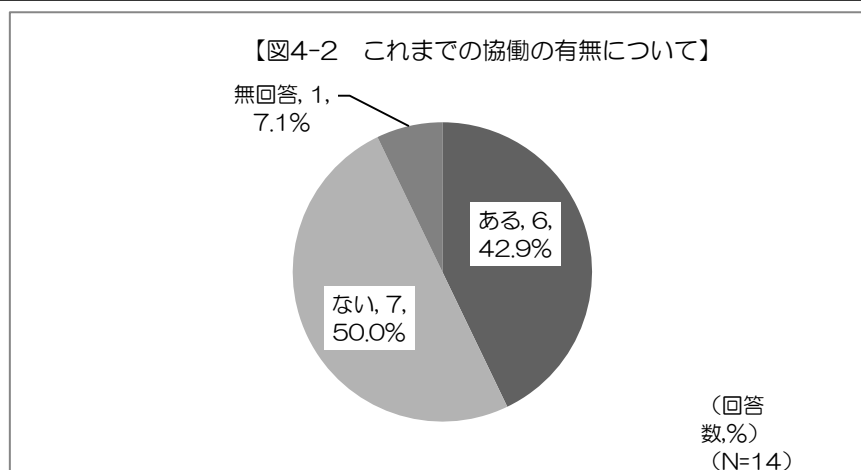
問 1 1 「協働」と言う言葉を知っていますか。(〇は1つ)



「協働」についての認知度としては、「ある程度知っている」が6自治会と最も多く、次いで「よく知っている」2自治会と合わせると、割合が半数以上を占めた。一方、「言葉は聞いたことがある」6自治会となっていた。(図4-1)

問 1 2 これまでの「協働」有無について

問 1 2 これまでの自治会活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業、教育機関(大学)、市役所などと協働したことがありますか。(〇は1つ)



これまでの「協働」の有無についてたずねたところ、「ある」6自治会、「ない」7自治会であった。(図 4-2)

問13 これまでの「協働」した具体的内容

問13 差し支えがなければ、問12の協働した具体的な内容について、ご記入ください。

【これまで協働した具体的内容】福祉に関すること

●	地域を良くする、その一環として「地域支え合い活動委員会」をつくり宜野湾社会福祉協議会の担当職員のコーディネートのもと、おおいに活かされている
●	独居見守り
●	社協（ミニデイサービス、地域支え合い活動）。

【これまで協働した具体的内容】地域清掃に関すること

●	草刈り作業
●	台風19号の被害による倒木の後片付けを市の職員と委託業者、そして区民の方と一緒にやって行った

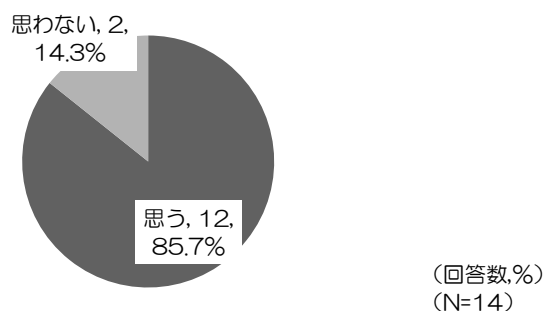
【これまで協働した具体的内容】暮らしの安全・安心に関すること

●	防犯協会・青少協（夜間パトロール、昼（万引き防止等）パトロール）。
---	-----------------------------------

問14 今後「協働」してみたいと思うか

問14 今後の自治会活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業や教育機関(大学)、市役所などと協働してみたいと思いますか。(〇は1つ)

【図4-3 他の団体（NPO、ボランティア、市民団体）や企業や教育機関（大学）、市役所などと協働したいと思いますか】



今後の自治会活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業や教育機関(大学)、市役所などと協働してみたいと思いますかとたずねたところ、「思う」12自治会、「思わない」2自治会であった。(図 4-3)

問 15 今後「協働」したい具体的内容

問 15 差し支えがなければ、問 14 の協働してみたい具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

【主な協働してみたい具体的内容】地域清掃・環境整備に関すること

●	区域内の歩道内の植栽帯は、花の植え付けが少なく、5～10月までは草が茂って見苦しい。今後そのスペースを有効に活かしたい。
●	例えば区内清掃での草刈り、花植え、美化活動
●	市道と米軍基地フェンス沿いの空き地の環境整備

【主な協働してみたい具体的内容】暮らしの安全・安心に関すること

●	東北等でもボランティアを経験した学生に避難、避難所生活等の訓練に参加してもらいたい。市の職員にも積極的に住んでいる地域の行事に参加してほしい、何をしているかわからないという前に知ろうとすることが大切では
---	---

【主な協働してみたい具体的内容】子育て・教育に関すること

●	子どもたちの放課後の過ごし方
●	子ども会及び会員の少ない青少年の育成をしたい。

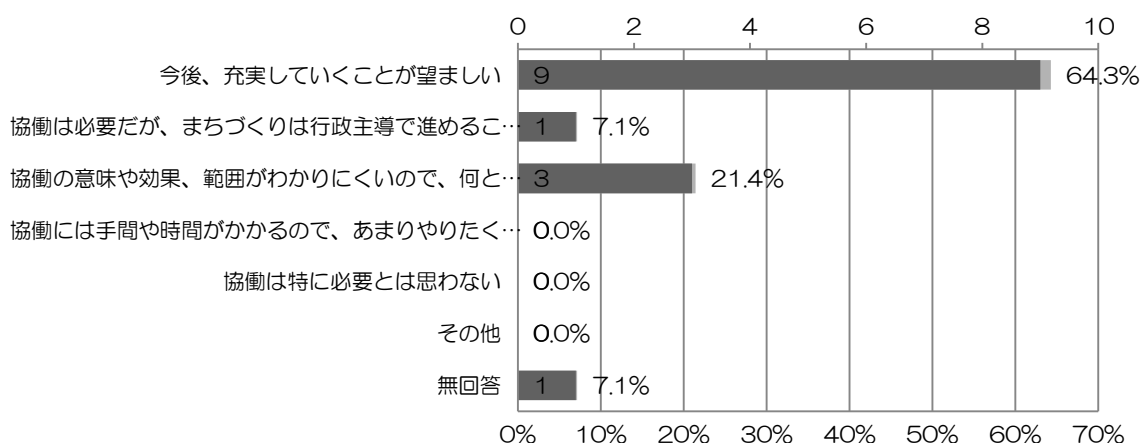
【主な協働してみたい具体的内容】自治会事業の充実

●	大学等へ出かけての地域交流等勉強会を行いたい。
●	サークル活動の活性、地域住民の拠点づくり
●	湧水を活用した水道事業を確立することに「協働」を取り組みたい

問 16 「協働」によるまちづくりに対する考え

問 16 宜野湾市では、「協働」によるまちづくりを進めようと考えていますが、このことについてどのように考えますか。(〇は1つ)

【図4-4 「協働」のまちづくりをすすめることについて】 (N=14)

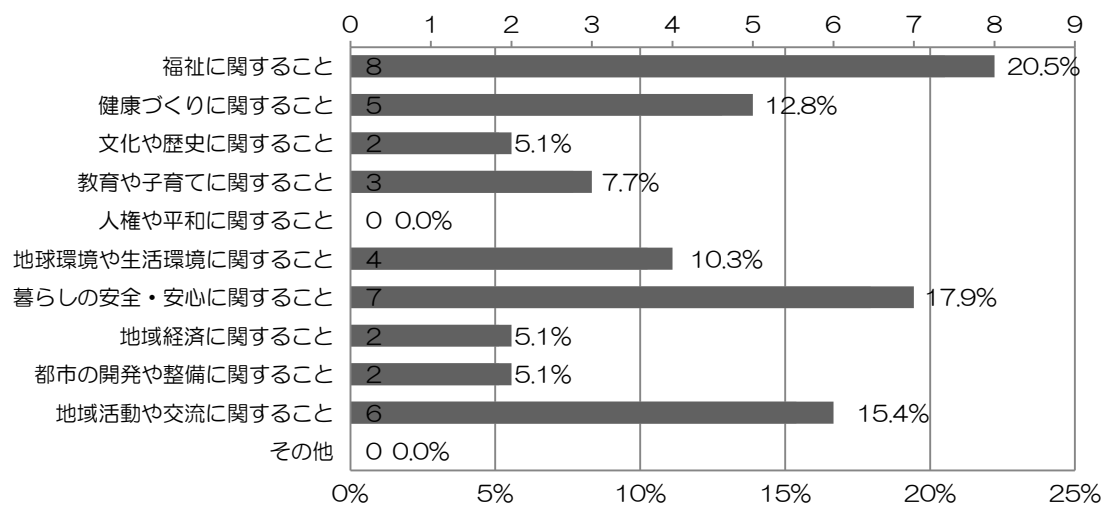


「協働」によるまちづくりについてたずねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が9自治会と最も多かった。「協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので何とも言いえない」3自治会、「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」1自治会となった。(図4-4)

問 17 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野

問 17 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがあります。今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(〇は3つまで)

【図4-5 今後「協働」で取り組む必要(有効)な分野】 (N=39)



「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野についてたずねたところ、「福祉に関すること」8自治会、次いで「暮らしの安全・安心に関すること」7自治会、「地域活動や交流に関すること」6自治会、「健康づくりに関すること」が5自治会などとなっている。(図4-5)

問18 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的な内容

問18 . 問17でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

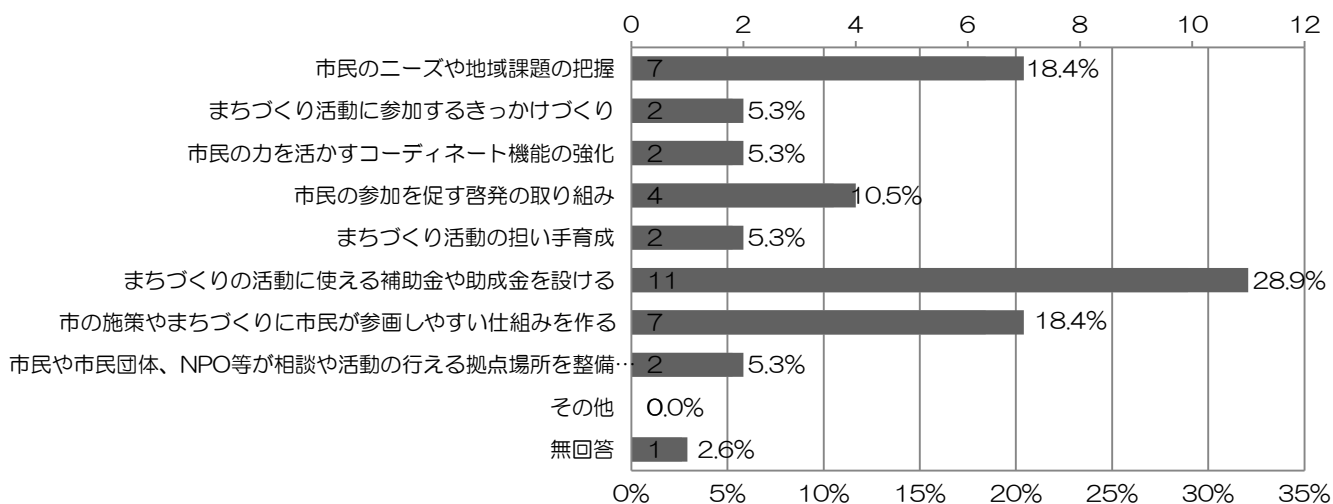
【主な意見】福祉に関すること

●	高齢者宅の行政との見回り
●	福祉や教育・子育てに関する事を、各校区ごとに学校や公民館で行う（地域懇談会のなかに講演会やストレッチ教室（健康講話）等、各世代が興味を持てるようなカリキュラムを組む）。大学生（高校生）に企画を持ちかけて、地域の中で活かしていく。

問19 「協働」によるまちづくりに対して市に期待すること

問19 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは何だと思えますか。(〇は3つまで)

【図4-6 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは】 (N=38)



「協働」のまちづくりに対して市に期待することについてたずねたところ、「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」が11自治会と最も多く、次いで「市民のニーズや地域課題の把握」7自治会、「市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みを作る」7自治会などであった。(図4-6)

4. 「自由意見」

問20 「協働」によるまちづくりについてのご意見、アイデア等

問20 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由に記入ください。

【主な意見】情報共有・意見交換について

●	シンボリックな何か。行政との情報交換
●	目標の共有化（各主体が共有できる目標設定）
●	似たような活動が多いので、役割等をはっきりすれば市民が分りやすく必要性が増すと思います。

【主な意見】自治会活動への参加呼びかけ

●	地域人材の掘り起し、若い世代の地域活動への参加協力が自治会の大きな課題です。「協働」が解決の突破口になればと思います。
---	---

6. まとめと今後の課題（自治会対象）・・・有効回答数 14/23 回収率 60.9%

(1)自治会への加入状況【問 2～問 5】

●回答のあった自治会の内、12 自治会で加入率 50%以下。9 自治会で減少傾向。

【問 2】で自治会の加入率についてたずねたところ、回答のあった 14 自治会の内、「30～49%」が 9 自治会と最も多く、次いで「30%未満」3 自治会であった。「90%以上」1 自治会、「50～69%」1 自治会などであった。

【問 3】で自治会への加入率の増減についてたずねたところ、「かなり減少傾向である」1 自治会、「少し減少傾向である」8 自治会、「ほぼ変わらない」4 自治会であった。「少し増加傾向である」は 1 自治会であった。

回答のあった自治会の内、12 自治会で加入率 50%を下回っており、9 自治会で加入率が減少している。

●加入率低下により「地域のつながりの薄れ」や「未加入世帯との不公平感」「自治会費の減少」や「人材不足」などの課題

【問 4】で加入率が低下して困っていることについてたずねたところ、「地域住民のつながりの薄れ」9 自治会、次いで「未加入世帯との不公平感」8 自治会、「自治会費の減少により運営に支障が生じている」7 自治会、「役員のなり手」5 自治会や「活動を手伝う人が減少し、行事等の運営に支障が生じている」3 自治会であった。

【問 5】加入促進のために独自で行っていることについてたずねたところ、「チラシを作成し配布している」13 自治会、「口頭で加入を呼びかけている」11 自治会、「賃貸住宅のオーナーや管理会社に加入を呼びかけている」4 自治会などであった。「その他」と回答したなかには、「横断幕、ノボリを設置」が挙がっていた。

今後も自治会加入率を下げさせないよう継続して加入促進を行うことと共に、効果的に自治会活動を PR する仕組みが必要である。

(2)自治会の活動状況及び課題【問 6～問 10】

●子どもの見守りから高齢者福祉、環境美化、レク、文化と多方面の分野で幅広い活動を展開

【問 6】で自治会が行っている活動・事業の分野についてたずねたところ、「防犯活動」、「高齢者福祉活動」、「環境美化活動」、「青少年健全育成事業」、「スポーツ、レクリエーション、親睦活動」、「盆踊り、各種お祭り、伝統文化の継承」、「地域内のトラブル対応・処理」などに 14 自治会、「自治会だより、自治会広報の発行」13 自治会、「葬儀手伝い」11 自治会など、多方面の分野で幅広い自治会活動・事業が行われている。

【問 7】で今後、積極的に取り組みたい活動についてたずねたところ、美化活動が最も多

く、「企業や店舗を巻き込んだクリーン活動」や「県道、市道への美化運動」の他にも「自治会へ加入してよかったと思えるような行事・活動」、「フリーマーケット」も挙げていた。

●11 自治会で「住民の高齢化」、9 自治会で「特定の人しか運営、行事に関わらない」などの課題

【問 8】で現在の自治会の活動についてたずねたところ、「ある程度活発である」8 自治会、「非常に活発である」3 自治会であった。一方、「停滞している」2 自治会、「少し後退している」1 自治会であった。

【問 9】で自治会活動を行っていく上での課題をたずねたところ、「未加入世帯が増加している」、「地域住民が高齢化している」11 自治会と最も多く、次いで「地域住民の自治会活動に対する関心が年々低下している」、「特定の人しか運営、行事に関わらない」が 9 自治会、「自治会活動費が不足している」7 自治会であった。

【問 10】で【問 9】の課題をどのように解決したいと思うかとたずねたところ、「自治会加入強化・広報」として、「未加入世帯への声掛けや自治会の必要性の周知」を挙げていた。また「事業の活性化」として「行事がマンネリ化しないよう新しい企画の立ち上げ」も挙げていた。

●団塊世代の掘り起しや NPO やボランティア組織、企業や大学の地域貢献活動とつなぐ

今後、地域住民の高齢化やライフスタイル、価値観の多様化により、自治会においては加入世帯の減少や役員のなり手不足といった課題に向き合わなければならない。今後も継続して自治会活動を行っていくためには、引き続き、会員加入活動を図る一方、団塊世代の地域人材の掘り起しや、地域活動を一緒に担う NPO やボランティア、企業や大学との地域貢献活動などとの連携・協力が必要である。

(3) 「協働」について【問 11～問 20】

●「協働」という言葉は、「ある程度知っている」「よく知っている」が半数以上

【問 11】で「協働」という言葉の認知度をたずねたところ、「ある程度知っている」が 6 自治会と最も多く、次いで「よく知っている」2 自治会と併せると、回答のあった自治会の半数以上を占めた。一方、「言葉は聞いたことがある」6 自治会であった。

今後、「協働」によるまちづくりを進めていくためには、分かりやすい表現を用いて、概念や用語説明、事例紹介など周知・啓発が必要である。

●12 自治会が「協働」したい。大学などと地域交流等勉強会を行いたい。

【問 14】で、今後の自治会活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業や教育機関(大学)、市役所などと協働してみたいかとたずねたところ、「思う」12 自治会、「思わない」2 自治会であった。

【問 15】で具体的に今後「協働」したい内容をたずねると、「大学等へ出かけての地域交流等勉強会を行いたい。」や「湧水を活用した水道事業を確立することに「協働」を取り組みたい」とあった。今後、地域と大学などがそれぞれの求めているものをマッチングさせる場や制度のほか、それらをコーディネートする人材育成が必要である。

●「協働」によるまちづくりは「今後、充実していくことが望ましい」9自治会

【問 16】で「協働」によるまちづくりについてたずねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が9自治会と最も多かった。「協働の意味や効果、範囲がわかりにくので何とも言えない」3自治会、「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」1自治会であった。「市民対象アンケート」結果と同様に「協働」によるまちづくりについては肯定するものの、それ以前に、協働の意味や効果、範囲がわからないので判断できないと読み取ることができる。今後、「協働」によるまちづくりを進めるためには、「協働」の意味や必要性を理解する地域学習会の実施や広報などを用いた啓発活動が必要である。

●「協働」が必要な分野は「福祉」「暮らしの安全・安心」「地域活動・交流」が上位

【問 17】で「協働」により取り組むことが必要(有効)な分野についてたずねたところ、「福祉に関すること」8自治会、次いで「暮らしの安全・安心に関すること」7自治会、「地域活動や交流に関すること」6自治会、「健康づくりに関すること」が5自治会などとなっている。国は今後の地域の福祉政策について、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指している。そのためには自治会や地域組織とが協働する福祉基盤の構築が必要である。また、東日本大震災を機に地域における防災体制の構築も急がれており、基盤や体制を構築するための団体間の情報交換や交流を促進させる施策が必要である。

●市に期待するのは「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」

【問 19】で「協働」のまちづくりに対して市に期待することについてたずねたところ、「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」が11自治会と最も多く、次いで「市民のニーズや地域課題の把握」7自治会、「市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みを作る」7自治会などであった。

多様化する市民のニーズや地域課題をすべて市役所が対応することには限界がある。今後は地域力を組み合わせた協働による課題解決やまちづくりが進めるために、地域から自らの課題解決に向けた取り組みを行政と協働して実施できる制度や環境の整備が必要である。

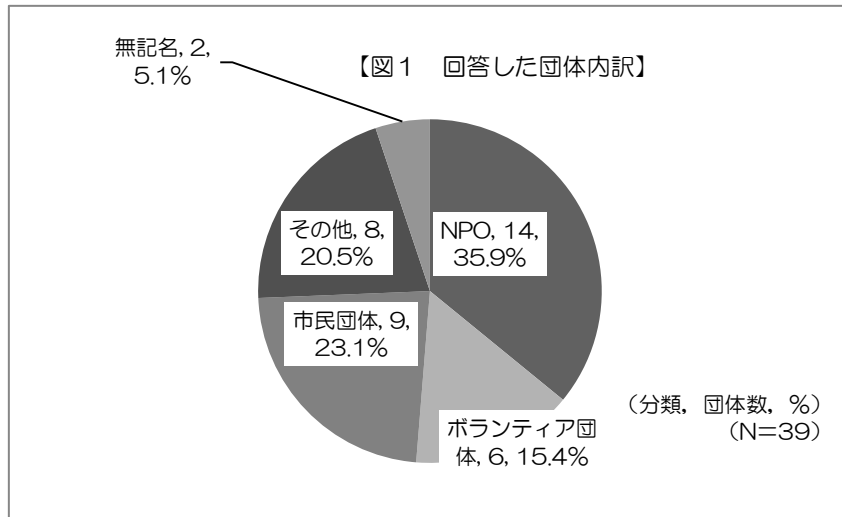
Ⅱ-3 調査結果

団体対象(NPO・ボランティア団体・市民団体等)

1. 基本属性

問1 団体名

問1 団体名をご記入ください。



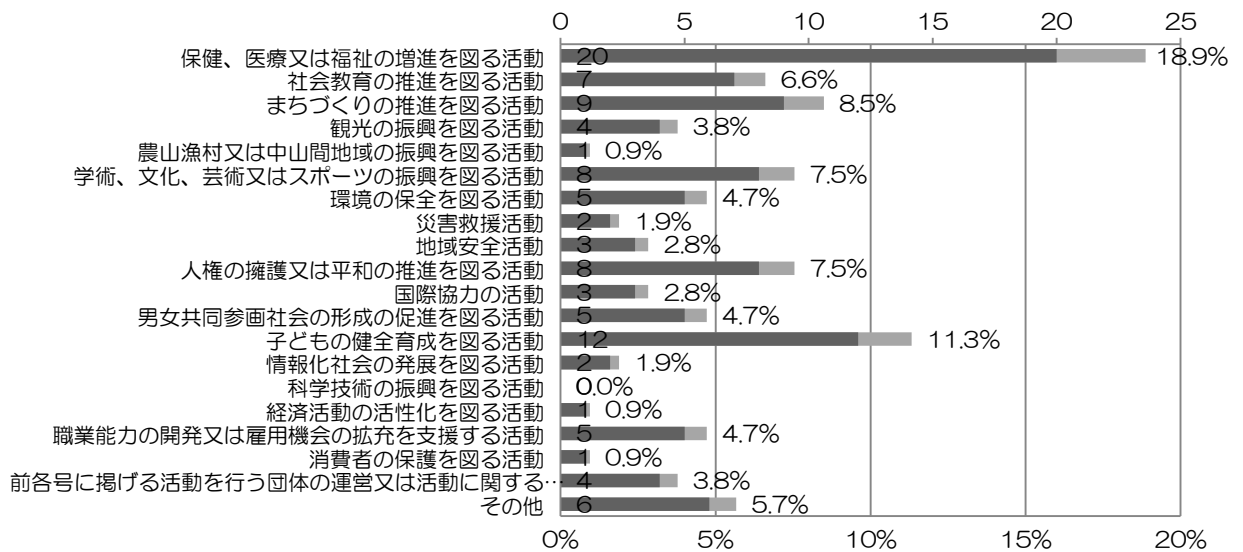
アンケートに回答した団体内訳は、「NPO」14 団体、35.9%、「ボランティア団体」6 団体、15.4%、「市民団体」、9 団体、23.1%、「その他」8 団体、20.5%であった。
(図1)

2. 団体の活動状況

問2 活動分野について

問2 貴団体の活動の分野は次のどれに当てはまりますか。(当てはまるもの全てに○)

【図2-1 活動分野】



活動分野についてたずねたところ、「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」20 団体、18.9%と最も多く、次いで、「子どもの健全育成を図る活動」12 団体、11.3%、「まちづくりの推進を図る活動」9 団体、8.5%、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」8 団体、7.5%、「人権の擁護又は平和の推進を図る活動」8 団体、7.5%であった。(図 2-1)

問 3 主な活動内容

問3 主な活動内容についてご記入ください。

【主な活動内容】保険、医療又は福祉の増進を図る活動(回答数：18)

●	地域一般の方への認知症サポーター養成講座、介護予防事業への転倒予防教室、中高生対象の救急蘇生法講座
●	障がい者の自立支援とエンパワメント。障がい者の権利擁護とアドボカシー。相談支援。
●	市民の健康づくりのため、子どもから高齢者の方々を対象に食を通して健康づくりを推進していく。
●	お産を語る定例会、10代ママの育児講演開催。いのちの教室（性教育）の提供。赤ちゃんを流産・死産・新生児死亡で、無くされた方のつどいを開催。

【主な活動内容】社会教育の推進を図る活動(回答数：1)

●	少年の主張大会、世代交流会、少年を守る日夜間巡回、響きあう言葉のコンテスト
---	---------------------------------------

【主な活動内容】観光の振興を図る活動(回答数：2)

●	観光行事の開催及び支援。観光情報の提供・宣伝、観光客の誘致。観光資源の保護及び観光物品の開発・利用促進。
---	--

【主な活動内容】学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動(回答数：2)

●	伝承の地を巡る旅の実施。民話まつり（昔話の語り、民話紙芝居、伝承玩具づくり）の実施
●	地域を歩き住民と交流しながら地域の暮らしを聞き取る。地域の情報を記録し、集積する。地域の文化情報を発信する。

【主な活動内容】環境の保全を図る活動(回答数：1)

●	ごみ拾い活動、募金の呼びかけ、マングローブの保全、イベントの手伝い
---	-----------------------------------

【主な活動内容】災害救援活動(回答数：1)

●	東北の年中行事である芋煮会（沖縄のビーチパーティー）を年二回開催、避難者と沖縄の方対象東日本大震災を思う会を年二回開催し震災体験を話して頂く、避難者と沖縄の方をつなぐ橋渡し役や沖縄の方へ防災意識を持って頂くことを目的としている。
---	--

【主な活動内容】男女共同参画社会の形成の促進を図る活動(回答数：1)

●	男女共同参画週間パネル展示。真栄原新町地域の浄化運動（今年3月終了）。明るい地域家庭作り。人材育成、海外研修、報告会、資金づくり（映画・バザー産業祭り）
---	--

【主な活動内容】国際協力の活動(回答数：1)

●	一人ひとりが自分と世界のつながりに気づき考え行動できる機会の提供。NGO・NPO 地球市民の活動の応援とサポート。地球市民活動を促進するためのネットワークの強化。
---	---

【主な活動内容】子どもの健全育成を図る活動(回答数：5)

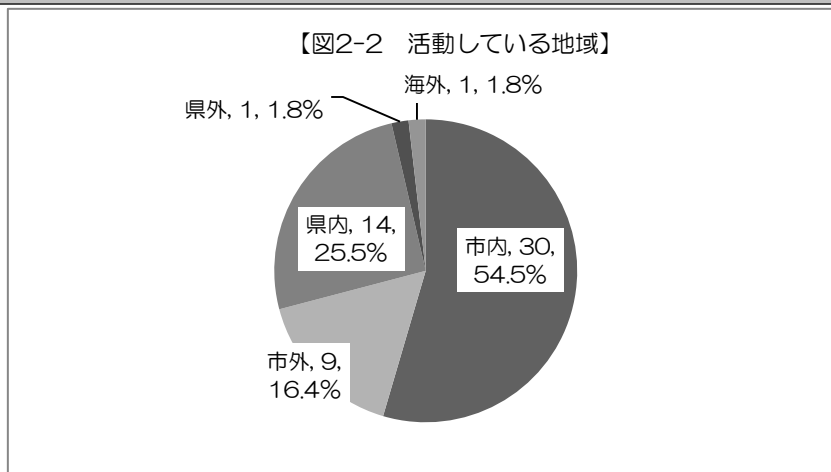
●	幼稚園や児童センターを中心に人形げきを体験・見ていただいています。
●	運動会、ピクニック、クリスマス会等の企画、実施。新一年生（小中高）への奨励金支給

【主な活動内容】職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動(回答数：2)

●	パソコン教室と検定試験。経理事務の指導（会計、給与、販売、ワード、エクセル活用）。キャリアカウンセリング及び就労支援。
●	高齢者の就業に関する情報の収集・提供。臨時的かつ短期的な就業（雇用によるものを除く）を希望する高齢者に対する希望と能力に応じた就業機会の開拓及び提供。

問4 活動している地域

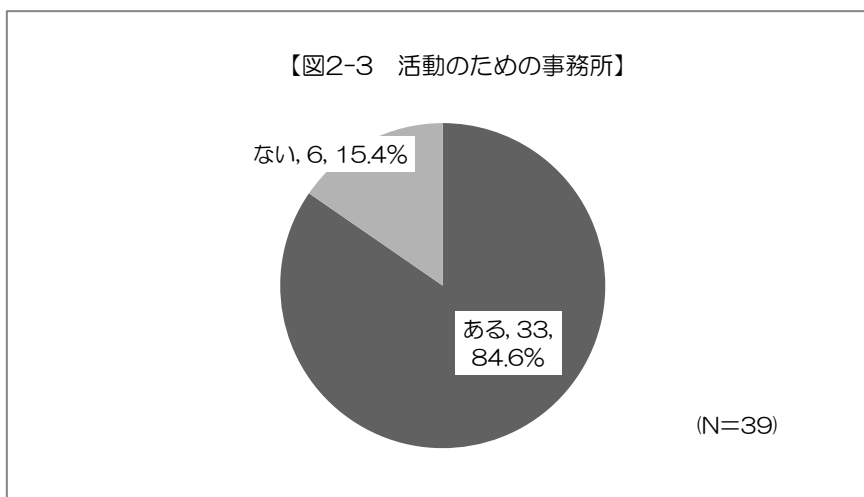
問4 活動している地域はどこですか？（当てはまるもの全てに○）



活動している地域についてたずねたところ、「市内」30 団体、54.5%が最も多く、次いで「県内」14 団体、25.5%、「市外」9 団体、16.4%の順であった。（図 2-2）

問5 活動のための事務所について

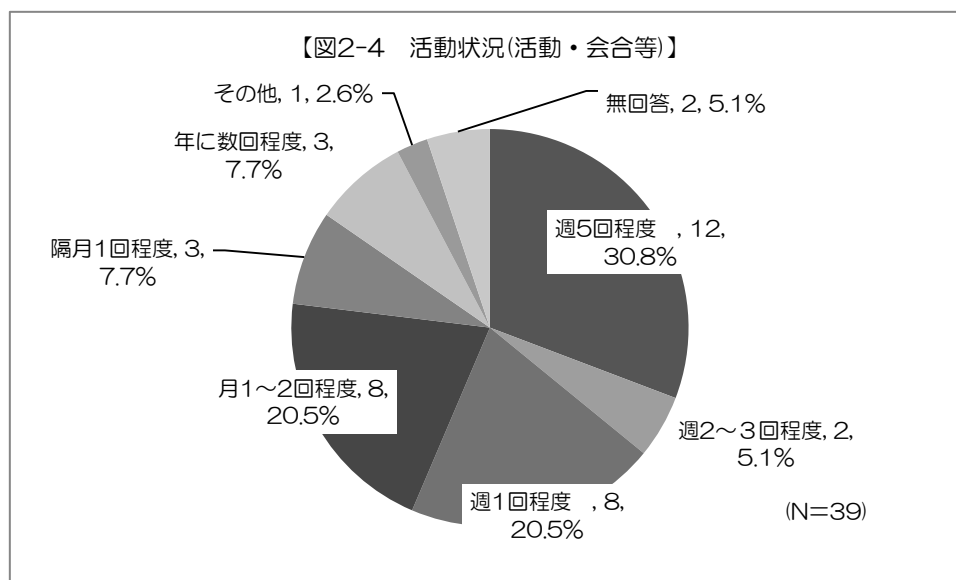
問5 活動のための事務所はありますか？（○は 1 つ）



活動のための事務所についてたずねたところ、「ある」33 団体、84.6%、「ない」6 団体、15.4%であった。（図 2-3）

問6 活動状況(活動・会合等)について

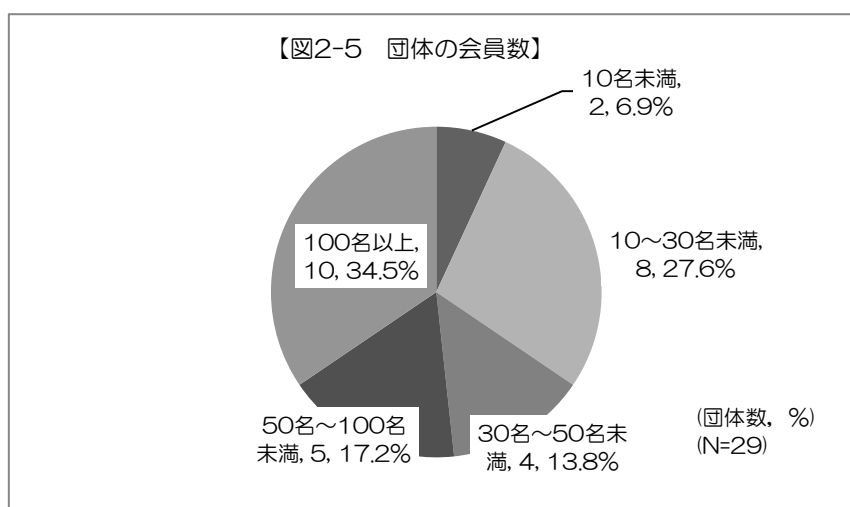
問6 活動状況(活動・会合等)について教えてください。(〇は1つ)



活動状況(活動・会合等)についてたずねたところ、「週5回程度」12 団体、30.8%が最も多く、次いで「週1回程度」8 団体、20.5%、「月1~2回程度」8 団体、20.5%などであった。(図2-4)

問7 団体の会員数

問7 団体の会員数について教えてください。

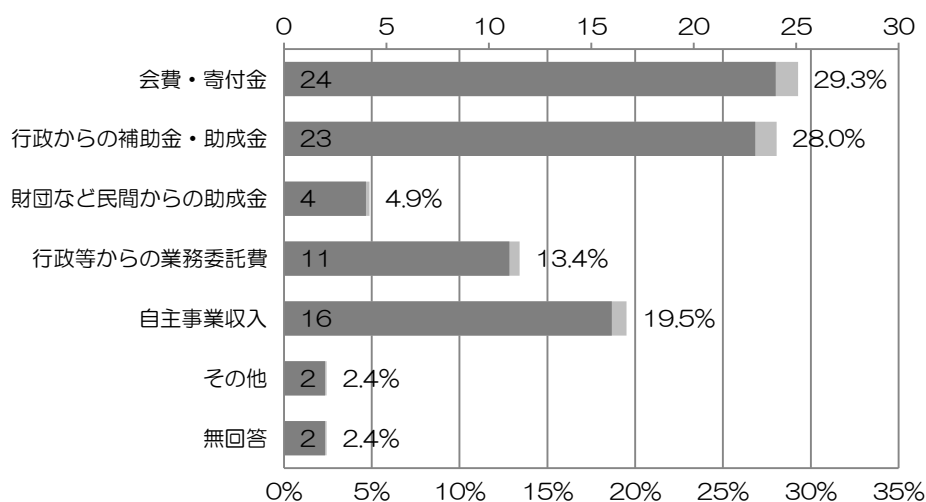


団体の会員数についてたずねたところ、「100名以上」が10 団体で最も多く、次いで「10~30名未満」8 団体、「50名~100名未満」5 団体などであった。(図2-5)

問8 主な収入の内訳

問8 主な収入の内訳を教えてください。(当てはまるもの全てに○)

【図2-6 主な収入の内訳】

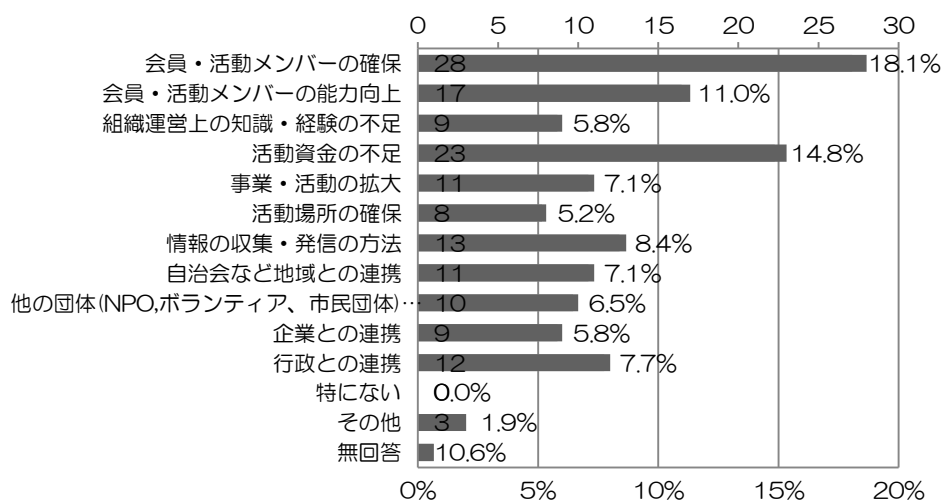


主な収入の内訳についてたずねたところ、「会費・寄付金」24 団体、29.3%が最も多く、次いで「行政からの補助金・助成金」23 団体、28.0%、「自主事業収入」16 団体、19.5%、「行政等からの業務委託費」11 団体、13.4%、「財団など民間からの助成金」4 団体、4.9%となっている。「その他」とした回答には、「障がい者総合支援法による給付金」、「指定管理費」とあった。(図 2-6)

問9 団体活動での課題

問9 団体の活動を進めていく上で、課題として捉えていることは何ですか。(当てはまるもの全てに○)

【図2-7 団体の活動を進めていく上での課題】

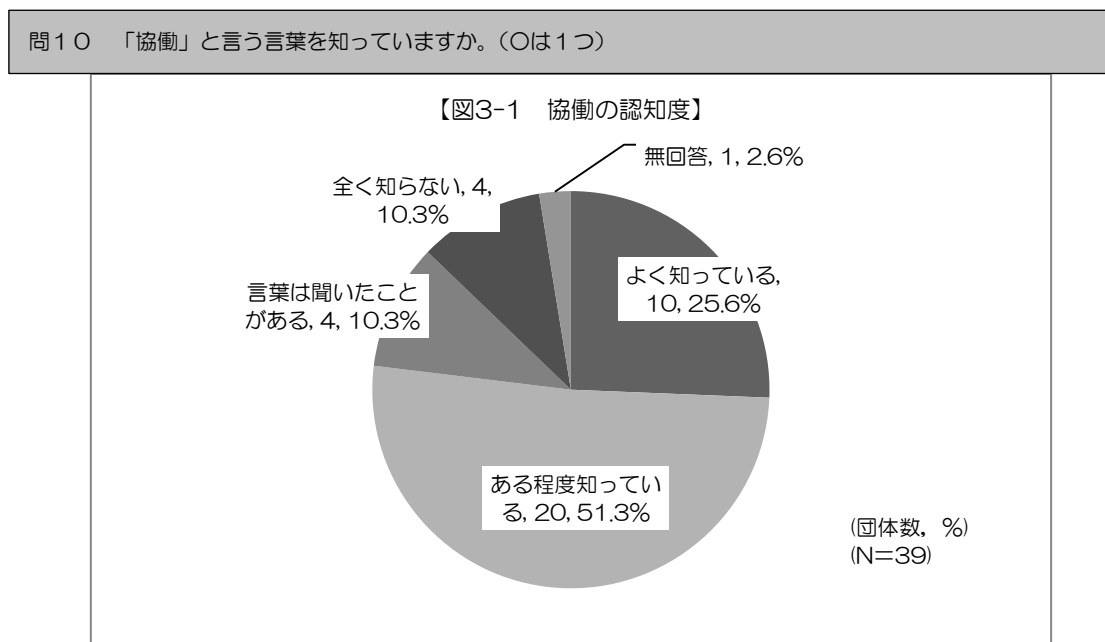


団体の活動を進めていく上での課題をたずねたところ、「会員・活動メンバーの確保」が

28 団体、18.1%と最も多く、次いで「活動資金の不足」23 団体、14.8%、「会員・活動メンバーの能力向上」17 団体、11.0%、「情報の収集・発信の方法」13 団体、8.4%、などであった。(図 2-7)

3. 「協働」について

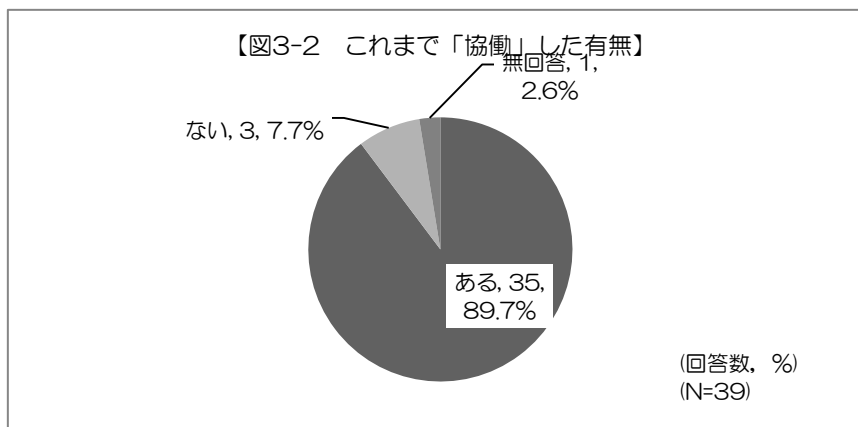
問 10 「協働」の認知度



「協働」についての認知度としては、「ある程度知っている」が20 団体、51.3%と最も多く、次いで「よく知っている」10 団体、25.6%と併せると、全体 76.9%を占めた。一方、「言葉は聞いたことがある」4 団体、10.3%、「全く知らない」4 団体、10.3%であった。(図 3-1)

問 1 1 これまでの「協働」有無について

問 1 1 これまで団体活動するにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や自治会、企業、教育機関(大学)、市役所などと協働したことがありますか。(〇は 1 つ)



これまで団体活動するにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や自治会、企業、教育機関(大学)、市役所などと協働したことがあるかとたずねたところ、「ある」35団体、89.7%、「ない」3団体、7.7%であった。(図 3-2)

問 1 2 これまでの「協働」した具体的内容

問 1 2 差し支えがなければ、問 1 1 の協働した具体的な内容について、ご記述ください。

【これまで協働した具体的内容】福祉に関すること(回答数：13)

●	ぎのわん車イスマラソン大会
●	自治会と協働して転倒予防教室を開催。市役所、社会福祉協議会と協働し民生委員への認知症講座。社会福祉協議会と協働し近隣中学校福祉委員との活動など
●	自治会等と協力してミニデイサービス

【これまで協働した具体的内容】文化や歴史に関すること(回答数：3)

●	博物館、公民館と連携した文化庁のプロジェクトを企画・実施した。
●	名護博物館と共催で「源河みんなまつり」を開催した。源河小学校跡地(名護博物館管理施設)を会場にして昔話の語りの部屋、伝承玩具づくり、伝承遊び体験、バザーなどを行った。

【これまで協働した具体的内容】教育や子育てに関すること(回答数：3)

●	NPO まじゅんの会との協働主催で” 沖縄子育てコンシェルジュ～みんなで遊ぼうプロジェクト” イベントを開催。
---	---

【これまで協働した具体的内容】人権や平和に関すること(回答数：1)

- 当NPO 法人と市民図書館との協働で障がいのある人もない人も共に暮らしやすい社会づくりを目指して講演会を実施

【これまで協働した具体的内容】地球環境や生活環境に関すること(回答数：3)

- 那覇市にあるレンタカー会社と一緒に那覇空港付近の道路の清掃活動。琉球大学、キリスト教短期大学と合同でビーチクリーン活動

【これまで協働した具体的内容】暮らしの安全・安心に関すること(回答数：3)

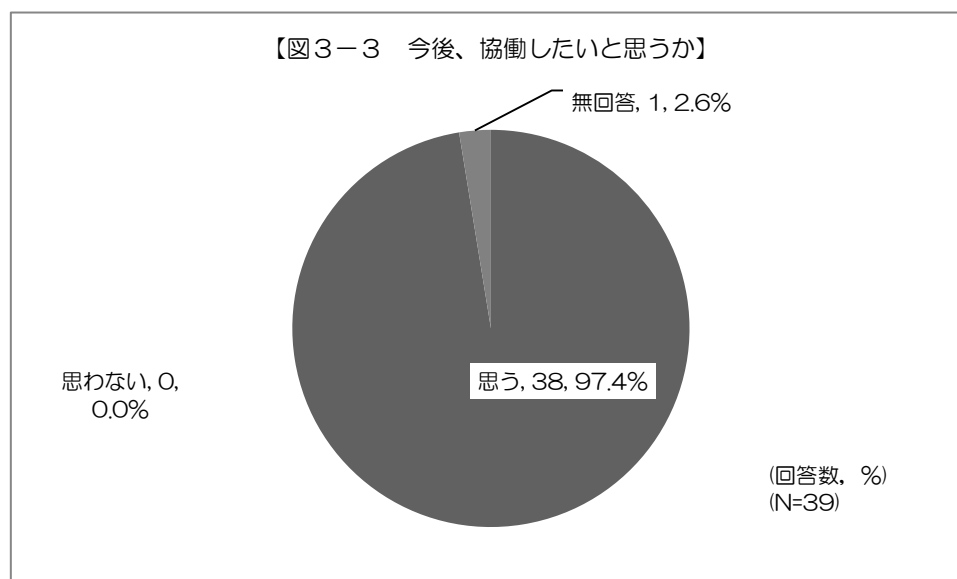
- 商工会の事業に参画して、地域住民と連携した「マップ」を作成した。
- 少年を守る日夜間巡回指導（宜野湾警察署、四中学校区、PTA）、環境浄化活動（宜野湾警察署、四中学校区、PTA）

【これまで協働した具体的内容】地域イベントや交流に関すること(回答数：8)

- 宜野湾はごろも祭り、はごろもカップ港ふれあいフェスティバル
- 福島避難者の集い沖縄にゃんがら会と協働して避難者とのコミュニティを作っている

問13 今後「協働」してみたいと思うか

問13 今後の団体活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業や教育機関(大学)、市役所などと協働してみたいと思いますか。(〇は1つ)



今後の団体活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業や

教育機関(大学)、市役所などと協働してみたいと思いますかとたずねたところ、「思う」38団体、97.4%であり、「無回答」1団体、2.6%、「思わない」はいなかった。(図3-3)

問14 今後「協働」したい具体的内容

問14 差し支えがなければ、問13の協働してみたい具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

【主な協働してみたい具体的内容】教育や子育てに関すること(回答数：7)

●	教育機関との連携により、困っている子どもの問題を共に解決したい
●	人形げき、読み聞かせ等
●	養育に問題を抱えた子育て中の家庭を支援する体制づくり(子ども自身の自立支援プログラムや養育者自身の自立支援など)。

【主な協働してみたい具体的内容】地域活動や交流に関すること(回答数：6)

●	地域(字・区)単位の”宝探し”と情報収集・発信を行政、文化施設、学校、公民館などと連携して実施。
●	地域の多文化共生について意見交換しながら、地域に必要な事や理想を共有し取り組んでいきたい。

【主な協働してみたい具体的内容】福祉に関すること(回答数：5)

●	自立支援協議会の立ち上げ等連携できる仕組みを作っていきたい。
●	自治会や企業等との協働(障がいのある人もない人も共に暮らしやすい社会の実現に向けての活動。学習会や講演会等の実施)。市町村や専門機関との協働(障がい児・者の問題行動に対応できる専門員の養成。虐待二次障害の防止)。教育機関(大学等)との協働(きめこまかな児童発達支援事業の提供)。

【主な協働してみたい具体的内容】文化や歴史に関すること(回答数：3)

●	宜野湾市民図書館と協働して講座(地域の伝承の地の話、昔話の語り、みんな散歩など)を行いたい。
●	沖縄話の普及活動
●	高齢者と子どもたちの世代交流を軸にして伝承文化の活動。

【主な協働してみたい具体的内容】健康づくりに関すること(回答数：2)

●	市民を対象に長寿社会を生きるための講座、肥満対策、日常生活の食事のあり方
---	--------------------------------------

【主な協働してみたい具体的内容】暮らしの安全・安心に関すること(回答数：1)

- 災害時等の避難支援体制づくり（防災教育）

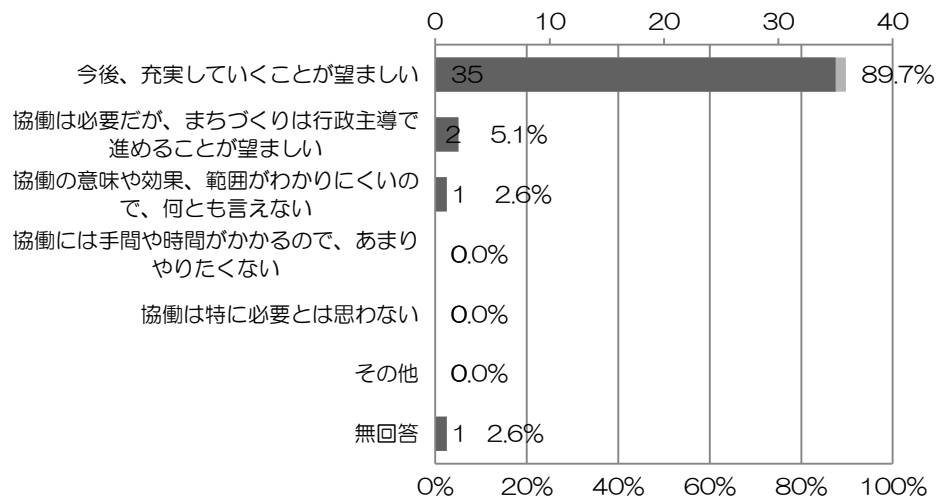
【主な協働してみたい具体的内容】都市の開発や整備に関すること(回答数：1)

- まちづくり事業（都市計画等）

問 15 「協働」によるまちづくりに対する考え

問 15 宜野湾市では「協働」によるまちづくりを進めようと考えていますが、このことについてどのように考えますか（〇は1つ）

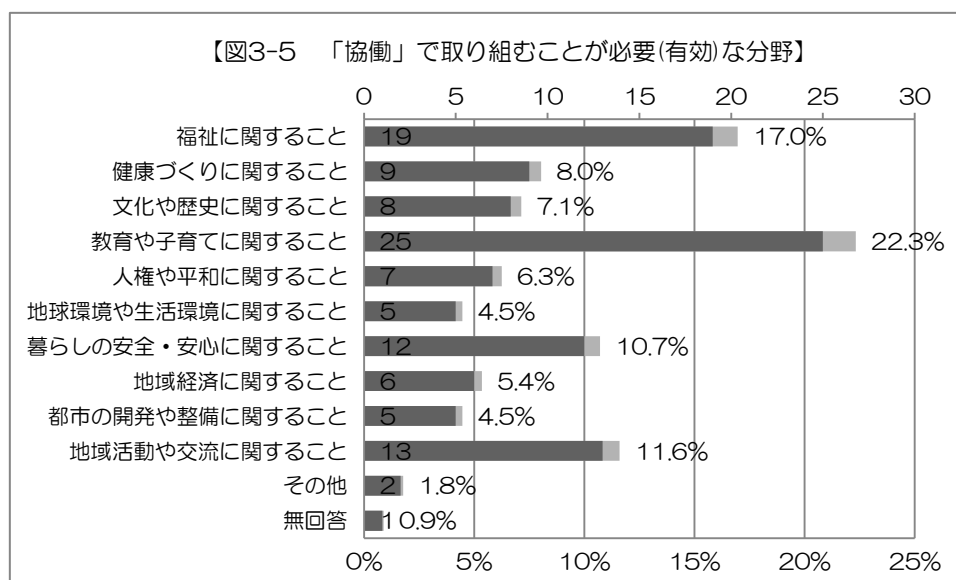
【図3-4 「協働」によるまちづくりに対する考え】



「協働」によるまちづくりについてたずねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が35団体、89.7%と最も多かった。「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」2団体、5.1%、「協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので何とも言えない」1団体、2.6%であった。（図3-4）

問 16 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野

問 12 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがあります。今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(〇は3つまで)



「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野についてたずねたところ、「教育や子育てに関すること」25 団体、22.3%、次いで「福祉に関すること」19 団体、17.0%、「地域活動や交流に関すること」13 団体、11.6%、「暮らしの安全・安心に関すること」12 団体、10.7%などであった。(図3-5)

問 17 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的内容

問 17 問 16 でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

【主な意見】福祉に関すること(回答数：5)

●	聴覚障がい者が必要としている事。生活や子育て、通院等で不自由としている事。情報不足で不安な部分等具体的に分かち合える交流の場を増やして欲しいと思います。
●	小学校・中学校等への福祉教育。

【主な意見】教育や子育てに関すること(回答数：5)

●	子育て支援、教育、育児講座、親支援
●	せっかくの人形劇を定期的に発表する場や現在の活動を幼稚園・小学校・地域と広めていきたい。

【主な意見】健康づくりに関すること(回答数：2)

- 健康についての料理教室等予算的に年1～2回程度実施、食改との取り組みは市民福祉祭りで「親子おやつづくり」で実施それこそ協働でできるものが良いと思う。

【主な意見】文化や歴史に関すること(回答数：2)

- 地域(コミュニティ)の歴史や先人の知恵などを次世代に継承する活動(地域情報を聞き取りアーカイブする)を通して”郷土愛”を育む→心で地域を豊かにする。
- 文化や歴史に関する事では宜野湾市の地域に伝わる伝説を紹介する講座、教育や子育てに関する事、地域活動や交流に関する事では、子どもたちと一緒に伝承玩具を作ったり、昔遊びをしたり、昔話を語る会を行いたい。

【主な意見】暮らしの安全・安心に関すること(回答数：2)

- 誰もが安心して暮らせる地域に多文化共生の視点も加え、顔の見える関係性の構築、情報の多言語対応窓口など

【主な意見】地域経済に関すること(回答数：1)

- 地域経済団体の共通した実施目標の設定等

【主な意見】都市の開発や整備に関すること(回答数：1)

- 公共施設(公園)などの安全性や整備はとても気になるところ、怖い公園が多い

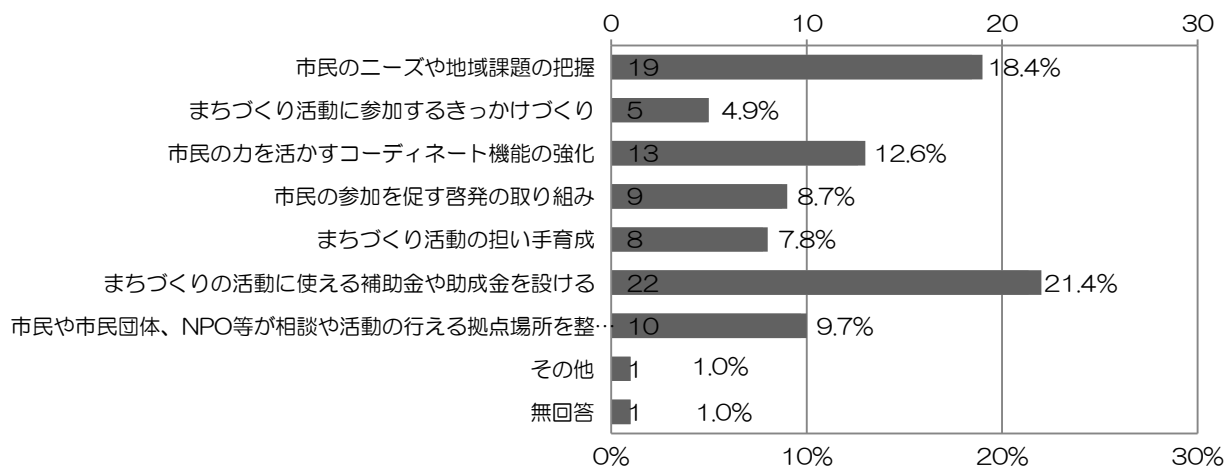
【主な意見】その他(回答数：1)

- まちづくりを推進する職員、担い手(リーダー)の養成

問18 「協働」によるまちづくりに対して市に期待すること

問18 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは何だと思えますか。(〇は3つまで)

【図3-6 「協働」のまちづくりに対して市に期待すること】



「協働」のまちづくりに対して市に期待することについてたずねたところ、「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」が22団体、21.4%と最も多く、次いで「市民のニーズや地域課題の把握」19団体、18.4%、「市民の力を活かすコーディネート機能の強化」13団体、12.6%、「市民や市民団体、NPO等が相談や活動の行える拠点場所を整備する」10団体、9.7%などであった。(図3-6)

4. 「自由意見」

問19 「協働」によるまちづくりについてのご意見、アイデア等

問19 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由に記入ください。

【主な意見】参加しやすい環境づくりについて(回答数：2)

●	市民が参加しやすい「まちづくり」をしかけてほしい
●	各種女性団体は最近高齢化が進んでいます。同じ趣味を持つサークルに入る人は多いが、団体活動に参加者が少ない。地域づくり、自治会加入など多くの問題があります。この問題は宜野湾市の発展に大きな問題だと思います。市民の皆さんが参加できる企画をお願いします。

【主な意見】横のつながり・連携協力について(回答数：1)

●	個のサークル活動だけでは、活動の分野に限界があるのでお互いに協力し合うことで、他の活動にも理解が深まり、協力の必要性も認識できると思います。
---	--

【主な意見】新たな地域枠組みの構築(回答数：4)

●	今日の自治会の現状は、会員の多い自治会は7・8千名を要する自治会もあれば1500名ほどの小さな自治会もあります。50年経過した今日これまで通りの考えで、各種事業を推進しようとしてもうまくいかないと思っています。見直すべき。
●	定年された方の知恵・知識等を活用すべきと思います。
●	かつてのユイマールを取り戻すためにもボランティアで地域に貢献することの意義をアピールする必要がある。ライフスタイルや制度設計を変えることの必要性を訴え、そのためには行政も市民も変わることが重要。ダウンサイジングするための価値観の変改、方法論を見出す不可欠でしょう。

【主な意見】拠点施設・窓口・情報発信について(回答数：1)

●	協働をすすめるにあたって市民が利用できる拠点であったり相談窓口の設置が明確になると、より市民への広報、情報発信地となり、身近な活動につながっていくと思います。
---	---

【主な意見】活動資金や人的協力(回答数：1)

- | | |
|---|--|
| ● | 自分たちで企画したいのちの教室や誕生日当事者のつどい、10代ママの育児講座が少しずつ知られることになり、市の協力や市民の声が広がって得られるようになりました。しかし資金がある訳でなく、自分たちの力だけでは続けることは困難です。もっと行政や他団体と積極的に交流協力して活動することは必要不可欠だと考えています。 |
|---|--|

5. まとめと今後の課題(団体対象)・・・有効回答数 39/82 回収率 47.6%

(1)団体の活動状況【問2～問9】

●最も多いのは「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」20団体

●NPO法に規定する20の活動分野の内、19分野で活動がある

【問2】で活動分野についてたずねたところ、回答のあった団体の内では、「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」20団体、18.9%と最も多く、次いで、「子どもの健全育成を図る活動」12団体、11.3%、「まちづくりの推進を図る活動」9団体、8.5%、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」8団体、7.5%、「人権の擁護又は平和の推進を図る活動」8団体、7.5%などであった。

【問3】で具体的な活動内容についてたずねたところ、「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」分野では「地域一般の方への認知症サポーター養成講座、介護予防事業への転倒予防教室、中高生対象の救急蘇生法講座の開催や子どもから高齢者を対象とした食生活改善の推進、障がい者の支援」などであった。「子どもの健全育成を図る活動」分野では「運動会、ピクニック、クリスマス会等の企画、人形げき公演」などであった。「学術、文化、芸術又はスポーツ振興を図る活動」分野では「伝承の地を巡る旅、民話まつりの実施。地域を歩き住民と交流しながら地域の暮らしを聞き取る」活動などであった。

活動状況については、NPO法に規定されている20分野の内、「科学技術の振興を図る活動」を除いた19分野での活動が行われている。

●活動地域は主に市内・県内。約8割の団体が活動事務所あり。

【問4】で活動している地域についてたずねたところ、「市内」30団体、次いで「県内」14団体、「市外」9団体、「県外」1団体、「海外」1団体であった。

【問5】で活動事務所についてたずねたところ、「ある」33団体、84.6%、「ない」6団体、15.4%であった。

【問6】で活動状況(活動・会合等)についてたずねたところ、「週5回程度」12団体、30.8%が最も多く、次いで「週1回程度」8団体、20.5%、「月1～2回程度」8団体、20.5%などであった。

【問7】で団体の会員数についてたずねたところ、「100名以上」が10団体で最も多く、次いで「10～30名未満」8団体、「50名～100名未満」5団体などであった。

活動場所については、ほとんどの団体が「市内」若しくは「県内」で活動し、事務所については8割を超える団体が活動のための事務所を構えていた。活動状況については、「週5回程度」の常勤に近い活動が最も多いが「週1回程度」や「月1～2回程度」もあり、団体の目的や状況に合わせた活動状況であった。

●主な収入は「会費・寄付金」が多く、次いで「行政からの補助金・助成金」

【問 8】で主な収入の内訳についてたずねたところ、「会費・寄付金」24 団体、29.3% が最も多く、次いで「行政からの補助金・助成金」23 団体、28.0%、「自主事業収入」16 団体、19.5%、「行政等からの業務委託費」11 団体、13.4%、「財団など民間からの助成金」4 団体、4.9%であった。

団体の主な収入は「会費・寄付金」や「補助金・助成金」がメインであり、自主事業収入が低い傾向であった。団体が計画的に安定した活動を継続できるよう、活動資金に対する支援情報提供や学習会の開催が必要である。

●団体の多くが人材や会員、活動資金の不足といった課題を抱えている。

●団体活動状況の PR、市民に対する参加啓発事業の実施。指導者、リーダーの育成が必要。

【問 9】で団体の活動を進めていく上での課題をたずねたところ、「会員・活動メンバーの確保」が 28 団体、18.1%と最も多く、次いで「活動資金の不足」23 団体、14.8%、「会員・活動メンバーの能力向上」17 団体、11.0%、「情報の収集・発信の方法」13 団体、8.4%、などであった。

新規で活動してくれる人や活動に賛同して会費・寄付を増やすためには、団体の活動情報 PR とともに、市民に対しての参加啓発事業や指導者、リーダーの育成に積極的に取り組む必要がある。

(2)「協働」について【問 10～問 19】

●「協働」という言葉は「ある程度知っている」「よく知っている」が 7 割以上

【問 10】で「協働」についての認知度をたずねたところ、「ある程度知っている」が 20 団体、51.3%と最も多く、次いで「よく知っている」10 団体、25.6%と併せると、全体 76.9%を占めた。一方、「言葉は聞いたことがある」4 団体、10.3%、「全く知らない」4 団体、10.3%であった。

●35 団体、89.7%の団体が「協働」の経験がある。

【問 11】で、これまで団体活動するにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や自治会、企業、教育機関(大学)、市役所などと協働したことがあるかとたずねたところ、「ある」35 団体、89.7%、「ない」3 団体、7.7%であった。

【問 12】で「協働」した具体的内容をたずねたところ、「福祉に関すること」が最も多く、社協との協働で「ぎのわん車イスマラソン大会」や自治会との協働で「転倒予防教室、ミニデイサービス」などであった。次いで多いのは「地域イベント・交流に関すること」として、「はごろも祭り・はごろもカップの開催」であった。その他にも「文化や歴史」、「教育や子育て」「地球環境や生活環境」に関する事業もあった。

協働事例では、「協働」する際の相手方のほとんどが自治会、NPO、大学、企業であった。

今後は、これら団体同士がさらに「協働」しやすくするよう、それぞれ団体の情報交換や交流の場を設けることが必要である。

●97.4%の団体が今後も「協働」を希望。行政への提案事業制度や相談窓口の設置

【問13】では、今後の団体活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業や教育機関(大学)、市役所などと協働してみたいかとたずねたところ、「思う」38団体、全体の97.4%であった。

【問14】今後「協働」したい内容をたずねると、「教育や子育てに関すること」が最も多く、具体的には「教育機関との連携により、困っている子どもの問題を共に解決したい」「養育に問題を抱えた子育て中の家庭を支援する体制づくり」などであった。次に多いのが「地域活動や交流に関すること」で、「地域(字・区)単位の”宝探し”と情報収集・発信を行政、文化施設、学校、公民館などと連携して実施したい」などであった。「福祉に関すること」では「自立支援協議会の立ち上げや障がいのある人も共に暮らしやすい社会の実現」であった。

ほとんどの団体が今後の「協働」に意欲的であり、協働したい内容も市民ニーズの高い分野であった。今後、これら団体が積極的に取り組めるよう、行政への提案事業制度や調整・相談窓口が必要である。

●89.7%の団体が「協働のまちづくりは今後、充実していくことが望ましい」

●「協働」が必要な分野は「教育や子育て」「福祉」「地域活動・交流」が上位

【問15】で「協働」によるまちづくりについてたずねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が35団体、89.7%と最も多かった。問16 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野をたずねたところ、【問14】と同様に「教育や子育てに関すること」「福祉に関すること」、「地域活動や交流に関すること」が上位であった。

●市に期待することは「助成金」「地域課題の把握」「コーディネート機能強化」「拠点場所の整備」

【問18】で「協働」のまちづくりに対して市に期待することについてたずねたところ、「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」が22団体、21.4%と最も多く、次いで「市民のニーズや地域課題の把握」19団体、18.4%、「市民の力を活かすコーディネート機能の強化」13団体、12.6%、「市民や市民団体、NPO等が相談や活動の行える拠点場所を整備する」10団体、9.7%などであった。団体が自主的に活動できる助成金や、コーディネート機能の強化、拠点場所の整備については、今後「協働」のまちづくりを推進させるためにも必要である。

●**地域の特徴や規模に見合った新たな地域の枠組みについて調査研究**

【問 19】で「協働」によるまちづくりについてのご意見、アイデア等をたずねたところ、「新たな地域枠組みに関すること」の意見として、「今日の自治会の現状は、会員の多い自治会は7・8千名を要する自治会もあれば1500名ほどの小さな自治会もある。50年経過した今日これまで通りの考えで、各種事業を推進しようとしてもうまくいかないと思う。見直すべき。」や「ダウンサイジングするための価値観の変改、方法論を見出すことが不可欠」との意見あった。今後、地域の特徴や規模に見合った新たな地域の枠組みについて、調査・研究する必要がある。

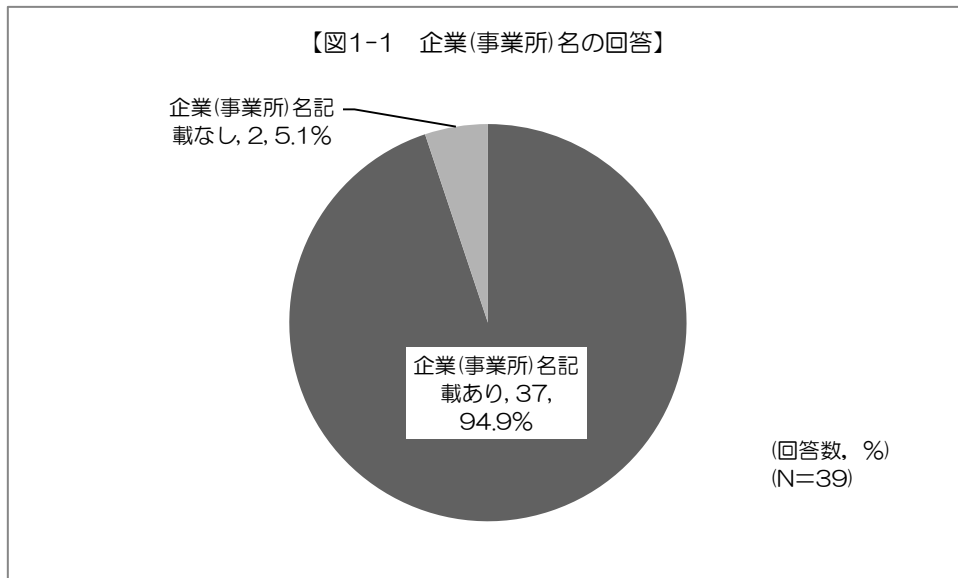
Ⅱ-4 調査結果

企業(事業所)対象

1. 基本属性

問1 企業(事業所)名

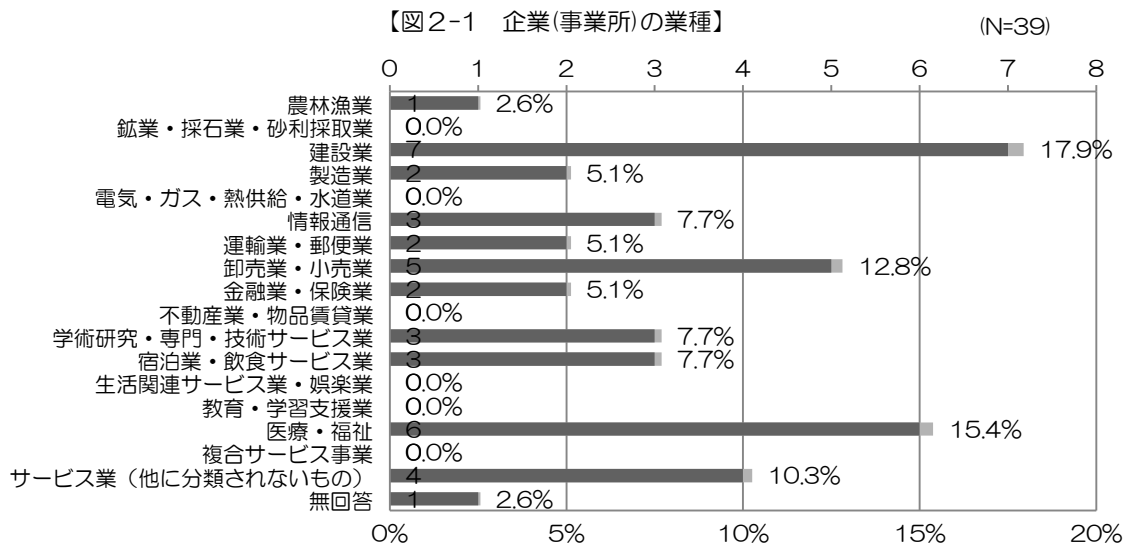
問1 企業(事業所)名をご記入ください。



2. 企業(事業所)の概要

問2 企業(事業所)の業種

問2 企業(事業所)の業種についてお伺いします。



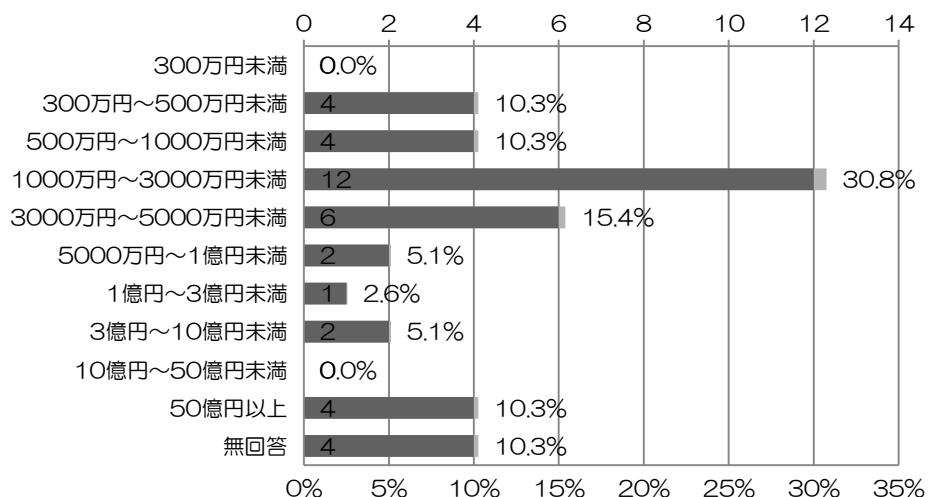
企業(事業所)の業種についてたずねたところ、「建設業」7、17.9%が最も多く、次いで「医療・福祉」6、15.4%、「卸売業・小売業」5、12.8%の順であった。(図2-1)

問3 企業(事業所)の資本金

問3 企業(事業所)の資本金についてお伺いします。

【図2-2 企業(事業所)の資本金】

(N=39)

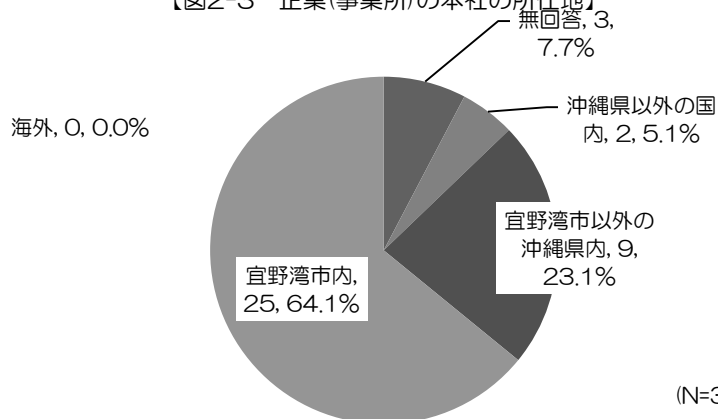


企業(事業所)の資本金についてたずねたところ、「1,000万円～3,000万円未満」12、30.8%が最も多く、次いで「3,000万円～5,000万円未満」6、15.4%、そのほか「300万円～500万円未満」、「500万円～1000万円未満」「50億円以上」がそれぞれ、5、10.3%の順であった。(図2-2)

問4 企業(事業所)の所在地

問4 企業(事業所)の本社の所在地についてお伺いします。

【図2-3 企業(事業所)の本社の所在地】

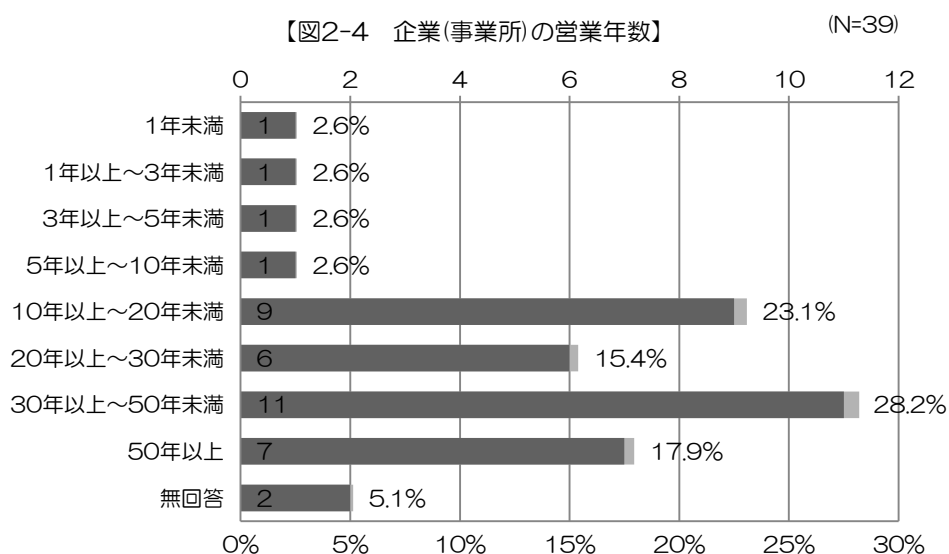


(N=39)

企業(事業所)の本社の所在地についてたずねたところ、「宜野湾市内」25、64.1%と最も多く、次いで「宜野湾市以外の沖縄県内」9、23.1%、「沖縄県以外の国内」2、5.1%の順であった。(図2-3)

問5 企業(事業所)の営業年数

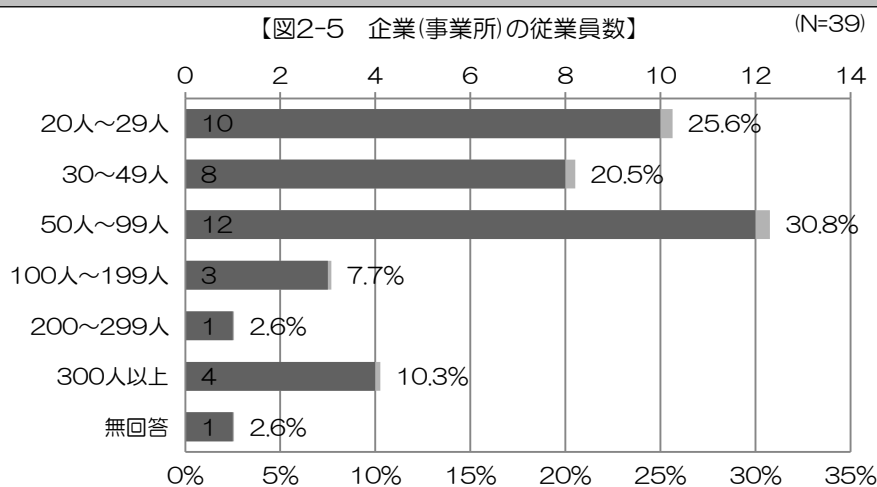
問5 企業(事業所)の営業年数についてお伺いします。



企業(事業所)の営業年数についてたずねたところ、「30年以上～50年未満」11、28.2%と最も多く、次いで「10年以上～20年未満」9、23.1%、「50年以上」7、17.9%の順であった。(図2-4)

問6 企業(事業所)の従業員数

問6 企業(事業所)の従業員数についてお伺いします。

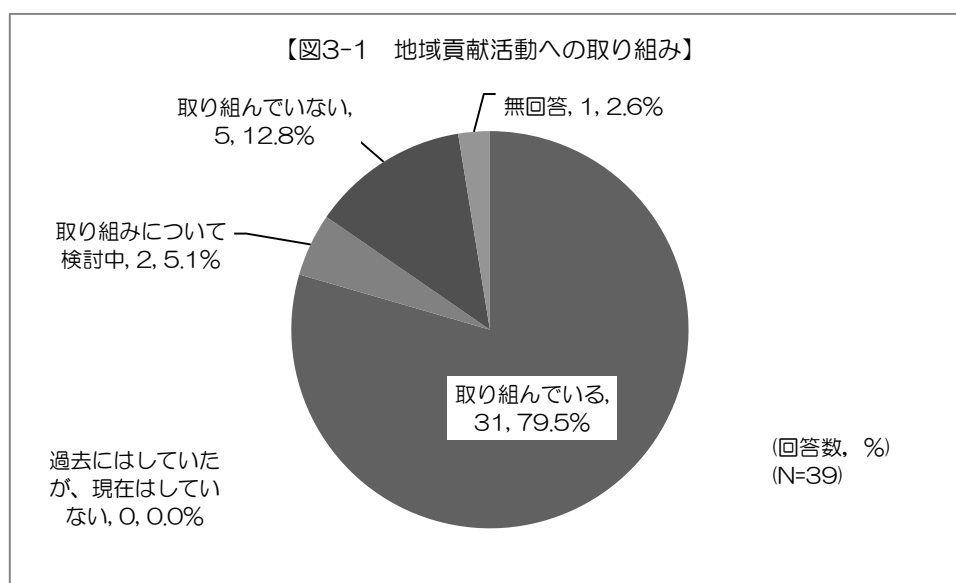


企業(事業所)の従業員数についてたずねたところ、「50~99人」12、30.8%と最も多く、次いで「20~29人」10、25.6%、「30~49人」8、20.5%の順であった。(図2-5)

3. 企業(事業所)の地域貢献活動について

問7 地域貢献活動への取り組み

問7 現在、貴社では地域貢献活動に取り組まれていますか。(〇は1つ)

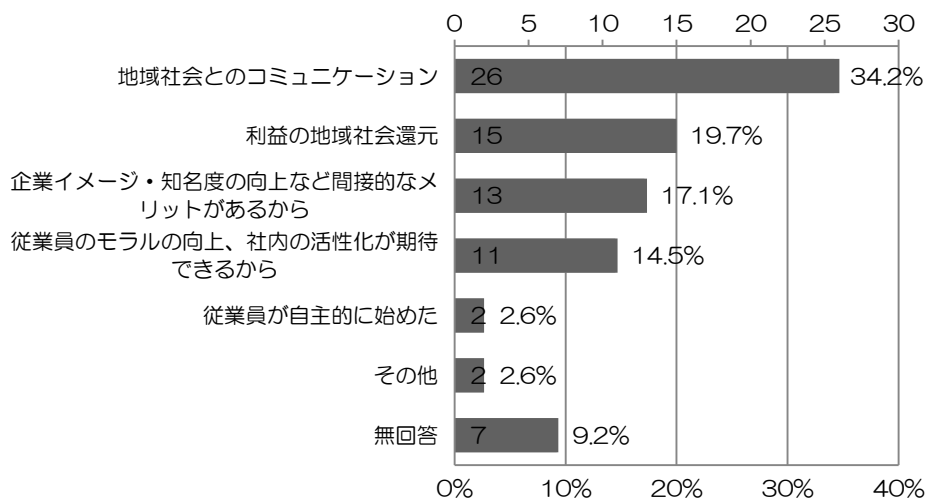


地域貢献活動への取り組みについてたずねたところ、「取り組んでいる」31、79.5%と最も高い。「取り組むについて検討中」2、5.1%、「取り組んでいない」5、12.8%、であった。(図3-1)

問8 地域貢献活動に取り組む理由

問8 貴社が地域貢献活動に取り組まれるようになったのはなぜですか。あるいは取り組もうとする理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

【図3-2 地域貢献活動に取り組む理由】

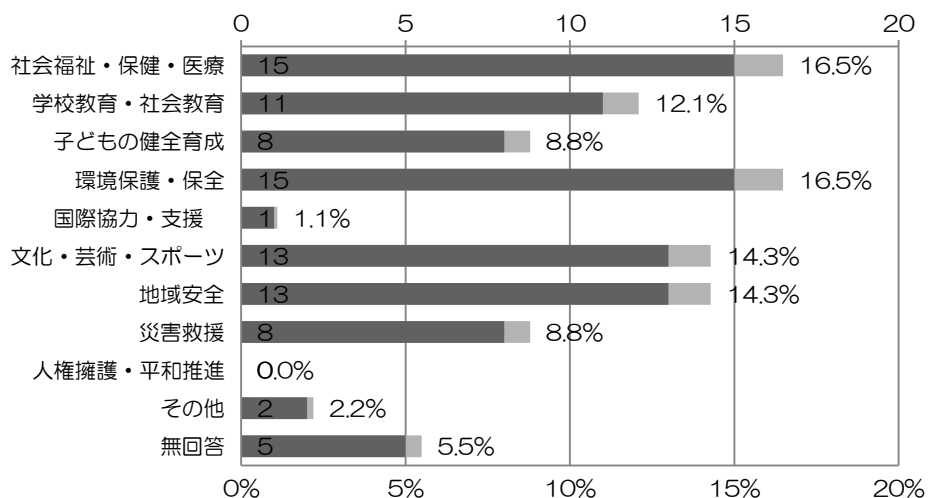


地域貢献活動に取り組む理由についてたずねたところ、「地域社会とのコミュニケーション」34.2%と最も高い。「利益の地域社会還元」19.7%、「企業イメージ・知名度の向上など間接的なメリットがあるから」17.1%、「従業員のモラルの向上、社内の活性化が期待できるから」14.5%などであった。(図3-2)

問9 地域貢献活動の分野

問9 貴社の地域貢献活動の対象分野を教えてください。現在実施しているものだけでなく、過去に実施していたもの、今後予定しているものも含まれます。(当てはまるもの全てに○)

【図3-3 地域貢献活動の分野】



地域貢献活動の分野についてたずねたところ、「社会福祉・保健・医療」と「環境保護・

保全」が 16.5%と最も高い。次いで「文化・芸術・スポーツ」と「地域安全」が 14.3%、「学校教育・社会教育」12.1%、などであった。「その他」と回答したなかには「雇用」と回答があった。(図 3-3)

問 10 地域貢献活動の具体的内容

問9 貴社の地域貢献活動の対象分野を教えてください。現在実施しているものだけでなく、過去に実施していたもの、今後予定しているものも含まれます。(当てはまるもの全てに○)

【主な具体的内容】社会福祉・保健・医療に関すること(回答数：4)

●	医療に関する地域公演会の開催
●	認知症勉強会。健康講話。運動教室。認知症サポーター養成講座。認知症と家族の会(中部地区事務局)。
●	地域の転倒予防教室講師、血圧測定、健康相談。

【主な具体的内容】学校教育・社会教育に関すること(回答数：8)

●	中学生の職場体験学習
●	地元学校からの職場体験などの受け入れ、地元学校からの社会見学

【主な具体的内容】地域清掃・環境美化に関すること(回答数：12)

●	地域の河川の清掃(社員・車両の派遣)
●	年一回全店舗同時に地域清掃を行っている。植樹祭への参加、緑の講演会(苗の配布)。
●	年に数回定期的にクリーンアップデーを設け、会社周辺の清掃を実施しております。
●	社屋周辺道路等の草刈、美化活動。

【主な具体的内容】文化・芸術・スポーツに関すること(回答数：5)

●	地域で活躍しているスポーツ大会、芸術分野への協賛金
●	スポーツ大会における物品協賛
●	少年野球大会の運営、協力等

【主な具体的内容】地域安全に関すること(回答数：2)

●	警察署の要望等を受け交通安全、飲酒運転根絶運動等に協力
●	交通安全運動。

【主な具体的内容】地域イベントへの協力・交流(回答数：6)

●	はごろも祭りボランティア。車イスマラソンボランティア。
●	地域行事への積極的参加、地域事業所との交流

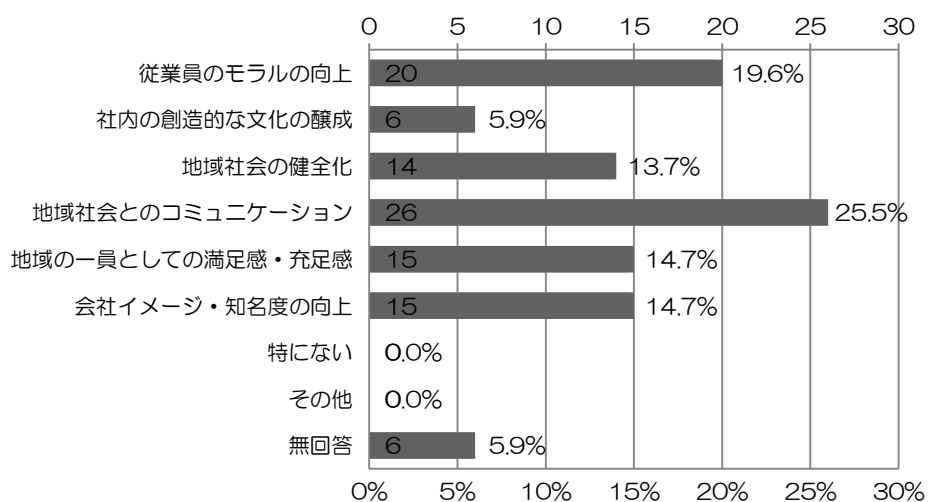
【主な具体的内容】その他(回答数：1)

● 市内の雇用。

問 1 1 地域貢献活動から得られる効果

問 1 1 貴社が地域貢献活動に取り組みました結果として、得られたと思われる効果又は今後得られると思われる効果について教えてください。(当てはまるもの全てに○)

【図3-4 地域貢献活動から得られる効果】

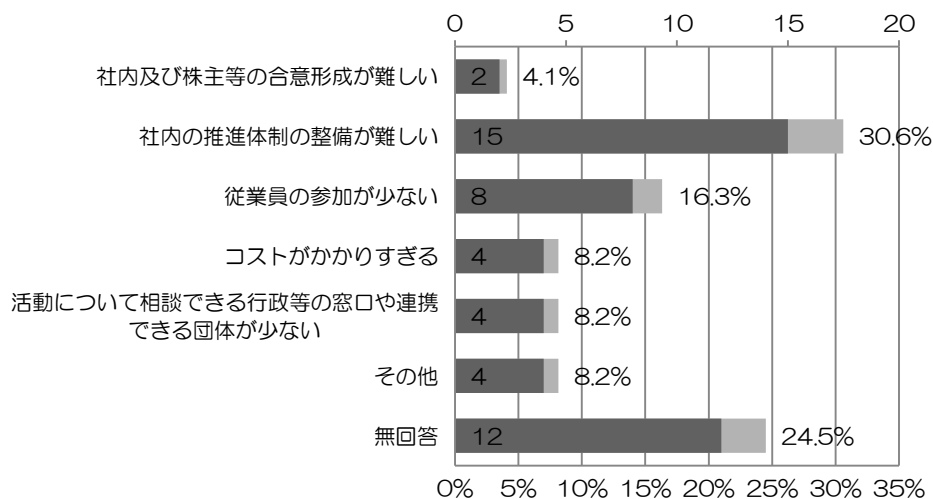


地域貢献活動から得られる効果についてたずねたところ、「地域社会とのコミュニケーション」が25.5%と最も高い。次いで「従業員のモラルの向上」が19.6%、「地域の一員としての満足感・充足感」、「会社イメージ・知名度の向上」14.7%などであった。(図3-4)

問 1 2 地域貢献活動を進める上での課題

問 1 2 貴社が地域貢献活動を進める上での課題はどのようなことですか。(当てはまるもの全てに○)

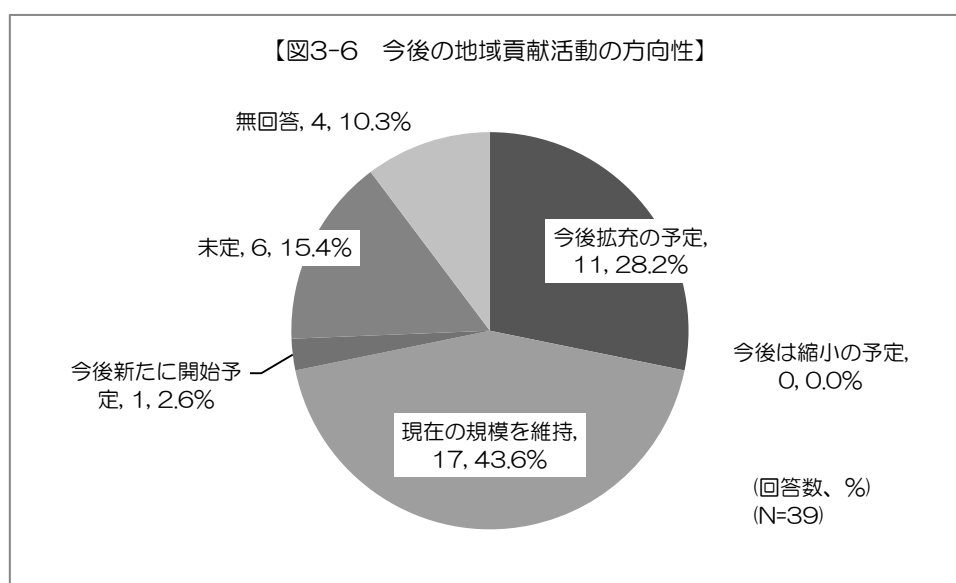
【図3-5 地域貢献活動を進める上での課題】



地域貢献活動を進める上での課題についてたずねたところ、「社内の推進体制の整備が難しい」が30.6%と高い。次いで「従業員の参加が少ない」が16.3%、「コストがかかりすぎる」、「活動について相談できる行政等の窓口や連携できる団体が少ない」は8.2%であった。「その他」として回答したなかには、「従業員が活動で抜けた際の現場人員確保」を課題として挙げていた。(図3-5)

問13 今後の地域貢献活動の方向性

問13 貴社の今後の地域貢献活動の方向性について教えてください。(〇は1つ)



今後の地域貢献活動の方向性をたずねたところ、「現在の規模を維持」が17社、43.6%、次いで「今後拡充の予定」11社、28.2%、「今後、新たに開始予定」1社、2.6%、「未定」は6社、15.4%であった。「今後は縮小の予定」0であった。(図3-6)

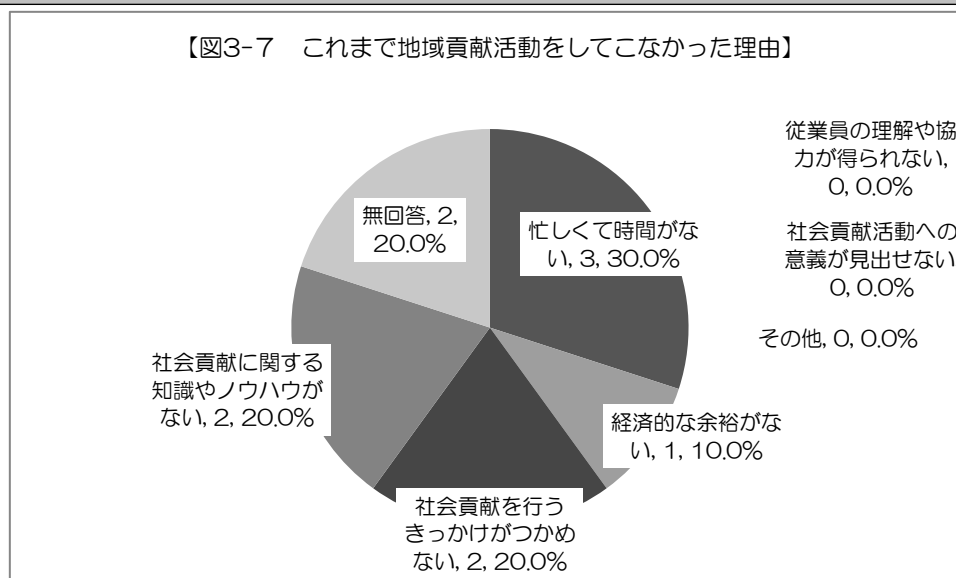
問14 過去に地域貢献活動をしていたが、現在はしていない理由

問14 問7で、2「過去にはしていたが、現在はしていない」と回答された企業(事業所)に伺います。貴社が過去に行っていたのに、現在は行っていない理由について教えてください。(当てはまるもの全てに〇)

問7で、2「過去にはしていたが、現在はしていない」と回答された企業(事業所)がなかったため、回答なし。

問 15 これまで地域貢献活動をしてこなかった理由

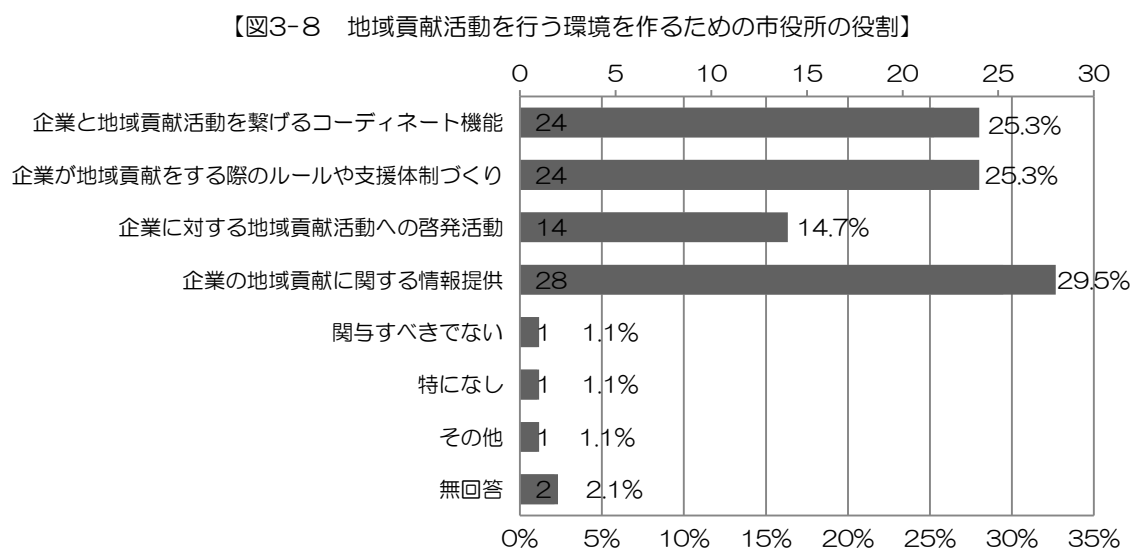
問 15 問 7で、3「取り組みについて検討中」若しくは、4「取り組んでいない」と回答された企業(事業所)に伺います。貴社がこれまで地域貢献活動を行ってこなかった理由について教えてください。(当てはまるもの全てに○)



これまで地域貢献活動をしてこなかった理由をたずねたところ、「忙しくて時間がない」が 3 社、「社会貢献を行うきっかけがつかめない」 2 社、「社会貢献に関する知識やノウハウがない」 2 社、「経済的な余裕がない」 1 社であった。(図 3-7)

問 16 地域貢献活動を行う環境を作るための市役所の役割

問 16 企業が「地域貢献活動」を積極的に行なう環境をつくるための市役所の役割は何だと思えますか。(当てはまるもの全てに○)

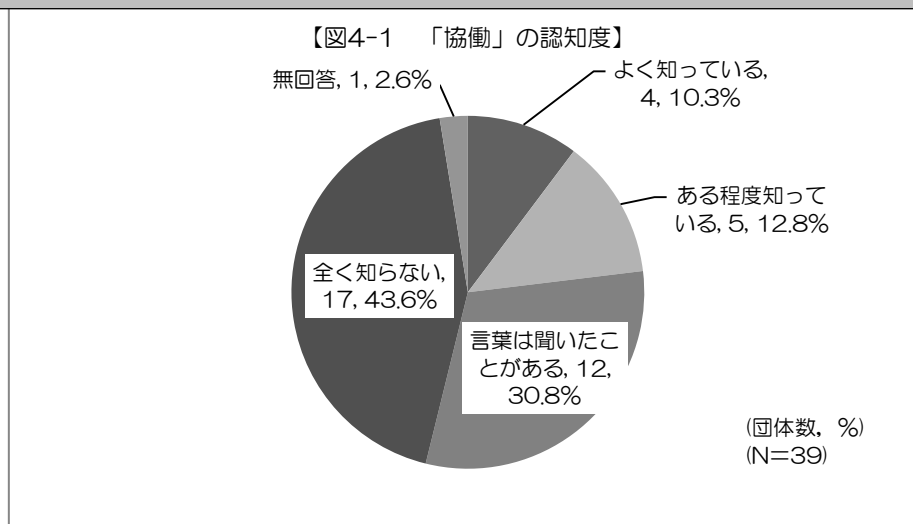


地域貢献活動を行う環境を作るための市役所の役割をたずねたところ、高い順から「企業の地域貢献に関する情報提供」29.5%、「企業と地域貢献活動を繋げるコーディネート機能」、「企業が地域貢献する際のルールや支援体制づくり」25.3%であった。(図3-8)

4. 「協働」について

問17 「協働」の認知度

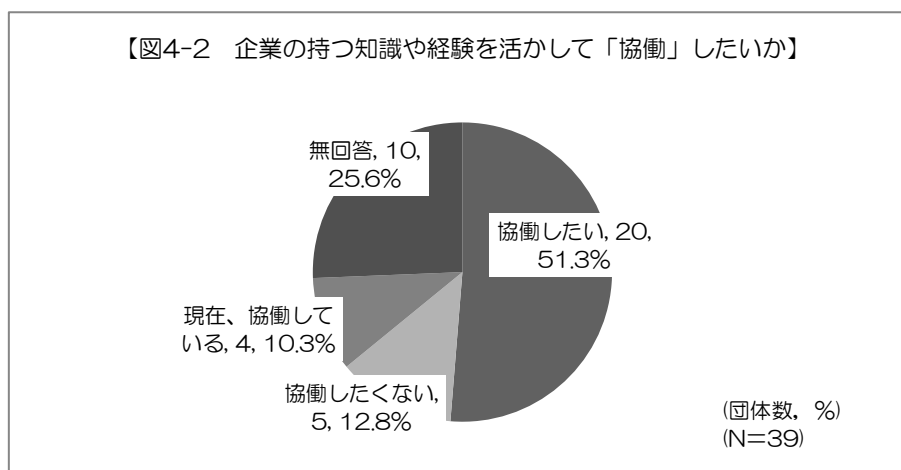
問17 「協働」と言う言葉を知っていますか。(〇は1つ)



「協働」についての認知度としては、「全く知らない」が43.6%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」30.8%と併せると、全体の74.4%を占めた。一方、「良く知っている」10.3%、「ある程度知っている」12.8%で併せると全体の23.1%であった。(図4-1)

問18 企業の持つ知識や経験を活かして、今後「協働」してみたいと思うか

問18 企業の持つ知識や経験を活かして、協働してみたいと思いますか。(〇は1つ)



企業の持つ知識や経験を活かして「協働」したいかとたずねたところ、「協働したい」20社、51.3%、「協働したくない」5社、12.8%、「現在、協働している」4社、10.3%であった。(図4-2)

問19 今後「協働」したい具体的内容

問19 問18で、1「協働したい」若しくは、3「現在、協働している」と回答された企業(事業所)に伺います。差し支えがなければ、「協働したい」若しくは「現在、協働している」具体的な内容について、ご記入ください。

【今後、協働したい具体的内容】

福祉に関すること(回答数：2)

●	認知症サポーター養成講座。地域支え合い会議。認知症の人と家族の会の運営を協働しています。徘徊 SOS ネットワーク構築を早急に協働する必要があります。
●	地域包括ケア会議の参加

【今後、協働したい具体的内容】健康づくりに関すること(回答数：3)

●	市民の健康づくりへの参加
●	宜野湾市健康市民大会に参加

【今後、協働したい具体的内容】地球環境や生活環境に関すること(回答数：4)

●	年一回宜野湾市内で土曜日に清掃活動をしています。緑の銀行として植樹祭に参加しています。
●	清掃ボランティア
●	地域資源を活かしたまちづくり。例えば大山の水田や湧水の保全と活用についてなど。

【今後、協働したい具体的内容】暮らしの安全・安心に関すること(回答数：2)

●	緊急避難場所の提供
---	-----------

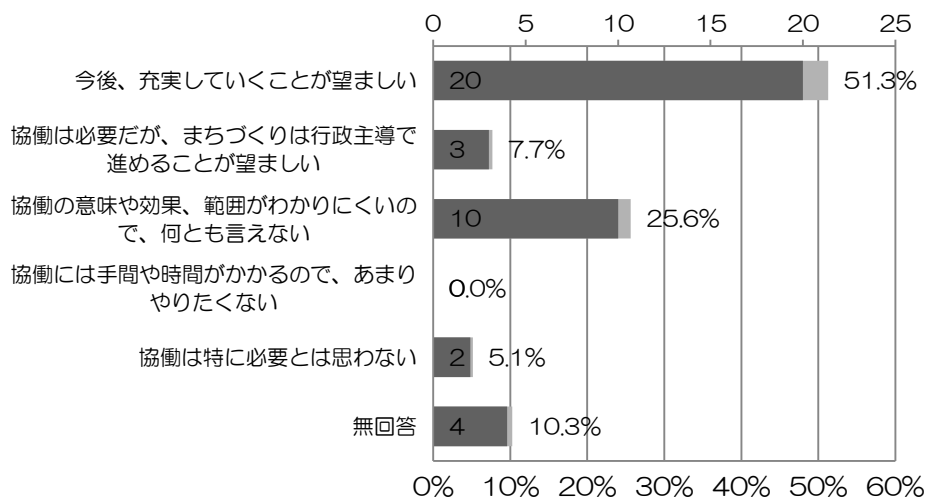
【今後、協働したい具体的内容】その他(回答数：3)

●	各企業、各自治体、各団体が実際に取り組んでいる活動内容や情報を知りたいです。
●	協力できることなどできる範囲でやりたいと思うが、手段などまだまだ分からないことが多く、意思はあるが、具体的な事はまだ分かりません
●	具体的には分かりませんが、案内が来れば賛同できるものは協働していきたい。

問20 「協働」によるまちづくりに対する考え

問20 宜野湾市では、「協働」によるまちづくりを進めようと考えていますが、このことについてどのように考えますか。(〇は1つ)

【図4-3 「協働」によるまちづくりに対する考え】 (N=39)

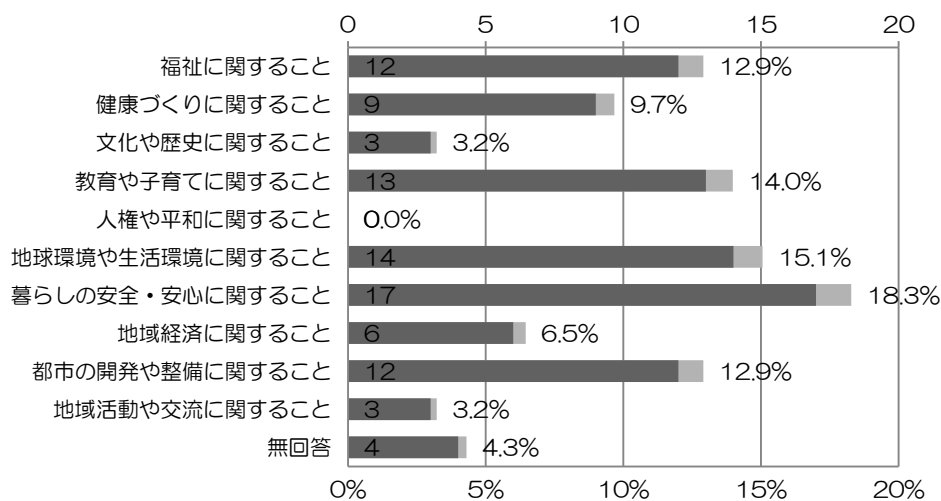


「協働」によるまちづくりについて尋ねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が20社、51.3%と最も多かった。次いで「協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので何とも言えない」10社、25.6%「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」3社、7.7%、「協働は特に必要とは思わない」2社、5.1%であった。(図4-3)

問21 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野

問21 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがあります。今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(〇は3つまで)

【図4-4 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野】



「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野について尋ねたところ、「暮らしの安全・安心に関すること」18.3%、次いで「地球環境や生活環境に関すること」15.1%、「教育や子育てに関すること」14.0%、「都市の開発や整備に関すること」、「福祉に関すること」が12.9%などであった。(図 4-4)

問 22 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的内容

問 22 問 21でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

【主な意見】福祉に関すること(回答数：2)

●	医療講演会
●	徘徊 SOS ネットワーク

【主な意見】健康づくりに関すること(回答数：1)

●	スポーツ大会を通じて健康になっていただくこと。
---	-------------------------

【主な意見】地球環境や生活環境に関すること(回答数：2)

●	キレイなまちづくりのために地域全体で清掃活動をする
●	清掃活動

【主な意見】暮らしの安全・安心に関すること(回答数：1)

●	深夜パトロール
---	---------

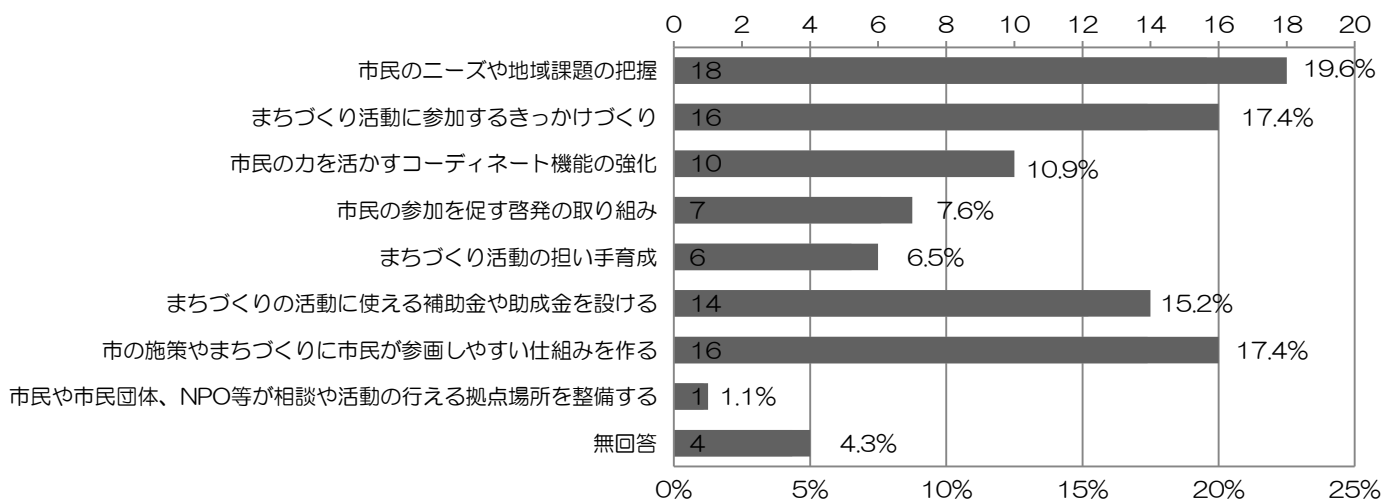
【主な意見】都市の開発や整備に関すること(回答数：2)

●	宜野湾市の中心であった普天間地区の都市開発と経済の向上
---	-----------------------------

問 23 「協働」によるまちづくりに対して市に期待すること

問 23 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは何だと思いますか。(〇は3つまで)

【図4-5 「協働のまちづくりに対して市に期待すること」】



「協働」のまちづくりに対して市に期待することについてたずねたところ、「市民のニーズや地域課題の把握」19.6%、「まちづくり活動に参加するきっかけづくり」、「市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みをつくる」が17.4%、「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」15.2%などであった。(図4-5)

5. 「自由意見」

問 24 「協働」によるまちづくりについてのご意見、アイデア等

問 24 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由にご記入ください。

【主な意見】「協働」によるまちづくりへの協力について(回答数：2)

●	弊社の持っている技術力、ノウハウを「協働」によるまちづくりに大いに活用していただければ幸いです。
●	コンベンションエリアの活性化、市民の方へのスポーツと触れ合う時間の更なる増加を市と地域と一体となって実現し、健康都市宜野湾の基盤を作る一助になりたいと思います。

【主な意見】地域経済に関すること(回答数：1)

●	地域内で使用できる商品券などの発行。
---	--------------------

【主な意見】都市の開発や整備に関すること(回答数：1)

●	都市モノレールを普天間まで延伸し交通網を整備する。普天間飛行場返還後、跡地に大型テーマパークを誘致する。
●	市民農園の開設など

6. まとめと今後の課題(企業対象)・・・有効回答数 39/100 回収率 39.0%

(1)企業(事業所)の概要【問2～問6】

【問2】で企業(事業所)の業種についてたずねたところ、「建設業」7社、17.9%が最も多く、次いで「医療・福祉」6社、15.4%、「卸売業・小売業」5社、12.8%の順であった。

【問3】で企業(事業所)の資本金についてたずねたところ、「1,000万円～3,000万円未満」12社、30.8%が最も多く、次いで「3,000万円～5,000万円未満」6社、15.4%、「300万円～500万円未満」、「500万円～1000万円未満」、「50億円以上」がそれぞれ、5社、10.3%の順であった。

【問4】で企業(事業所)の本社の所在地についてたずねたところ、「宜野湾市内」25社、64.1%と最も多く、次いで「宜野湾市以外の沖縄県内」9社、23.1%、「沖縄県以外の国内」2社、5.1%の順であった。

【問5】で企業(事業所)の営業年数についてたずねたところ、「30年以上～50年未満」11社、28.2%と最も多く、次いで「10年以上～20年未満」9社、23.1%、「50年以上」7社、17.9%の順であった。

【問6】で企業(事業所)の従業員数についてたずねたところ、「50～99人」12社、30.8%と最も多く、次いで「20～29人」10社、25.6%、「30～49人」8社、20.5%の順であった。

(2)企業(事業所)の地域貢献活動について【問7～問16】

●回答した企業(事業所)の約8割が「地域貢献活動」に取り組んでいる。

【問7】で企業(事業所)の地域貢献活動への取り組みについてたずねたところ、「取り組んでいる」31社、79.5%が最も多く、「取り組みについて検討中」2社、5.1%、「取り組んでいない」5社、12.8%であった。

●地域貢献活動の理由は「地域社会とのコミュニケーション」「利益の地域社会還元」

【問8】で地域貢献活動に取り組む理由についてたずねたところ、「地域社会とのコミュニケーション」26社、34.2%と最も高い。「利益の地域社会還元」15社、19.7%、「企業イメージ・知名度の向上など間接的なメリットがあるから」13社、17.1%、「従業員のモラルの向上、社内の活性化が期待できるから」11社、14.5%などであった。

●地域貢献活動は企業(事業所)の特性にあった活動を行っている。

【問9】で地域貢献活動の分野についてたずねたところ、「社会福祉・保健・医療」と「環境保護・保全」が15社、16.5%と最も多かった。次いで「文化・芸術・スポーツ」と「地域安全」が13社、14.3%、「学校教育・社会教育」11社、12.1%、などであった。「その他」と回答したなかには「雇用」と回答があった。

【問 10】で地域貢献活動の具体的内容についてたずねたところ、「社会福祉・保健・医療」分野では「医療に関する地域講演会の開催、認知症勉強会。健康講話。運動教室。認知症サポーター養成講座。認知症と家族の会、転倒予防教室講師、血圧測定、健康相談。」などであった。これは、回答のあった企業(事業所)の内、医療・福祉の業種を活かした地域貢献活動であると読み取れる。「環境保護・保全」分野での「地域の河川の清掃(社員・車両の派遣)、社屋周辺道路等の草刈、美化活動」などは、企業(事業所)にとっては、清掃のような人手が必要でイベント的な要素を持つ活動の方が参加しやすいと思われる。「文化・芸術・スポーツ」分野では、「地域で活躍しているスポーツ大会への物品協賛、芸術分野への協賛金」として、物品や資金面での貢献が行われている。「学校教育・社会教育」の分野での、「中学生の職場体験学習や社会見学」は企業(事業所)の持っている特性を雇用や教育の面から活かした活動である。

●企業(事業所)の地域貢献活動を推進する環境整備に向けた調査・研究が必要

【問 12】で地域貢献活動を進める上での課題についてたずねたところ、「社内の推進体制の整備が難しい」が30.6%と高い。次いで「従業員の参加が少ない」が16.3%、「コストがかかりすぎる」、「活動について相談できる行政等の窓口や連携できる団体が少ない」は8.2%であった。「その他」として回答したなかには、「従業員が活動で抜けた際の現場人員確保」が課題として挙げている。

【問 13】では今後の地域貢献活動の方向性をたずねたところ、「現在の規模を維持」が17社、43.6%、次いで「今後拡充の予定」11社、28.2%、「今後、新たに開始予定」1社、2.6%、「未定」は6社、15.4%であった。「後は縮小の予定」0であった。

今後の地域貢献活動の方向性については「現状維持」若しくは「拡充の予定」とする企業(事業所)が多い一方、地域貢献活動を進める課題として「社内の推進体制の整備が難しい」や「従業員の参加が少ない」などが挙げられている。今後は、企業(事業所)の地域貢献活動を推進する環境についての調査・研究が必要である。

●企業の地域貢献活動に関する情報提供や意見交換の場のづくりの創出

【問 15】では、これまで地域貢献活動をしてこなかった理由をたずねたところ、「忙しくて時間がない」が3社、「社会貢献を行うきっかけがつかめない」2社、「社会貢献に関する知識やノウハウがない」2社、「経済的な余裕がない」1社であった。

【問 16】では地域貢献活動を行う環境を作るための市役所の役割をたずねたところ、最も多かったのが「企業の地域貢献に関する情報提供」28社、29.5%、「企業と地域貢献活動を繋げるコーディネート機能」、「企業が地域貢献する際のルールや支援体制づくり」はそれぞれ24社、25.3%であった。

行政においては、多くの企業(事業所)が地域貢献活動に取り組めるよう、地域貢献活動に関する情報を一元的に管理するなどして、情報提供や意見交換の場をつくる必要がある。

(3)「協働」について【問 17～問 24】

●全体の7割以上が「協働」の内容について知らない

【問 17】で「協働」の認知度についてたずねたところ、「全く知らない」が 17 社、43.6%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」12 社、30.8%と併せると、全体の 74.4%を占めた。一方、「良く知っている」4 社、10.3%、「ある程度知っている」5 社、12.8%で併せると全体の 23.1%であった。

今後、「協働」によるまちづくりを進めていくためには、分かりやすい表現を用いて、概念や用語説明、事例紹介などの周知・啓発が必要である。

●半数の企業(事業所)が「協働したい」

【問 18】で企業の持つ知識や経験を活かして「協働」したいかたずねたところ、「協働したい」20 社、51.3%、「無回答」10 社、25.6%、「協働したくない」5 社、12.8%、「現在、協働している」4 社、10.3%であった。

【問 19】で今後「協働」したい具体的内容をたずねると、「地球環境や生活環境に関すること」として、「清掃ボランティア」や「地域資源を活かしたまちづくり。例えば大山の水田や湧水の保全と活用」などであった。そのほかには「各企業、各自治体、各団体が実際に取り組んでいる活動内容や情報を知りたい」や「案内が来れば賛同できるものは協働していきたい」もあった。

●「協働」によるまちづくりは、「今後、充実していくことが望ましい」が 20 社、51.3%

【問 20】で「協働」によるまちづくりについて尋ねたところ、「今後、充実していくことが望ましい」が 20 社、51.3%と最も多かった。次いで「協働の意味や効果、範囲がわかりにくので何とも言えない」10 社、25.6%「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」3 社、7.7%、「協働は特に必要とは思わない」2 社、5.1%であった。「市民アンケート」や「自治会アンケート」の結果と同様に、「協働」によるまちづくりについては肯定するものの、それ以前に、協働の意味や効果、範囲がわからないので判断できないと読み取ることができる。今後、「協働」によるまちづくりを進めるためには、「協働」の意味や必要性を理解する企業(事業所)向け学習会の実施や広報などを用いた啓発活動が必要である。

●「協働」が必要な分野は「暮らしの安全・安心」「地球環境・生活環境」「教育や子育て」が上位

【問 21】「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野についてたずねたところ、「暮らしの安全・安心に関すること」17 社、18.3%、次いで「地球環境や生活環境に関すること」14 社、15.1%、「教育や子育てに関すること」13 社、14.0%、「都市の開発や整備に関すること」、「福祉に関すること」が 12 社、12.9%などであった。

【問 22】で具体的内容をたずねると、「暮らしの安全・安心に関すること」では「深夜パトロール」であった。「地球環境や生活環境に関すること」では「キレイなまちづくりのために清掃活動」であった。

●市に期待することは「地域課題の把握」「まちづくり活動に参加するきっかけづくり」「市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みづくり」

【問 23】で「協働」のまちづくりに対して市に期待することについてたずねたところ、「市民のニーズや地域課題の把握」18社、19.6%、「まちづくり活動に参加するきっかけづくり」と「市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みをつくる」がそれぞれ16社、17.4%、「まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける」14社、15.2%などであった。

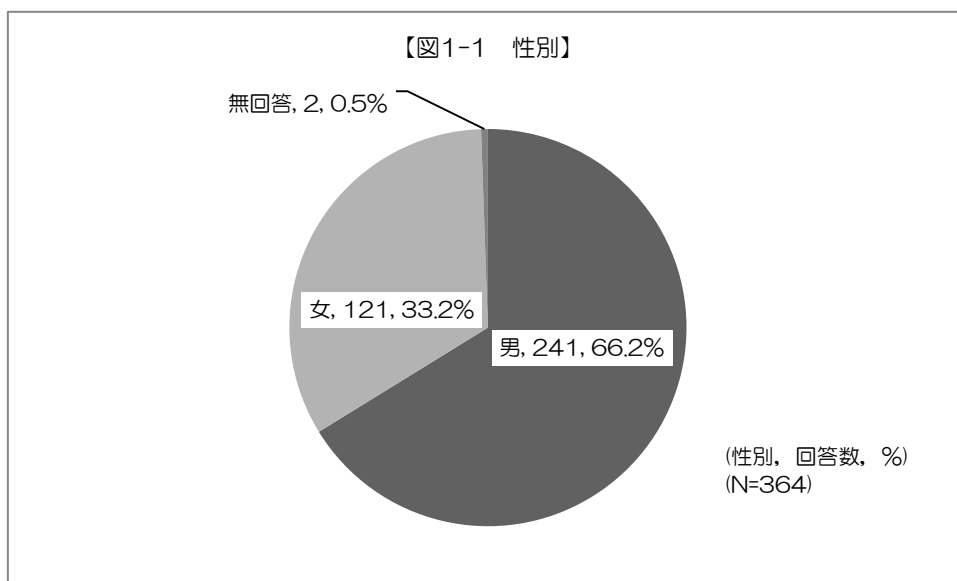
【問 24】で「協働」によるまちづくりについてのご意見、アイデア等などについてご意見をたずねたところ、「地域経済に関すること」として、「地域内で使用できる商品券などの発行」があった。

Ⅱ-5 調査結果

市職員対象

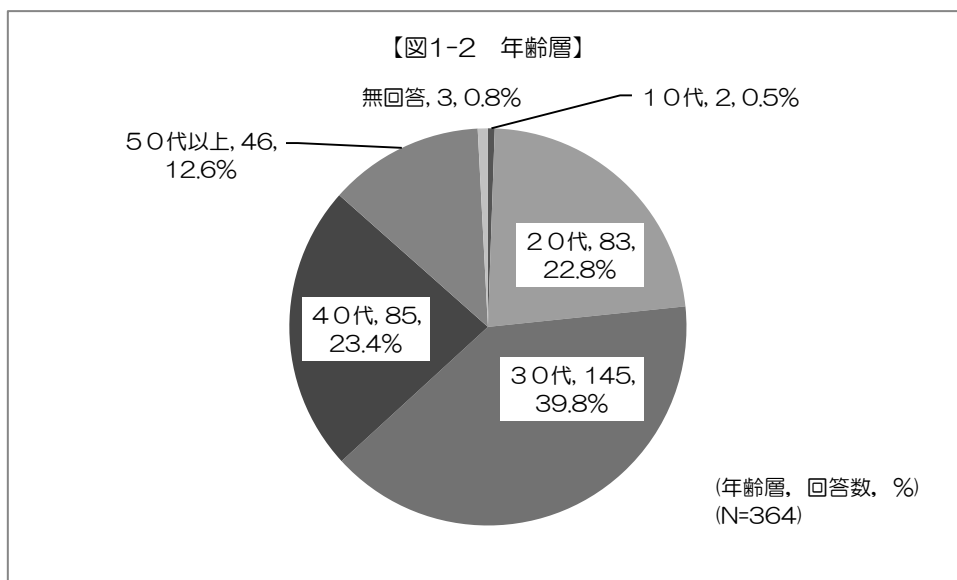
1. 基本属性

①性別



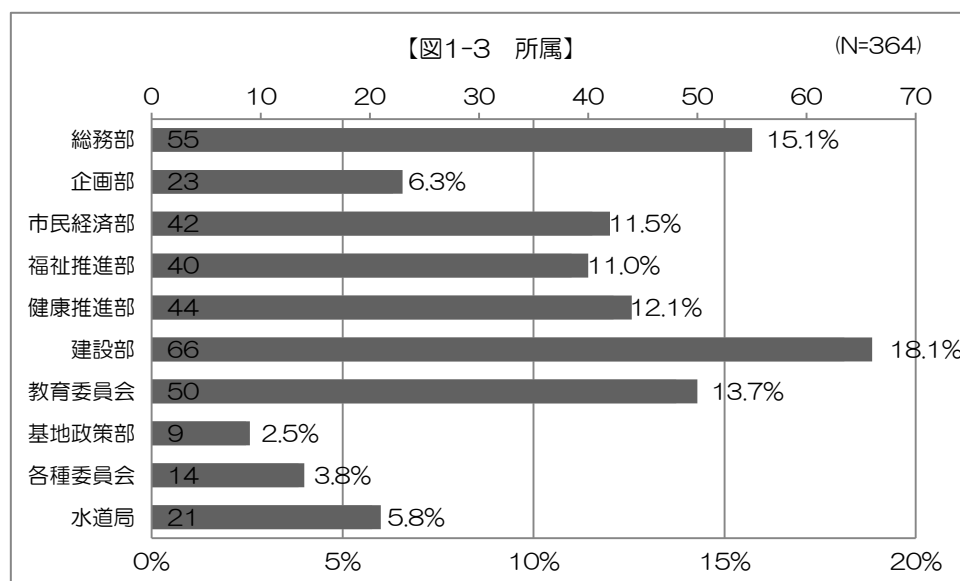
性別構成は、「男性」が66.2%、「女性」が33.2%であった。(図1-1)

②年齢層



年代は、「30代」39.8%と最も多く、次いで「40代」23.4%、「20代」22.8%、「50代以上」12.6%であった。(図2-2)

③所属

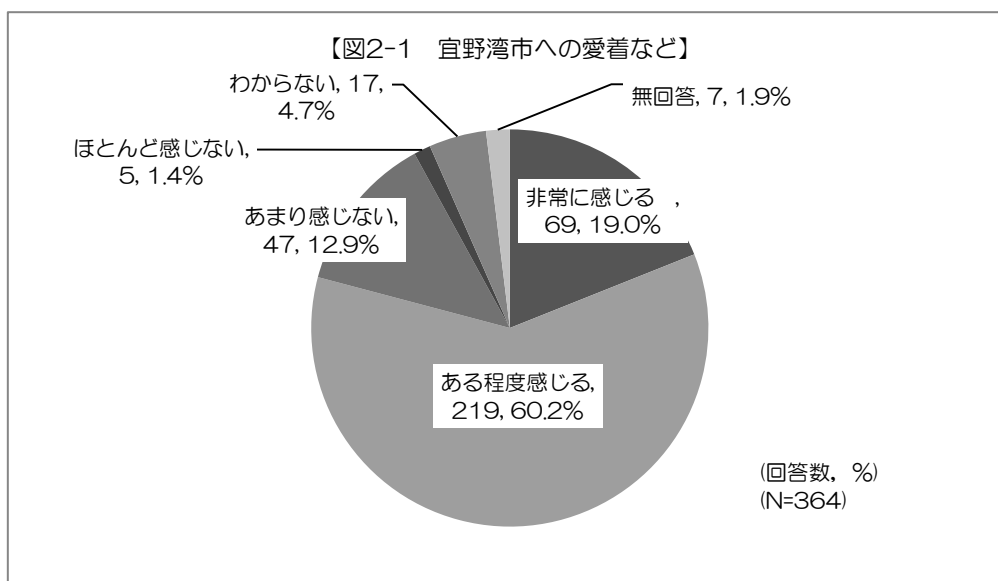


所属は多い順から「建設部」18.1%、「総務部」15.1%、「教育委員会」13.7%などであった。(図1-3)

2. 宜野湾市への「愛着」等

問1 宜野湾市への「愛着」など

問1 あなたは、宜野湾市に対して、「愛着」や「誇り」、「良い点」や「好きなどころ」を感じるがありますか？(〇は1つ)



宜野湾市への「愛着」などをたずねたところ、「非常に感じる」19.0%、「ある程度感じ

る」60.2%を併せると全体の約8割を占めている。一方で「あまり感じない」12.9%、「ほとんど感じない」1.4%とする割合は全体の約14.3%であった。(図2-1)

問2 「愛着」等の具体的内容

問2 問1で1.「非常に感じる」若しくは2.「ある程度感じる」とお答えした方におたずねします。宜野湾市に対してどのような「愛着」や「誇り」、「良い点」や「好きなどころ」を感じていますか？具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

【主な意見】生まれ育った愛着・住み慣れている(回答数：78)

●	生まれ育った街である事。地域のつながりが残っているところ。
●	生まれてからずっと宜野湾市なので愛着はある
●	宜野湾市で生まれ育ったので、近所の公園など深い思い出があり「愛着」を感じております
●	長年住んできた住みなれた場所としての愛着、市の職員として市のために働いていることから愛着を感じます

【主な意見】立地環境が良い点(回答数：66)

●	住環境の良さや歴史など。普天間の街並みや雰囲気。西海岸の風景、大山田いも、湧水のある景色
●	大学が近くにあり子育てがしやすい、市民パーク等にスポーツ施設が充実している。
●	公園や運動施設が整備されており、子どもから高齢者までの各世代が遊ぶ、ふれあい、健康づくりの場として利用しやすい
●	都会すぎず田舎すぎないので街としてバランスがよく暮らしやすい
●	交通アクセスの良さ、近隣に大学が数か所あり教育環境も良い。治安も悪いとまで言えないので適度に住みやすいのではないかと思います

【主な意見】人のやさしさ、つながり(回答数：22)

●	自治会活動等、地元・地域の住民同士のつながりが強いところ。
●	地域間の連携がある。昔からの伝統行事が継承されている。移動に便利である。
●	はごろも祭りや地区の青年会でやるエイサーなどのイベントが好きです。
●	地域に住む区民との交流の機会がある時に安心した気持ちになり、愛着を感じることもある
●	元々の宜野湾市民は温かい方が多く、県外や他市町村からの転入者にも優しい。

【主な意見】未来の発展に向けた可能性(回答数：9)

●	普天間飛行場をはじめ将来成長できる伸びしろが大きい。
---	----------------------------

●	周辺の市町村とは違い、都市計画、創造において新しい試みが可能な唯一の市だと考えている。今後の市の歩み次第で、いろいろなまちにしてゆくことができる。
●	世間では人口減少が問題になっているが、当市は増加傾向にあり、また分校ができるなど子どもも増加していると思う。そのことを誇りに思っています。
●	今後は西海岸地域の発展、西普天間跡地利活用で将来が楽しみな都市になると思います。

【主な意見】 その他(回答数：5)

●	元気で活気がある
●	市のイベントが多い
●	子育て支援に力を入れているところ、独自のイベント開催しているところ（トロパ等）、オレンジリボンTシャツやちゅらがんじゅう体操など各課工夫しているところ、勤労青少年ホームでの教養講習のサポート等

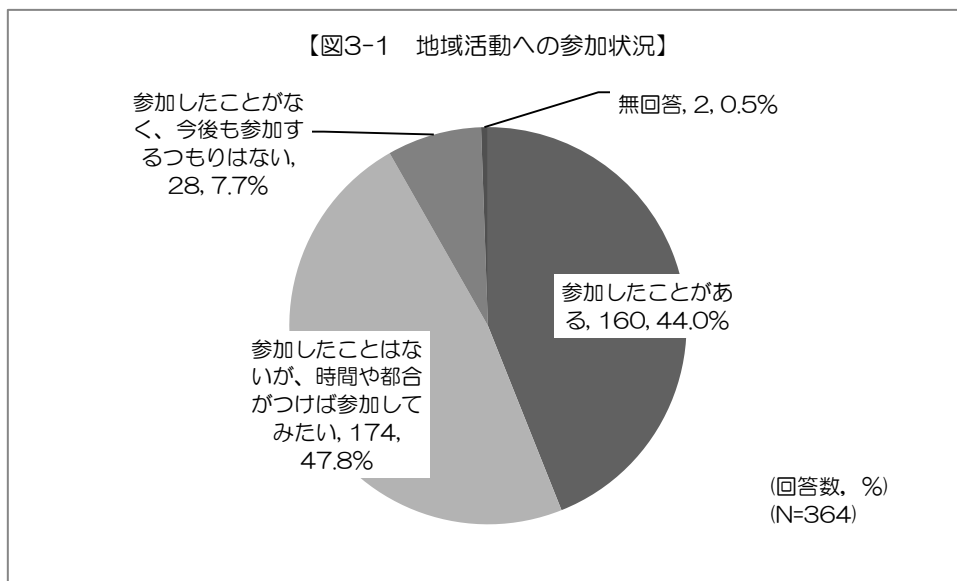
【主な意見】 安心、安全なところ(回答数：3)

●	治安が良く住みやすい
●	通学路の交通指導

3. 地域活動について

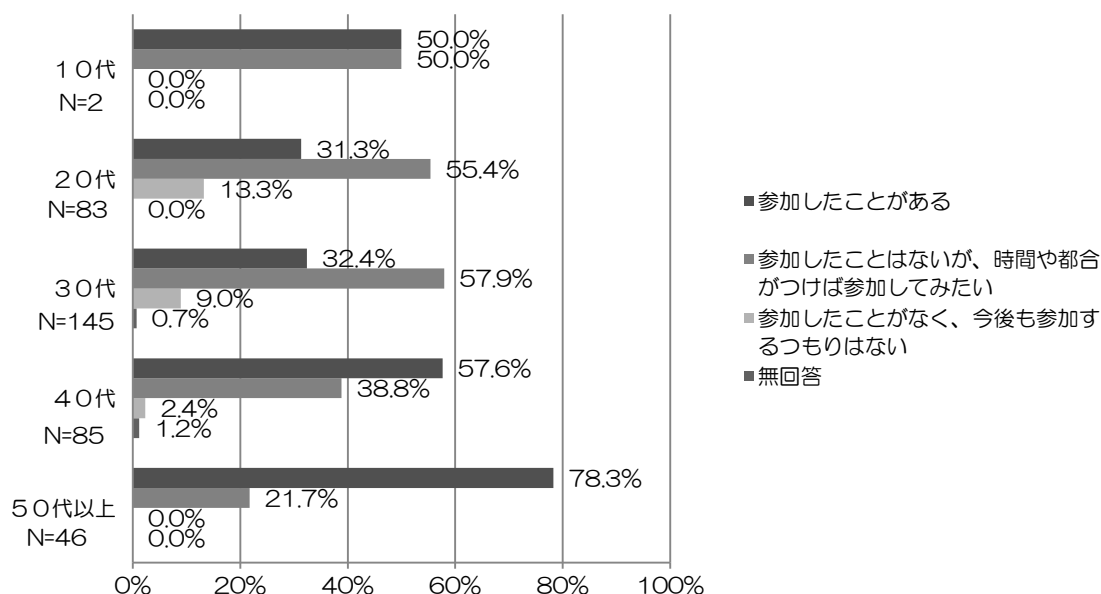
問3 地域活動への参加状況

問3 あなたは「地域活動」に参加したことがありますか？（○は1つ）



「地域活動」への参加状況をたずねたところ、「参加したことがある」44.0%、「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」47.8%を併せると、全体の9割を占めている。逆に「参加したことがなく、今後も参加するつもりもない」7.7%であった。(図3-1)

【図3-2 地域活動への参加状況（年代別）】 (%)



「地域活動」への参加状況を年代別で見ると「20歳代」「30歳代」は、「参加したことがある」よりも「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」が多いのに対して、「40歳代」「50歳代以上」は「参加したことがある」の方が「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」よりも多い。(図3-2)

問4 参加した地域活動の具体的な内容

問4 問3で1.「参加したことがある」とお答えした方におたずねします。どのような「地域活動」に参加しましたか？具体的な内容について、ご記入ください。

【主な意見】 道路や公園などの地域の清掃活動(回答数：33)

●	自治会活動として地域の草刈
●	海岸清掃、学校内清掃、草花植え、樹木の枝切

【主な意見】 地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事(回答数：14)

●	青年会活動、祭り等のイベントの手伝い
●	自治会エイサー祭り、三線クラブ(自治会)
●	グラウンドゴルフ大会

【主な意見】子どもの見守り・夜間の見回り防犯活動(回答数：13)

●	通学路の交通指導、夜間パトロール
●	夏休み防犯パトロール

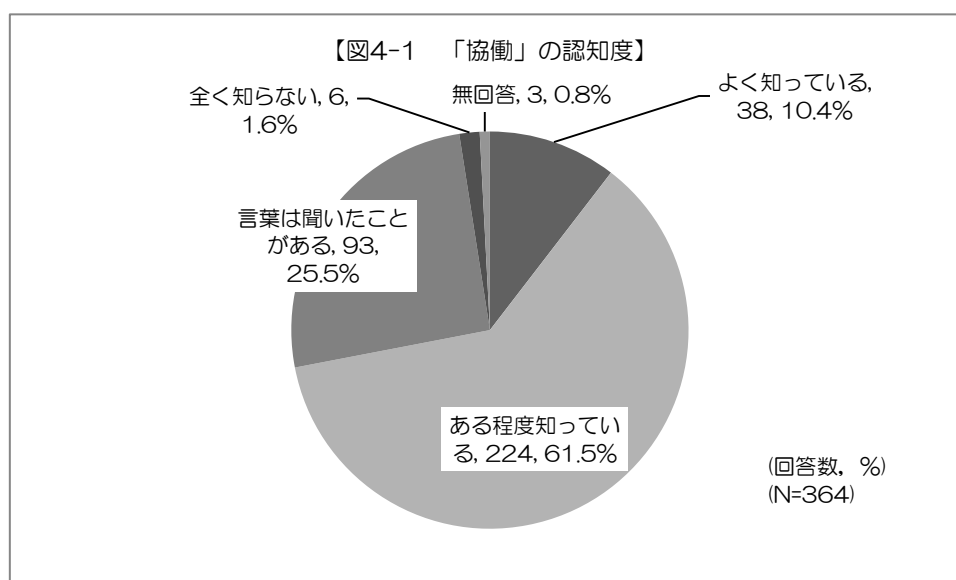
【主な意見】地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事(回答数：8)

●	市内の少年野球の大会運営などを行っている。
●	ミニバスケットや少年野球の手伝いをした。
●	地域の子どもたちに対するスポーツ指導

4. 「協働」について

問5 「協働」の認知度

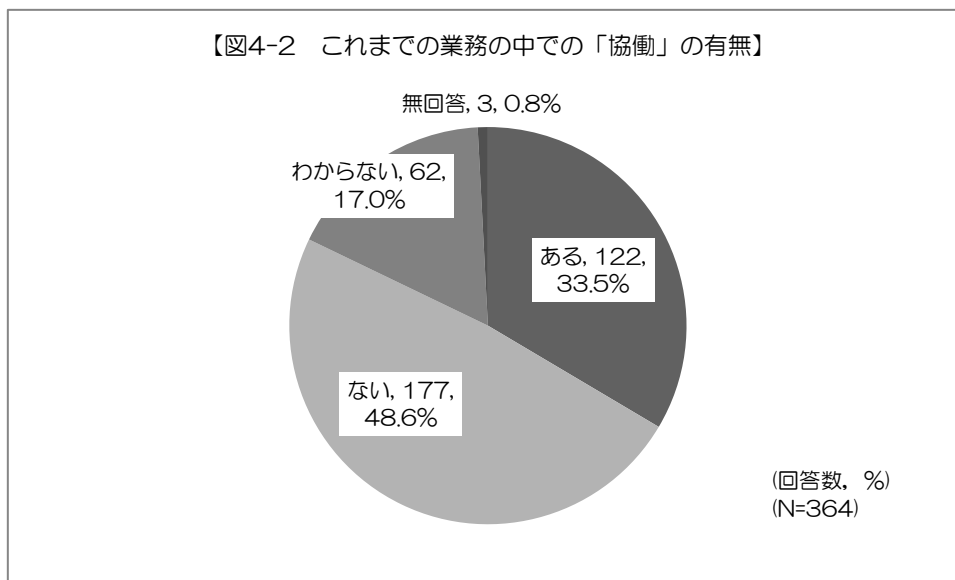
問5 「協働」と言う言葉を知っていますか。(〇は1つ)



「協働」についての認知度としては、「ある程度知っている」が61.5%と最も多く、「よく知っている」10.4%と併せると、全体の約7割を占めた。一方、「言葉は聞いたことがある」25.5%、「全く知らない」1.6%であった。(図4-1)

問6 これまでの業務の中での「協働」の有無

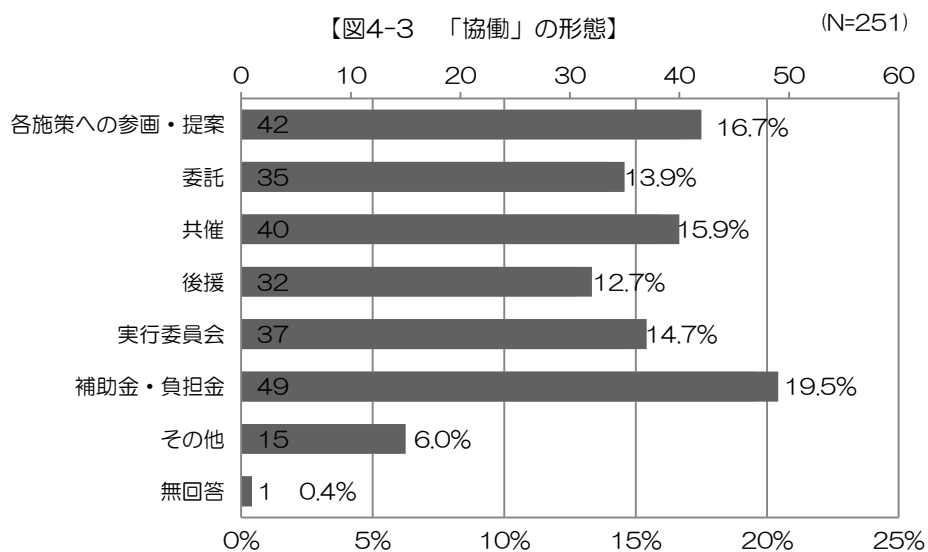
問6 あなたがこれまでに担当した業務の中で、地域団体(自治会)、市民団体、ボランティア、NPO、教育機関、民間企業などと「協働」した経験がありますか。



これまでの業務の中で「協働」した経験がありますかとたずねたところ、「ない」48.6%、「ある」33.5%、「わからない」17.0%であった。(図4-2)

問7 「協働」の形態

問7 問6で 1.「ある」を選んだ方に伺います。協働した内容はどのような内容でしたか。
(当てはまるもの全てに○)



これまでの業務の中での「協働」の形態についてたずねたところ、「補助金・負担金」19.5%と最も多く、次いで「各施策への参画・提案」16.7%、「共催」15.9%、「実行委員会」14.7%、「委託」13.9%であった。「その他」と回答したなかには「市民への支援で関係機関と協働し対応。」などもあった。(図 4-3)

問 8 「協働」した具体的内容

問 8 差し支えがなければ、問 7 の協働した具体的な内容について、ご記入ください。

【協働した具体的内容】各施策への参画・提案に関すること(回答数：30)

●	市民提案制度を活用してもらい、市民からの事業提案を採択、実施した。
●	宜野湾市の職員(若干)と市在住市内在勤の方々と宜野湾市のまちづくりに関して提案をした
●	計画策定に係る市民公募、パブリックコメント
●	青年会議所と共催して宜野湾市のまちづくりを市民と話し合う「市民討議会」を開催した。

【協働した具体的内容】補助金・負担金に関すること(回答数：8)

●	NPO 法人コンベンションシティ会の活動費補助。
●	自治会への育成補助金、事業費補助金等
●	地域づくり助成事業によって、地域で活動したい団体に助成を行っている
●	地域福祉振興基金を活用しての自治会への補助金交付業務。

【協働した具体的内容】実行委員会に関すること(回答数：7)

●	実行委員会としての協働として沖縄マラソン及び中部トリムマラソン大会。
●	ぎのわん車イスマラソン
●	オスプレイ配備に反対する市民大会

【協働した具体的内容】共催に関すること(回答数：6)

●	NPO と市で講座の開催
●	西海岸地区津波避難訓練の開催
●	チャリティーショーの開催等

【協働した具体的内容】委託に関すること(回答数：6)

●	宜野湾バイサイド情報センターの指定管理（民間への委託）。
●	介護予防事業及び高齢者相談体制への提案と委託
●	シルバー人材センターへの市報配布委託
●	市民課窓口業務委託

【協働した具体的内容】後援に関すること(回答数：3)

●	NPO 法人、商工会のイベントの後援。
●	協議会、シンポジウムや大会への後援
●	イベント等の後援・協力等

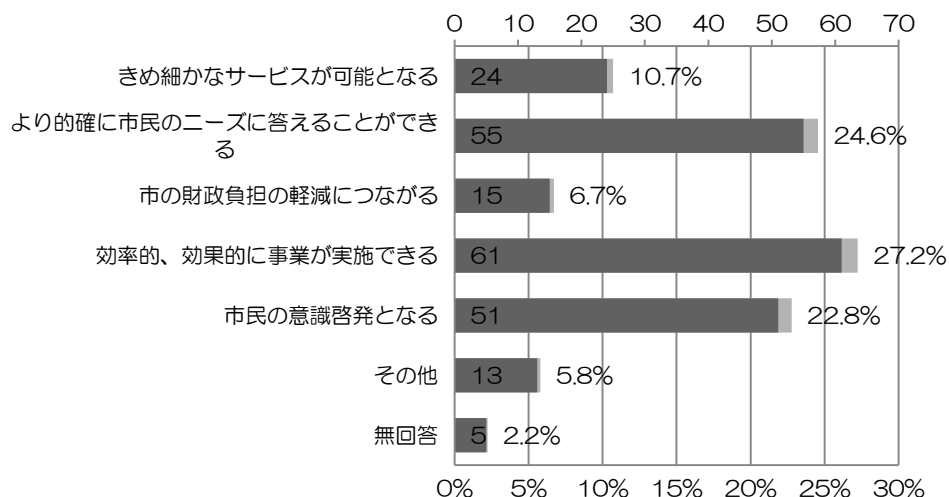
【協働した具体的内容】その他に関すること(回答数：3)

●	教育委員会で琉球大学と協働して学力向上に向けて取り組んでいる
---	--------------------------------

問9 「協働」した理由について

問9 問6で、1「ある」を選んだ方に伺います。協働した理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

【図4-4 「協働」した理由】 (N=224)



「協働」した理由についてたずねたところ、「効率的、効果的に事業が実施できる」27.2%と最も多く、次いで「よりの確に市民ニーズに答えることができる」24.6%、「市民の意識啓発となる」22.8%などであった。「その他」と回答したなかには「ノウハウがある、専門的知識が深い」「自治会・区民同士、また区民と役所との絆を深める、郷土を知る」「公共施設に愛着を持ってもらえる」などもあった。(図4-4)

問10 「協働」した際の課題について

問10 問6で、1「ある」を選んだ方に伺います。協働した際に、課題と感じたことがありましたら、ご記入ください。

【協働した際の課題】関係性の構築について(回答数：18)

●	気軽に意見が言える関係性。
●	対等な関係が難しい、調整のために逆に業務が増えることもある
●	参加した方々の意識がまだ「行政まかせ」となっている。
●	参加・協力する方が固定化している

【協働した際の課題】適正な人材(回答数：10)

●	市と協働する側の担当者などの変更により、停滞してしまうこと。
●	事業の継続性（職員側の協力体制）、コーディネート力
●	育成の強化が求められ、協働事業者に対して人材育成が必要と考える
●	20・30～50代の参加者が極めて少ない

【協働した際の課題】協働に関する情報・理解不足(回答数：8)

●	どうしても行政への要望や陳情になりがちな印象がある。
●	「協働」という言葉が堅いイメージがあるため、市民などへの浸透がしづらい。
●	市民の要望をあげる機会のようにになってしまう。市民側にも財政面や反対意見のことなどキチンと理解してもらって、その上で協働することが必要だと思う

【協働した際の課題】事務量の増大(回答数：7)

●	事業実施までの間に委託業者との綿密な事務調整が必要である。
●	せっかく参加した全員が満足できる結論を導くための時間が行政も市民側も確保しにくい。
●	共通認識を図るまでに時間がかかったこと

【協働した際の課題】「協働」の仕組み・制度ができていない(回答数：7)

●	意識の高い市民はいるのですが、その輪が大きにならない。
●	行政・市民との明確な役割分担。目的とそれを達成するためのやり方等について共通認識をもつ
●	中心となるメンバーや立ち上げ時の会議開催において、どの規模・どれぐらいの頻度で実施した方が効果的・効率的にまとまるのか判断しづらい。
●	情報提供の仕方、説明の仕方、意見のまとめ方、モチベーションの維持方法、参加人

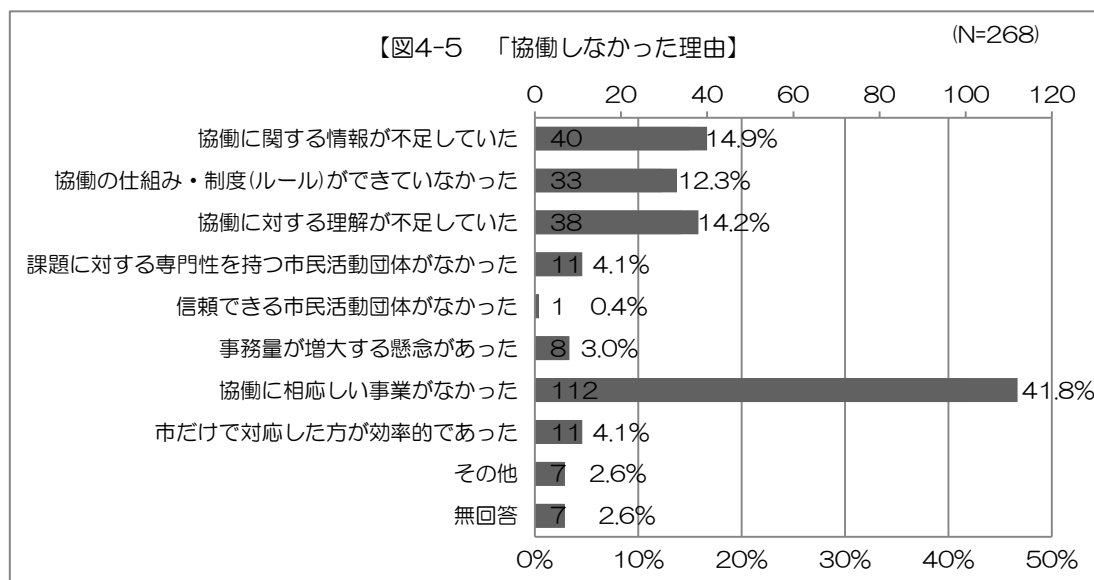
数の確保

【協働した際の課題】 補助金への依存(回答数：1)

- 補助金について貰うことが当たり前になっていると感じることがある。あくまでも自立を支援すべきであり、毎年当然のように補助金を出すことをしたくない。補助を受けている団体のためにもならない。

問1 1 「協働」しなかった理由

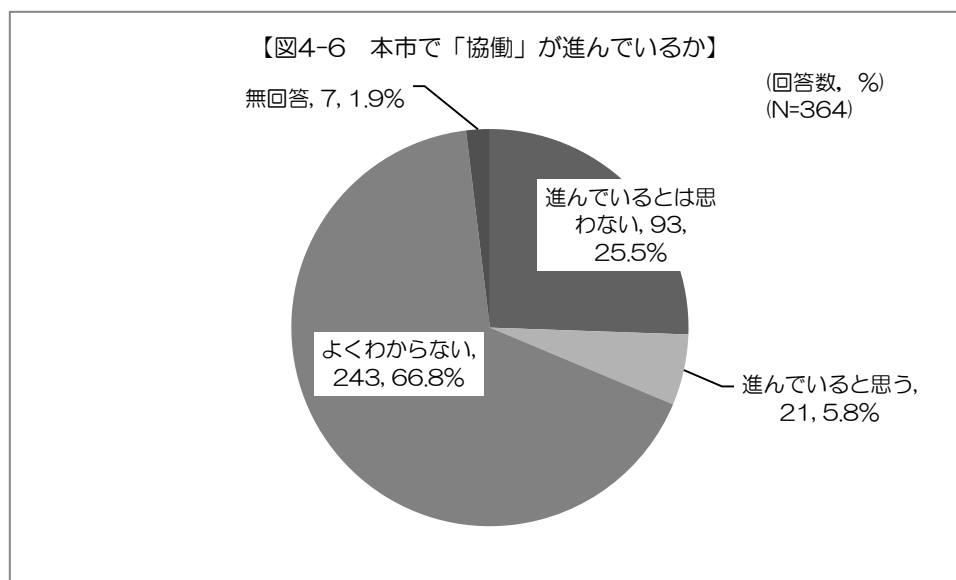
問1 1 問6で、2「ない」を選んだ方に伺います。これまで担当した業務で、協働しなかった理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



「協働」しなかった理由についてたずねたところ、「協働に相応しい事業がなかった」41.8%と最も多く、次いで「協働に関する情報が不足していた」14.9%、「協働に対する理解が不足していた」14.2%、「協働の仕組み・制度(ルール)ができていなかった」12.3%などであった。「その他」と回答したなかには「行政機関と連携することが多い業務のため」「事業をもたない係であったため」とあった。(図4-5)

問12 本市で「協働」が進んでいるか

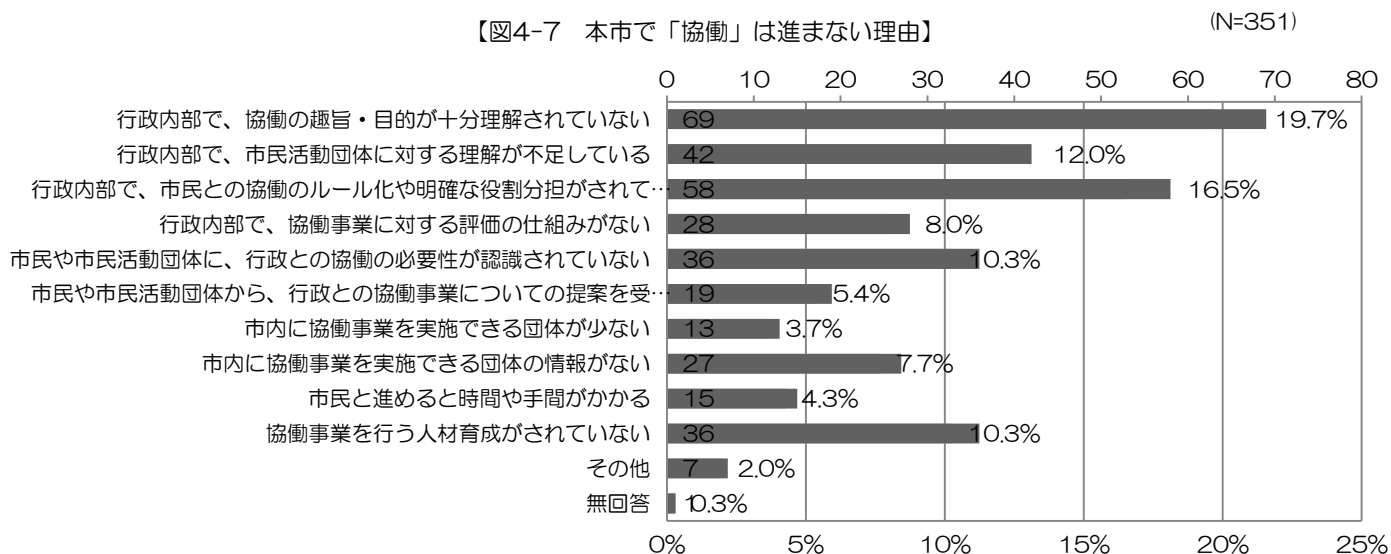
問12 本市において、協働が進んでいると思いますか。(〇は1つ)



本市で「協働」が進んでいるかたずねたところ、「よくわからない」が66.8%と最も多く、次いで「進んでいるとは思わない」25.5%であった。一方で「進んでいると思う」は5.8%であった。(図4-6)

問13 本市で「協働」が進んでいると思わない理由

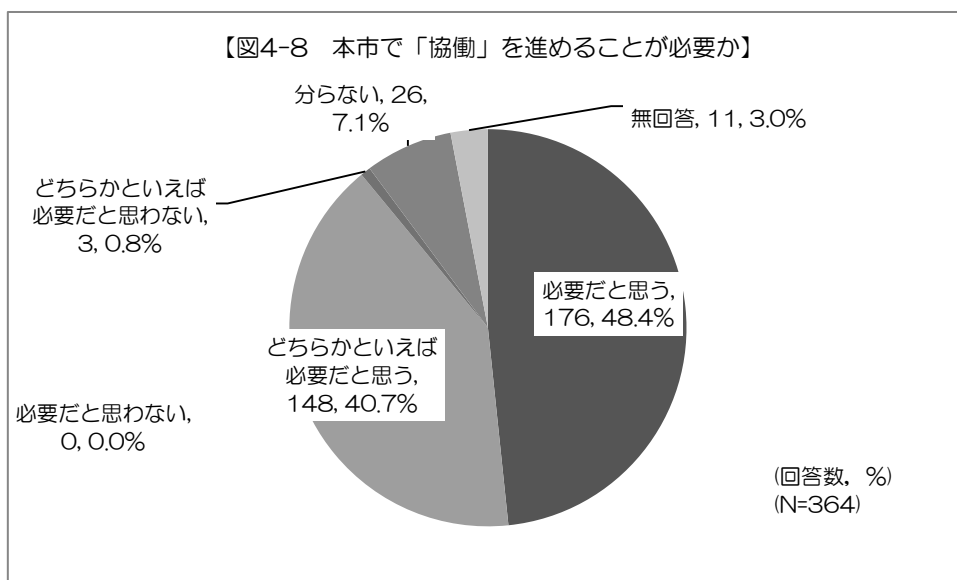
問13 問12で1「進んでいると思わない」を選んだ方に伺います。本市において協働が進んでいると思わない理由は何だと思えますか。(当てはまるもの全てに〇)



本市で「協働」が進まない理由をたずねたところ、「行政内部で、協働の趣旨・目的が十分理解されていない」が19.7%と最も多く、次いで「行政内部で、市民との協働ルール化や明確な役割分担がされていない」16.5%、「行政内部で、市民活動団体に対する理解が不足している」12.0%などであった。「その他」と答えた中には「協働を進めていけるだけの余力がない」や「市民の方々は個々人の要望が多く” 地域を良くするには” という視点があまり無いような気がする。お互いにすり合せは必要だと思う。」という意見もあった。(図4-7)

問14 今後、本市で「協働」を進めることが必要か

問14 今後、本市において、協働を進めることが必要だと思いますか。(〇は1つ)

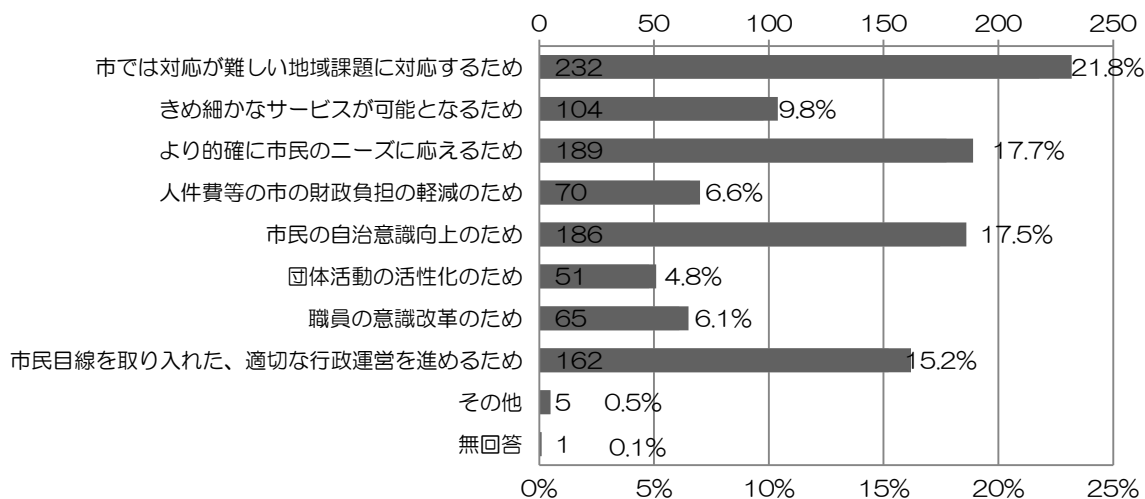


本市で「協働」を進めることが必要かたずねたところ、「必要だと思う」が48.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば必要だと思う」40.7%、一方で「どちらかといえ必要だと思わない」は0.8%、「必要だと思わない」は0であった。(図4-8)

問15 今後、本市で「協働」が必要だと思う理由

問15 問14で、1「必要だと思う」若しくは、2「どちらかといえば必要だと思う」を選んだ方に伺います。市の協働が必要だと思う理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

【図4-9 本市で「協働」が必要だと思う理由】 (N=1065)



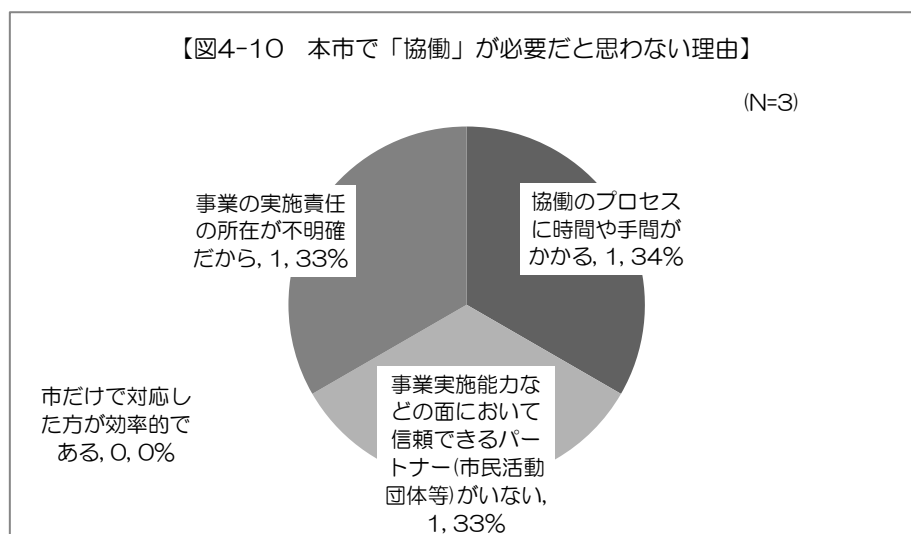
本市で「協働」が必要だと思う理由をたずねたところ、「市では対応が難しい地域課題に対応するため」が21.8%、次いで「よりの確に市民のニーズに応えるため」17.7%、「市民の自治意識向上のため」は17.5%、などであった。「その他」と答えたなかには「共に取り組むことでお互いの誤解や不満の解消につながると思うから、共通認識が深まれば事業の効率化にもいいと思う」との意見もあった(図4-9)

問16 本市で「協働」が必要だと思わない理由

問16 問14で3、「どちらかといえば必要だと思わない」若しくは、4、「必要だと思わない」を選んだ方に伺います。市の協働が必要だと思わない理由は何だと思いませんか。(当てはまるもの全てに○)

【図4-10 本市で「協働」が必要だと思わない理由】

(N=3)

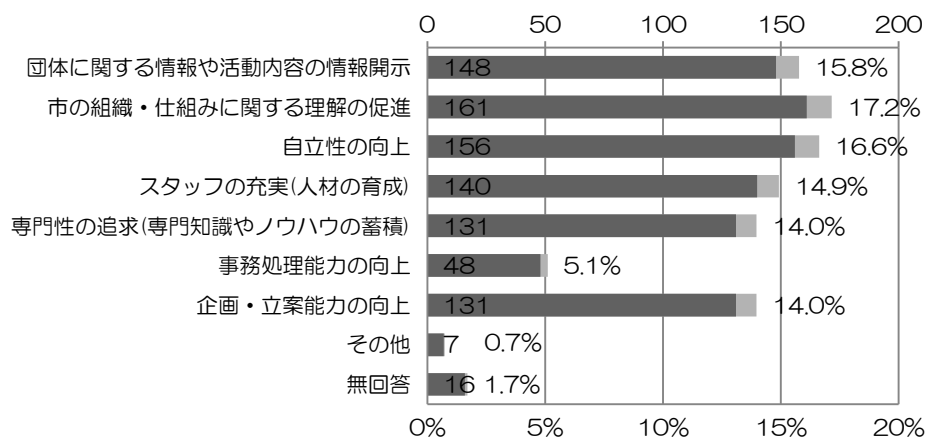


本市で「協働」が必要だと思わない理由をたずねたところ、「協働のプロセスに時間や手間がかかる」、「事業実施能力などの面において信頼できるパートナー(市民活動団体等)がない」、「事業の実施責任の所在が不明確だから」がそれぞれあった。(図 4-10)

問17 「協働」によるまちづくりを進めていくために期待すること

問17 市行政の「協働」によるまちづくりを進めていくために、地域団体(自治会)、市民団体、ボランティア、NPO、教育機関、民間企業などに期待することは何ですか。(当てはまるもの全てに〇)

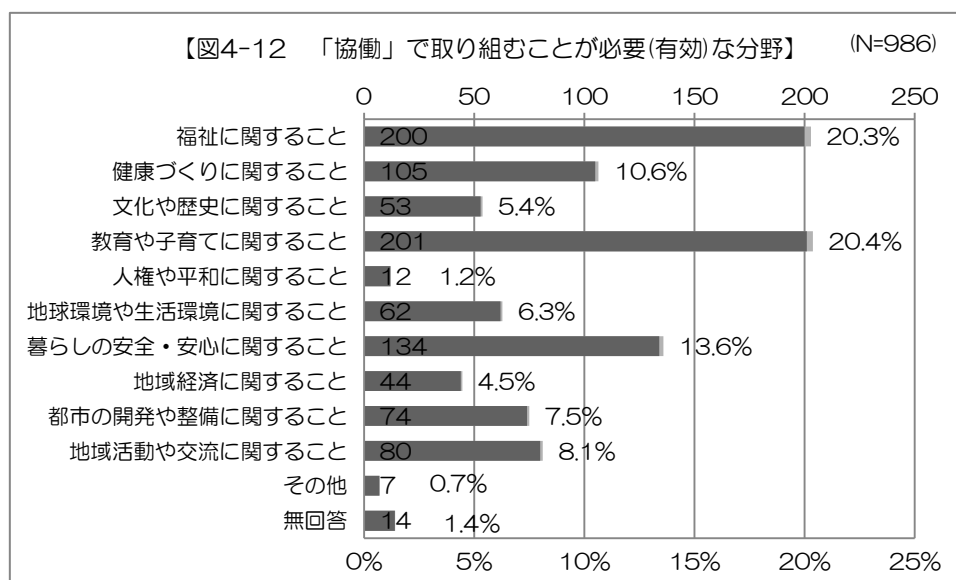
【図4-11 「協働」によるまちづくりを進めていくために地域団体(自治会)、市民団体、ボランティア、NPO、教育機関、民間企業など期待すること】 (N=938)



「協働」によるまちづくりを進めていくために期待することをたずねたところ、「市の組織・仕組みに関する理解の促進」17.2%、「自立性の向上」16.6%、「団体に関する情報や活動内容の情報開示」15.8%などであった。「その他」と回答したなかには「自分たちのまちを良くしていこうという意識の高揚」や「お互いの交流、歩み寄り、理解」との意見もあった。(図 4-11)

問 18 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野

問18 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがあります。今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(〇は3つまで)



「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野について尋ねたところ、「教育や子育てに関すること」20.4%、次いで「福祉に関すること」20.3%、「暮らしの安全・安心に関すること」が13.6%「健康づくりに関すること」10.6%、などとなっている。「その他」と回答したなかには「防災に関する事(ラジオ・TVで情報が得られない時の対応)」もあった。(図4-12)

問 19 「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野の具体的内容

問19 問18でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

【主な意見】福祉に関すること(回答数：12)

●	地域の方々の見守り、困っている方々のサポートなど
●	一人親家庭の自立に向けた制度の充実、生活困窮世帯への地域でのフォロー
●	子どもや高齢者の見守り(虐待通報など)、認知症サポーター、自殺のゲートキーパーなど、銀行やスーパー、郵便局などと協働して、もっと広範囲に普及ができないかと思う(緊急事案については情報提供のルートを作ることも必要かもしれないと思う)

【主な意見】都市の開発や整備に関すること(回答数：10)

●	特に都市開発の分野は将来にわたるまちのあり方を決めていくことなので、より、多方面の方々のアイデアや思いを話し合う場が必要と思う。
●	公民連携による公共公益施設の整備・維持管理（住民組織の立ち上げと活動支援、計画段階からの参画（PI）、完成後のサポート（イベント、祭りの開催、ボランティアサポートプログラム））
●	公共施設等の設計や企画、課題の整理等を市内の学生（大学、専門学校、工業高校等）に依頼することで人材育成にプラスして市の愛着を植えつけられるのでは？

【主な意見】教育や子育てに関すること(回答数：6)

●	学校現場へのボランティア参加（交通安全、下校パトロール、読み聞かせ、環境美化作業等）
●	保育園に入所できずに「待機児童」の問題がある。子育てを終えた市民の方や NPO 団体など地域の人たちと協力すれば、問題が少しでも解決するのは。
●	子どもの貧困に関する分野において公助だけでは目が行き届かない地域に埋もれたところに共助としての関わりが必要である。

【主な意見】文化や歴史に関すること(回答数：5)

●	文化財を活かしたまち（地域）づくり、文化財の利活用
●	シルバーによる歴史（市の文化等）講座

【主な意見】暮らしの安全・安心に関すること(回答数：2)

●	暮らしの安全安心に関して市民が自治体任せの意識でなく自治体と協力しながら自立した対応を進めていくことが必要であると考えます。（自主防災組織に加えて）
---	--

【主な意見】地域経済に関すること(回答数：3)

●	商店街などの町おこしイベントアイデア募集
●	現在減少している通り会等を若手中心に立ち上げ地域の経済活性化、それに伴うまちづくり。
●	普天間グリーンベル商店街に空き店舗が多いので活性化するような活動

【主な意見】地域活動や交流に関すること(回答数：3)

●	60歳で定年を迎えた方の中には、社会貢献をする場を探している方も少なくない。そのような方々は、体力と知恵もあるので、地域課題を解決するための仕組みづくりができないか？
●	地域の課題は地域住民が課題解決も地域住民が持っていると思われるため、情報共有

的な活動があれば地域活性化につながるのではないかと

【主な意見】 その他(回答数：5)

- | | |
|---|---|
| ● | 市内には大学があり、また隣の市町村にも大学があることから子供の将来を最優先に考えた分野の充実が市の発展に一番貢献するのではないかとと思う。 |
| ● | 本市は近くに大学があるのでこれらの大学と連携をとっていければいいと思う |

5. 「自由意見」

問20 「協働」によるまちづくりについてのご意見、アイデア等

問20 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由に記入ください。

【主な意見】 「協働」に対する職員の意識改革(回答数：12)

- | | |
|---|---|
| ● | まず職員が「協働」を理解し、その実践に必要なスキルを身につけていくこと。また、実際に業務において協働の取り組みを行う。 |
| ● | 職員への意識啓発が重要だと思います。目の前の業務に追われ”まちづくり”を考える時間や機会が与えられていない。市民の方がよっぽど宜野湾市のまちづくりを考え行動している。 |
| ● | 職員は自治会活動へ積極的に参加するべきだと思う、そうすれば地域の課題も見えてくると思います。 |

【主な意見】 情報発信・意見交換の場づくり(回答数：9)

- | | |
|---|---|
| ● | 「協働」という具体的なイメージがつかない人が多いのではないかと(庁内外問わず)成功例を示して自分たちも何かできるのではと考えてもらう方法もあるのでは |
| ● | NPO や各種団体の情報提供(窓口) |
| ● | 市やコミュニティーにおいて、参加者がざっくばらんに本音で話し合えるどれだけあるかが現在および今後重要になってくるかだと思います。その話し合いで出るアイデアが、沢山の地域課題を解決していく力になると思います。 |
| ● | 自治会、市民団体、NPO、ボランティア、教育機関、民間企業などそれぞれと市長はじめ幹部(部長職以上)が行財政改革に対する説明や市の現状の課題を話し合う。また一般市民を対象にした「出前トーク」を開催し、市政の現状及び未来について意見交換を行う。話し合いの場を設けて行財政改革など市政に対する理解を得ることで、市民による市政参画意欲が増すと思う。 |

【主な意見】 協働の仕組み・制度の構築(回答数：5)

- | | |
|---|--|
| ● | 協働という言葉はよく耳にしますが、具体的にどういう分野でどういうルール行って |
|---|--|

	いくかがあいまいな感じがします。ある程度の骨組みを本指針の中に記載して頂けると行政・市民・関係団体も活動しやすいかなと考えます。
●	パブリックコメントなどの制度のマニュアル化
●	市職員は条例・規則に則り業務を行うので、市民の方々に理解頂くと同時に協働しやすい条例・規則の整備が必要かと思う。
●	NPO 法人の活動を促進するため、例えば会場利用料の減免等の配慮が必要と思われる（市との関連事業、自主事業）

【主な意見】「協働」する人材育成(回答数：2)

●	協働する人材の育成も重要
●	各種団体（あるいは庁内の各部署）と連携して事業を行う場合には、事業の必要性を各々が理解し、意識を共有し取り組むことが必要であると感じる。そのため職員に求められるのは遂行しようとする熱意と調整能力、物事を的確に分りやすくまとめ説明する能力であると思う。そのような能力を持った人材を育成することは協働によるまちづくりを実現するためには必要ではないかと感じている。

6. まとめと今後の課題(市職員対象)・・・有効回答数 364/414 回収率 87.9%

(1) 宜野湾市への「愛着」など【問 1～問 2】

●最も多いのは「生まれ育った・住み慣れた愛着」、次いで「立地環境が良い点」

【問 1】で宜野湾市への「愛着」などをたずねたところ、「非常に感じる」19.0%、「ある程度感じる」60.2%を併せると全体の約 8 割であった。一方、「あまり感じない」12.9%、「ほとんど感じない」1.4%とする割合は全体の約 14.3%であった。

【問 2】で具体的にどのようなところに「愛着」や「誇り」、「良い点」や「好きなところ」を感じているかとたずねると、「生まれ育った・住み慣れた愛着」が最も多く、次いで「立地環境が良い点」、「人のやさしさ、つながり」、「今後のまちの発展性」の順であった。

「生まれ育った・住み慣れた愛着」としては、「宜野湾市で生まれ育ったので、近所の公園など深い思い出があり、愛着を感じる」、「長年住んできた住みなれた場所としての愛着」を挙げており、次いで「立地環境が良い点」では「住環境の良さや歴史など。普天間の街並みや雰囲気。西海岸の風景、大山田いも、湧水のある景色」などが挙がっていた。「人のやさしさ、つながり」では、「自治会活動等、地元・地域の住民同士のつながりが強いところ」や、「元々の宜野湾市民は温かい方が多く、県外や他市町村からの転入者にも優しい」もあった。「今後のまちの発展性」では「今後は西海岸地域の発展、西普天間跡地利活用で将来が楽しみな都市になる」、「世間では人口減少が問題になっているが、当市は増加傾向にあり、また分校ができるなど子どもも増加していることを誇りに思う。」などであった。

(2) 地域活動について【問 3～問 4】

●時間や都合がつかない職員が参加しやすいような環境づくりや参加意識の啓発が必要

【問 3】で、「地域活動」への参加状況をたずねたところ、「参加したことがある」44.0%、「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」47.8%を併せると、全体の 9 割以上を占めた。また、「地域活動」への参加状況を年代別で見ると「20 歳代」「30 歳代」では、「参加したことがある」よりも「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」の方が多く結果であった。

【問 4】で参加した地域活動の具体的内容をたずねたところ、最も多いのが「道路や公園などの地域の清掃活動」であった。次いで、「地域の伝統行事や祭り、エイサーなどの行事」、「子どもの見守り・夜間の見回り防犯活動」「地域スポーツ活動」の順であった。

市の職員として地域活動に関わることは、地域をよく知ることと併せて、地域との信頼関係の構築にもつながるので、積極的な参加が求められる。今後、時間や都合がつかなくて参加を見合わせている職員が参加しやすいような環境づくりや参加意識の啓発が必要である。

(3)「協働」について【問 5～問 20】

●全体の約 7 割が「協働」について知っている。「協働」した経験があるのは 4 割強。

【問 5】で「協働」という言葉についての認知度をたずねたところ、「ある程度知っている」が 61.5%と最も多く、「よく知っている」10.4%と併せると、全体の約 7 割を占めた。一方、「言葉は聞いたことがある」25.5%、「全く知らない」1.6%であった。

【問 6】でこれまでの業務の中で「協働」した経験がありますかとたずねたところ、「ない」48.6%、「ある」33.5%、「わからない」17.0%であった。

●多様な分野で協働事業が実施。これら協働事業に対する評価と事例の周知が必要。

【問 7】で、これまでの業務の中での「協働」の形態についてたずねたところ、「補助金・負担金」49 事例、19.5%と最も多く、次いで「各施策への参画・提案」42 事例、16.7%、「共催」40 事例、15.9%、「実行委員会」37 事例、14.7%、「委託」35 事例、13.9%であった。

【問 8】で「協働」した具体的内容をたずねたところ、「補助金・負担金」では「NPO 法人コンベンションシティ会の活動費補助」、「地域づくり助成基金を活用して、自主的に地域で活動したい団体に事業助成を行っている」などであった。「各施策への参画・提案」では「市民提案制度を活用してもらい、市民からの事業提案を採択、実施した。」、「計画策定に係る市民公募、パブリックコメント」などであった。「共催」では「NPO と市で講座の開催」、「西海岸地区津波避難訓練の開催」「チャリティーショーの開催等」などであった。「実行委員会」では、「沖縄マラソン」、「中部トリムマラソン大会」が挙げた。「後援」では、「NPO 法人、商工会のイベントの後援」、「協議会、シンポジウムや大会への後援」であった。「委託」では「宜野湾ベイサイド情報センターの指定管理委託」、「介護予防事業及び高齢者相談体制への提案と委託」「シルバー人材センターへの市報配布委託」などであった。その他に「教育委員会で琉球大学と協働して学力向上に向けて取り組んでいる」などもあった。

多様な分野においては、協働の形態の事業が実施されている。今後はこれら事例の協働内容や効果を分析・評価すると共に、協働の事例として広く周知・公表することによって、新たな協働事業の創出へとつなげたい。

●協働理由は「効率的、効果的な事業実施」が最も多い。その他の理由では「専門的知識の深さ」、「公共施設への愛着」なども。

【問 9】では、「協働」した理由についてたずねたところ、「効率的、効果的に事業が実施できる」27.2%と最も多く、次いで「よりの確に市民ニーズに答えることができる」24.6%、「市民の意識啓発となる」22.8%などであった。「その他」と回答したなかには「ノウハウがある、専門的知識が深い」「自治会・区民同士、また区民と役所との絆を深める、郷土を知る」「公共施設に愛着を持ってもらえる」などもあった。

●協働の課題は、「関係性の構築」「適正な人材」「協働情報の理解不足」など

【問10】では、「協働」した際の課題についてたずねたところ、「関係性の構築」が最も多く、次いで、「適正な人材がない」、「協働に関する情報・理解不足」、「協働の仕組み・制度ができていない」「事務量の増大」などの順であった。

【問11】では「協働」しなかった理由についてたずねたところ、「協働に相応しい事業がなかった」41.8%と最も多く、次いで「協働に関する情報が不足していた」14.9%、「協働に対する理解が不足していた」14.2%、「協働の仕組み・制度(ルール)ができていないかった」12.3%などであった。

今後、「協働」によるまちづくりを進めるにあたっては、行政と協働の相手方とを橋渡しする協働コーディネーターの育成が必要である。また、職員が協働を進めるために必要な情報を載せた「手引き書」の作成が必要である。

●市の「協働」が進んでいるか「よくわからない」が6割強

【問12】では、市で「協働」が進んでいるかたずねたところ、「よくわからない」が66.8%と最も多く、次いで「進んでいるとは思わない」25.5%であった。一方で「進んでいると思う」は5.8%であった。

【問13】では、「協働」が進まない理由をたずねたところ、「行政内部で、協働の趣旨・目的が十分理解されていない」が19.7%と最も多く、次いで「行政内部で、市民との協働ルール化や明確な役割分担がされていない」16.5%、「行政内部で、市民活動団体に対する理解が不足している」12.0%などであった。

市の内部で「協働」の趣旨や目的、ルールが確立されていないことから、「協働」が進展しているかについて判断できないと読み取れる。今後、「協働」の意味と必要性を理解する学習会の実施や事例紹介などによって職員の啓発が必要である。

●約9割の職員が「協働」は必要。理由は「市では対応が難しい地域課題に対応するため。」

【問14】では、本市で「協働」を進めることが必要かたずねたところ、「必要だと思う」が48.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば必要だと思う」40.7%、一方で「どちらかといえば必要だと思わない」は0.8%、「必要だと思わない」は0であった。

【問15】では、本市で「協働」が必要だと思う理由をたずねたところ、「市では対応が難しい地域課題に対応するため」が21.8%、次いで「よりの確に市民のニーズに応えるため」17.7%、「市民の自治意識向上のため」は17.5%、などであった。

●「プロセスに時間と手間がかかる」「協働パートナーがない」「事業責任の所在が不明」

【問16】では、本市で「協働」が必要だと思わない理由をたずねたところ、回答総数が3件と少数ではあるが、「協働のプロセスに時間や手間がかかる」、「事業実施能力などの面において信頼できるパートナー(市民活動団体等)がない」、「事業の実施責任の所在が不

明確だから」がそれぞれ 1 回答ずつあった。

● **お互いの情報交換交流・歩み寄り・理解が必要。**

【問 17】では「協働」によるまちづくりを進めていくために期待することをたずねたところ、「市の組織・仕組みに関する理解の促進」17.2%、「自立性の向上」16.6%、「団体に関する情報や活動内容の情報開示」15.8%などであった。「その他」と回答したなかには「自分たちのまちを良くしていこうという意識の高揚」や「お互いの交流、歩み寄り、理解」との意見もあった。

● **「協働」が必要な分野は「教育や子育て」「福祉」「暮らしの安全・安心」が上位**

【問 18】「協働」で取り組むことが必要(有効)な分野についてたずねたところ、「教育や子育てに関すること」20.4%、次いで「福祉に関すること」20.3%、「暮らしの安全・安心に関すること」が 13.6%、などとなっている。

【問 19】で具体的内容についてたずねたところ、「教育や子育てに関すること」では「子どもの貧困に関する分野においては、公助だけでは目が行き届かない。地域に埋もれたところに共助としての関わりが必要。」や「保育園に入所できずに「待機児童」の問題では、子育てを終えた市民の方や NPO 団体など地域の人たちと協力すれば、問題が少しでも解決するのでは」などであった。「福祉に関すること」では「生活困窮世帯への地域でのフォロー」や「地域の方々の見守り、困っている方々のサポート」などであった。「暮らしの安全・安心に関すること」では、「防災に関して、暮らしの安全安心に関して市民が自治体任せの意識でなく自治体と協力しながら自立した対応を進めていくことが必要」などであった。

「その他」と回答したなかには「大学があるのでこれらの大学と連携」を挙げる意見もあった。

● **「協働」に対する職員の意識改革。**

【問 20】で「協働」によるまちづくりについてのご意見、アイデア等についてご意見をたずねたところ、「協働」に対する職員の意識改革が最も多く、次いで「情報発信・意見交換の場づくり」、「協働の仕組み・制度の構築」などであった。

Ⅲ 調査票様式
調査票(見本)

宜野湾市市民協働推進基本指針の 策定に向けた市民アンケート

アンケートへのご協力をお願い

日頃より市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

宜野湾市では、多様化する市民ニーズやまちづくりに対応していくため、市民、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)などを新たなまちづくりの担い手として捉え、それぞれの持つ能力や資源等を活用する「市民協働のまちづくり」の推進に取り組んでいます。

平成26年度においては、「市民協働のまちづくり」を進めるにあたっての理念や方向性を定めた「宜野湾市市民協働推進基本指針」の策定を行う予定です。

指針の策定にあたっては、市民の皆様の地域に対する「愛着」や「誇り」、また「地域活動」や「協働」に対する認識や意見等を把握する必要があるため、アンケート調査を行うこととしました。

アンケート調査は無記名の調査であり、ご回答いただきました内容は、市民協働推進基本指針の策定のみを使用いたします。

つきましては、ご多用中、誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨及び内容をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月20日

宜野湾市長 佐喜眞 淳

宜野湾市市民協働推進基本指針策定協議会委員長 岩田 直子

- アンケート調査の対象には、宜野湾市にお住まいの18歳～69歳の方を無作為に1,500人抽出させていただきました。
- ご回答いただいたアンケート調査票は、恐縮ですが同封の返信用封筒（切手は不要）により、**11月7日(金)まで**に切手を貼らずに郵便ポストに投稿してください。差出人の住所・名前はお書きにならないで結構です。
- この調査に関するご質問、ご意見などがございましたら、下記までお問い合わせください。

宜野湾市役所 企画部 市民協働推進課 市民協働係

担当：普久原・宮城

Tel：098-893-4411（内線）403・422

fax：098-892-7022

【ご記入にあたってのお願い】

1. 回答項目のうち、あてはまると思われるものに○又は文言をご記入ください。
2. 回答は、必ず宛て名のご本人が無記名でご記入ください。ただし、ご本人が答えられない場合は、ご家族とご相談の上、お答えください。
3. 回答数は、(○は1つ) (○は3つまで) (当てはまるもの全てに○)といった () 内の指定に合わせて付けてください。
4. 「その他」にあてはまる場合は、() 内にその内容を具体的に記入ください。

回答者の属性

①性別	1. 男 2. 女
②年齢層	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上
③世帯	1. 1人 2. 2人 3. 3人～5人 3. 6人以上
④職業	1. 会社員・公務員（正社員） 2. 会社員・公務員（契約社員） 3. 会社員・公務員（パート・アルバイト） 4. 自営業 5. 学生 6. 専業主婦・主夫 7. 無職 8. その他（ ）

住んでいる地域への「愛着」や「誇り」「良い点」「好きなところ」について

問1. あなたは住んでいる地域に対して、「愛着」や「誇り」、「良い点」や「好きなところ」を感じる
とがありますか？ (○は1つ)

1. 非常に感じる 2. ある程度感じる
3. あまり感じない 3. ほとんど感じない 5. わからない

問2. 問1で1. 「非常に感じる」若しくは 2. 「ある程度感じる」とお答えした方におたずねします。

住んでいる地域に対してどのような「愛着」や「誇り」、「良い所」や「好きな所」を感じていますか？
具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

住んでいる地域の「地域活動」について

※このアンケートでの「地域活動」とは、住みやすい地域をつくるために、個人や団体で行う活動を言います。(例えば、防犯パトロール、子育て支援、地域の青少年を対象としたスポーツ指導(少年野球等)、通学路の交通指導、地域の美化清掃としての花植え・草刈り、高齢者世帯訪問、不登校・引きこもりへの支援活動、アレルギーの普及啓発活動など様々な分野の活動で、個人がボランティアとして行うこともあれば、グループや自治会単位で活動することも含まれます)

問3. あなたが住んでいる地域の「地域活動」は盛んであると思いますか？
(○は1つ)

1. 非常に盛んに行なわれていると思う
2. ある程度盛んに行なわれていると思う
3. あまり盛んに行なわれていないと思う
4. ほとんど行われていないと思う
5. わからない

問4. あなたは「地域活動」に参加したことがありますか？
(○は1つ)

1. 参加したことがある
2. 参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい
3. 参加したことがなく、今後も参加するつもりはない

問5. 問4で1.「参加したことがある」とお答えした方におたずねします。
どのような「地域活動」に参加しましたか？(当てはまるもの全てに○)

1. 高齢者世帯の訪問やお世話など地域の福祉活動
2. 子どもの見守りや夜間の見回りなどの防犯活動
3. 子育て支援活動
4. リサイクル活動
5. 道路や公園などの地域の清掃活動
6. まちに緑や花を増やす美化活動
7. 防災訓練などの防災活動
8. 地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事
9. その他 ()

問6. 差支えなければ、問5の「地域活動」の具体的内容についてご記入ください。

問 7. 問 4 で 1. 「参加したことがある」とお答えした方におたずねします。

「地域活動」に参加して良かった点はどのようなことですか？（当てはまるもの全てに○）

1. 近所付き合いが広がる
2. 地域の一員であるという自覚ができる
3. 困った時や災害時など、いざというときに助け合える
4. 地域の情報を得ることができる
5. その他（ ）
6. 特にない

問 8. 問 4 で 2. 「参加したことはないが、時間や都合がつけば参加してみたい」とお答えした方におたずねします。

今後、どのような「地域活動」に参加したいと思いますか。（○は 3 つまで）

1. 高齢者世帯の訪問やお世話など地域の福祉活動
2. 子どもの見守りや夜間の見回りなどの防犯活動
3. 子育て支援活動
4. リサイクル活動
5. 道路や公園などの地域の清掃活動
6. まちに緑や花を増やす美化活動
7. 防災訓練などの防災活動
8. 地域の伝統行事や祭りやエイサーなどの行事
9. その他（ ）

問 9. 住んでいる地域の「地域活動」をより活性化するためには、何が必要だと思いますか。（○は 3 つまで）

1. 「地域活動」への参加呼びかけを強化する
2. 地域のリーダー育成や組織づくりの勉強会を開催する
3. みんなが気軽に参加できる地域イベントを開催する
4. イベントなどの企画段階から地域で取り組む
5. 地域の課題について話し合える場をつくる
6. 地域の活動情報を積極的に PR する
7. 住民一人ひとりが地域への関心を高める
8. 近所の人とのつながりをつくる
9. その他（ ）

「協働」について

※このアンケートで「協働」とは、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所などが、住んでいる地域の課題などに対して一緒になって解決することをいいます。「協働」することによって、「自分たちのまちは自分たちでつくる」といった意識が芽生えることにつながります。
(「協働」の事例として、市とNPOが協働して子育て講座やイベントを開催したり、市と自治会、教育機関が交通安全活動を実施することなどがあります。)

問 10. あなたは「協働」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

1. よく知っている
2. ある程度知っている
3. 言葉は聞いたことがある
4. 全く知らない

問 11. 宜野湾市では、「協働」によるまちづくりを進めようと考えていますが、このことについてどのように考えますか。(〇は1つ)

※ここでいう「まちづくり」とは道路や公園整備など街並みに関するだけでなく、地域課題にみんなを取り組む雰囲気づくり、近所付き合いでの人の輪づくりなども含みます。その意味も含めて、「まちづくり」とは、地域で暮らしやすくする様々な活動全般のことを指します。

1. 今後、充実していくことが望ましい
2. 協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい
3. 協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので、何とも言えない
4. 協働には手間や時間がかかるので、あまりやりたくない
5. 協働は特に必要とは思わない
6. その他 ()

問 12. 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがあります。今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 福祉に関すること
2. 健康づくりに関すること
3. 文化や歴史に関すること
4. 教育や子育てに関すること
5. 人権や平和に関すること
6. 地球環境や生活環境に関すること
7. 暮らしの安全・安心に関すること
8. 地域経済に関すること
9. 都市の開発や整備に関すること
10. 地域活動や交流に関すること
11. その他 ()

問 13. 差し支えがなければ、問 12 でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

問 14. 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは何だと思えますか。

(〇は 3 つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 市民のニーズや地域課題の把握2. まちづくり活動に参加するきっかけづくり3. 市民の力を活かすコーディネート機能の強化4. 市民の参加を促す啓発の取り組み5. まちづくり活動の担い手育成6. まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける7. 市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みを作る8. 市民や市民団体、NPO 等が相談や活動の行える拠点場所を整備する9. その他 () |
|--|

自由意見

問 15. 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイディア等がありましたらご自由にご記入ください。

(記入スペースが足りない場合には、別の用紙を追加してご記入ください)

* 質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

宜野湾市市民協働推進基本指針の 策定に向けた自治会アンケート

アンケートへのご協力をお願い

日頃より市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

宜野湾市では、多様化する市民ニーズやまちづくりに対応していくため、市民、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)などを新たなまちづくりの担い手として捉え、それぞれの持つ能力や資源等を活用する「市民協働のまちづくり」の推進に取り組んでいます。

平成 26 年度においては、「市民協働のまちづくり」を進めるにあたっての理念や方向性を定めた「宜野湾市市民協働推進基本指針」の策定を行う予定です。

指針の策定にあたっては、自治会を対象として、「自治会活動」の取り組み状況や課題、意見等を把握する必要があるため、アンケート調査を行うこととしました。

アンケート調査により、ご回答いただきました内容は、市民協働推進基本指針の策定のみで使用いたします。

つきましては、ご多用中、誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨及び内容をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 10 月 20 日

宜野湾市長 佐喜眞 淳

宜野湾市市民協働推進基本指針策定協議会委員長 岩田 直子

- アンケート調査の対象には、市内自治会（23自治会）にお願いしています。
- ご回答いただいたアンケート調査票は、恐縮ですが同封の返信用封筒に入れ、**11月7日(金)まで**に市民協働推進課までご提出をお願いします。
- この調査に関するご質問、ご意見などがございましたら、下記までお問い合わせください。

宜野湾市役所 企画部 市民協働推進課 市民協働係
担当：普久原・宮城
Tel：098-893-4411（内線）403・422
fax：098-892-7022

【ご記入にあたってのお願い】

1. 回答項目のうち、あてはまると思われるものに○又は文言をご記入ください。
2. 回答数は、(○は1つ)(○は3つまで)(当てはまるもの全てに○)といった()内の指定に合わせて付けてください。
3. 「その他」にあてはまる場合は、()内にその内容を具体的に記入ください。

回答の自治会名について

問1. 自治会名をご記入ください。

自治会名	自治会

※アンケート集計・報告にあたって、自治会名を公表することはありません。

自治会への加入状況について

問2. 自治会への加入率はどれくらいですか。(○は1つ)

2. 100% 2. 90%以上 3. 80~89% 4. 70~79%
5. 50~69% 6. 30~49% 7. 30%未満

問3. 自治会への加入率の増減についてお伺いします。(○は1つ)

1. かなり増加傾向である
2. 少し増加傾向である
3. ほぼ変わらない
4. 少し減少傾向である
5. かなり減少傾向である

問4. 問3で4.「少し減少傾向である」、若しくは、5.「かなり減少傾向である」とお答えした自治会におたずねします。

加入率が低下したことで困っていることは何ですか？(当てはまるもの全てに○)

1. 未加入世帯との不公平感
2. 役員のなり手減少
3. 地域住民のつながりの薄れ
4. 活動を手伝う人が減少し、行事等の運営に支障が生じている
5. 自治会費の減少により運営に支障が生じている
6. 困っていることはない
7. その他()

問5. 自治会への加入促進のために自治会独自で行っていることはありますか？

(当てはまるもの全てに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 口頭で加入を呼びかけている2. チラシを作成し配布している3. ポスターやチラシを掲示板等に掲示している4. 賃貸住宅のオーナーや管理会社に加入を呼びかけている5. 行なっていることは特にない6. その他() |
|---|

「自治会の活動状況及び課題」について

問6. 自治会で行っている活動・事業について当てはまるものに○をつけてください。

(当てはまるもの全てに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 防犯活動 (子どもの見守り、地域パトロール、防犯灯の維持管理等)2. 防災活動 (自主防災組織の設置、防火訓練等)3. 高齢者福祉活動 (デイサービス事業、独居老人への声かけ、訪問等)4. 環境美化活動 (草刈、清掃、花壇整備等)5. 青少年健全育成事業 (子ども会の運営、あいさつ運動等)6. スポーツ、レクリエーション、親睦活動 (スポーツ大会、クリスマス会、敬老会等)7. 盆踊り、各種お祭り、伝統文化の継承(エイサー等)8. リサイクル活動 (廃品回収等)9. 自治会だより、自治会広報の発行10. 葬儀手伝い(慶弔事業)11. 地域内のトラブル対応・処理12. その他() |
|--|

問7. 今後、自治会活動において、積極的に取り組んでみたい活動がありましたら、ご記入ください。

問8. 現在の自治会の活動状況はどう感じていますか？

(○は1つ)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 非常に活発である2. ある程度活発である3. 停滞している4. 少し後退している5. かなり後退している6. その他() |
|---|

問9. 自治会活動を行っていく上で、課題となっていることは何ですか。

(当てはまるもの全てに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 役員のなり手が不足している2. 役員が高齢化している3. 役員の負担が多い4. 未加入世帯が増加している5. 地域住民が高齢化している6. 地域住民の自治会活動に対する関心が年々低下している7. 特定の人しか運営、行事に関わらない8. 新旧住民や世代間の交流が難しい9. 自治会活動費が不足している10. 自治会活動・行事がマンネリ化している11. 取り組みたいことがあるが、ノウハウがなくて困っている12. 自治会規模が小さく、会員が少ないために活動が難しい13. 自治会だけでは解決できない課題があっても、他団体との連携が弱い14. 市からの依頼事項が多い15. 特に課題はない16. その他() |
|---|

問10. 問9の課題について、どのように解決したいと思いますか。ご記入ください。

「協働」について

※このアンケートで「協働」とは、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所などが、住んでいる地域の課題などに対して一緒になって解決することをいいます。「協働」することによって、「自分たちのまちは自分たちでつくる」といった意識が芽生えることにつながります。(「協働」の事例として、市とNPOが協働して子育て講座やイベントを開催したり、市と自治会、教育機関が交通安全活動を実施することなどがあります。)

問 11. 「協働」と言う言葉を知っていますか。(〇は1つ)

- | |
|----------------|
| 1. よく知っている |
| 2. ある程度知っている |
| 3. 言葉は聞いたことがある |
| 4. 全く知らない |

問 12. これまでの自治会活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業、教育機関(大学)、市役所などと協働したことがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問 13. 差し支えがなければ、問 12 の協働した具体的な内容について、ご記入ください。

問 14. 今後の自治会活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業や教育機関(大学)、市役所などと協働してみたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------|---------|
| 1. 思う | 2. 思わない |
|-------|---------|

問 15. 差し支えがなければ、問 14 の協働してみたい具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

問16. 宜野湾市では、「協働」によるまちづくりを進めようと考えていますが、このことについてどのように考えますか。(〇は1つ)

※ここでいう「まちづくり」とは道路や公園整備など街並みに関することだけではなく、地域課題にみんなを取り組む雰囲気づくり、近所付き合いでの人の輪づくりなども含みます。その意味も含めて、「まちづくり」とは、地域で暮らしやすくする様々な活動全般のことを指します。

1. 今後、充実していくことが望ましい
2. 協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい
3. 協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので、何とも言えない
4. 協働には手間や時間がかかるので、あまりやりたくない
5. 協働は特に必要とは思わない
6. その他 ()

問17. 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがあります。今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 福祉に関する事
2. 健康づくりに関すること
3. 文化や歴史に関する事
4. 教育や子育てに関する事
5. 人権や平和に関する事
6. 地球環境や生活環境に関する事
7. 暮らしの安全・安心に関する事
8. 地域経済に関する事
9. 都市の開発や整備に関する事
10. 地域活動や交流に関する事
11. その他 ()

問18. 問17でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

問 19. 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは何だと思いますか。

(〇は 3 つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 市民のニーズや地域課題の把握2. まちづくり活動に参加するきっかけづくり3. 市民の力を活かすコーディネート機能の強化4. 市民の参加を促す啓発の取り組み5. まちづくり活動の担い手育成6. まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける7. 市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みを作る8. 市民や市民団体、NPO 等が相談や活動の行える拠点場所を整備する9. その他 () |
|--|

自由意見

問 20. 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由に記入ください。

(記入スペースが足りない場合には、別の用紙を追加してご記入ください)

*質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

宜野湾市市民協働推進基本指針の 策定に向けた団体(NPO・ボランティア団体・市民団体等)アンケート

アンケートへのご協力をお願い

日頃より市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

宜野湾市では、多様化する市民ニーズやまちづくりに対応していくため、市民、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)などを新たなまちづくりの担い手として捉え、それぞれの持つ能力や資源等を活用する「市民協働のまちづくり」の推進に取り組んでいます。

平成26年度においては、「市民協働のまちづくり」を進めるにあたっての理念や方向性を定めた「宜野湾市市民協働推進基本指針」の策定を行う予定です。

指針の策定にあたっては、団体の皆様を対象として、活動の取り組み状況や課題、意見等を把握する必要があるため、アンケート調査を行うこととしました。

この調査により、ご回答いただきました内容は、市民協働推進基本指針の策定のみに使用いたします。

つきましては、ご多用中、誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨及び内容をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月20日

宜野湾市長 佐喜眞 淳

宜野湾市市民協働推進基本指針策定協議会委員長 岩田 直子

- アンケート調査の対象には、宜野湾市内のNPO、ボランティア団体、市民団体等をお願いしています。
- ご回答いただいたアンケート調査票は、恐縮ですが同封の返信用封筒（切手は不要）により、**11月7日(金)まで**に切手を貼らずに郵便ポストに投稿してください。差出人の住所・名前はお書きにならないで結構です。
- この調査に関するご質問、ご意見などがございましたら、下記までお問い合わせください。

宜野湾市役所 企画部 市民協働推進課 市民協働係

担当：普久原・宮城

Tel : 098 - 893 - 4411 (内線) 403・422

fax : 098 - 892 - 7022

【ご記入にあたってのお願い】

1. 回答項目のうち、あてはまると思われるものに○又は文言をご記入ください。
2. 回答数は、(○は1つ)(○は3つまで)(当てはまるもの全てに○)といった()内の指定に合わせて付けてください。
3. 「その他」にあてはまる場合は、()内にその内容を具体的にご記入ください。

回答の団体名について

問1. 団体名をご記入ください。

団体名	
-----	--

※アンケート集計・報告にあたって、団体名を公表することはありません。

団体の活動状況について

問2. 貴団体の活動の分野は次のどれに当てはまりますか。(当てはまるもの全てに○)

1. 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
2. 社会教育の推進を図る活動
3. まちづくりの推進を図る活動
4. 観光の振興を図る活動
5. 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
6. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
7. 環境の保全を図る活動
8. 災害救援活動
9. 地域安全活動
10. 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
11. 国際協力の活動
12. 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
13. 子どもの健全育成を図る活動
14. 情報化社会の発展を図る活動
15. 科学技術の振興を図る活動
16. 経済活動の活性化を図る活動
17. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
18. 消費者の保護を図る活動
19. 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
20. その他()

問3. 主な活動内容についてご記入ください。

問4. 活動している地域はどこですか？（当てはまるもの全てに○）

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------|
| 1. 市内 | 2. 市外 | 3. 県内 | 4. 県外 |
| 5. 海外 | 6. その他() | | |

問5. 活動のための事務所はありますか？（○は1つ）

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問6. 活動状況(活動・会合等)について教えてください。（○は1つ）

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1. 週5回程度 | 2. 週2～3回程度 | 3. 週1回程度 |
| 4. 月1～2回程度 | 5. 隔月1回程度 | 6. 年に数回程度 |
| 7. 活動していない | 8. その他() | |

問7. 団体の会員数について教えてください。

個人会員	人
法人(団体)会員	団体
その他()	

問8. 主な収入の内訳を教えてください。（当てはまるもの全てに○）

- | |
|-----------------|
| 1. 会費・寄付金 |
| 2. 行政からの補助金・助成金 |
| 3. 財団など民間からの助成金 |
| 4. 行政等からの業務委託費 |
| 5. 自主事業収入 |
| 6. その他() |

問9. 団体の活動を進めていく上で、課題として捉えていることは何ですか。

(当てはまるもの全てに○)

- 1. 会員・活動メンバーの確保
- 2. 会員・活動メンバーの能力向上
- 3. 組織運営上の知識・経験の不足
- 4. 活動資金の不足
- 5. 事業・活動の拡大
- 6. 活動場所の確保
- 7. 情報の収集・発信の方法
- 8. 自治会など地域との連携
- 9. 他の団体(NPO,ボランティア、市民団体)との連携
- 10. 企業との連携
- 11. 行政との連携
- 12. 特にない
- 13. その他(

「協働」について

※このアンケートで「協働」とは、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所などが、住んでいる地域の課題などに対して一緒になって解決することをいいます。「協働」することによって、「自分たちのまちは自分たちでつくる」といった意識が芽生えることにつながります。
(「協働」の事例として、市とNPOが協働して子育て講座やイベントを開催したり、市と自治会、教育機関が交通安全活動を実施することなどがあります。)

問10. 「協働」と言う言葉を知っていますか。(○は1つ)

- 1. よく知っている
- 2. ある程度知っている
- 3. 言葉は聞いたことがある
- 4. 全く知らない

問11. これまで団体活動するにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や自治会、企業、教育機関(大学)、市役所などと協働したことがありますか。(○は1つ)

- 1. ある
- 2. ない

問12. 差し支えがなければ、問11の協働した具体的な内容について、ご記述ください。

問13. 今後の団体活動をするにあたって、他の団体(NPO、ボランティア、市民団体)や企業や教育機関(大学)、市役所などと協働してみたいと思いますか。(〇は1つ)

1. 思う	2. 思わない
-------	---------

問14. 差し支えがなければ、問13の協働してみたい具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

問15. 宜野湾市では、「協働」によるまちづくりを進めようと考えていますが、このことについてどのように考えますか。(〇は1つ)

※ここでいう「まちづくり」とは道路や公園整備など街並みに関するだけでなく、地域課題にみんなを取り組む雰囲気づくり、近所付き合いでの人の輪づくりなども含みます。その意味も含めて、「まちづくり」とは、地域で暮らしやすくする様々な活動全般のことを指します。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 今後、充実していくことが望ましい2. 協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい3. 協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので、何とも言えない4. 協働には手間や時間がかかるので、あまりやりたくない5. 協働は特に必要とは思わない6. その他 () |
|---|

問16. 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがありますが、今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(〇は3つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 福祉に関すること2. 健康づくりに関すること3. 文化や歴史に関すること4. 教育や子育てに関すること5. 人権や平和に関すること6. 地球環境や生活環境に関すること7. 暮らしの安全・安心に関すること8. 地域経済に関すること9. 都市の開発や整備に関すること10. 地域活動や交流に関すること11. その他 () |
|--|

問 17. 問 16 でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

問 18. 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは何だと思えますか。

(〇は3つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 市民のニーズや地域課題の把握2. まちづくり活動に参加するきっかけづくり3. 市民の力を活かすコーディネート機能の強化4. 市民の参加を促す啓発の取り組み5. まちづくり活動の担い手育成6. まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける7. 市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みを作る8. 市民や市民団体、NPO 等が相談や活動の行える拠点場所を整備する9. その他 () |
|--|

自由意見

問 19. 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由に記入ください。

(記入スペースが足りない場合には、別の用紙を追加してご記入ください)

*質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

宜野湾市市民協働推進基本指針の 策定に向けた企業(事業所)アンケート

アンケートへのご協力をお願い

日頃より市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

宜野湾市では、多様化する市民ニーズやまちづくりに対応していくため、市民、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)などを新たなまちづくりの担い手として捉え、それぞれの持つ能力や資源等を活用する「市民協働のまちづくり」の推進に取り組んでいます。

平成26年度においては、「市民協働のまちづくり」を進めるにあたっての協働の理念や方向性を定めた「宜野湾市市民協働推進基本指針」の策定を行う予定です。

指針の策定にあたっては、企業(事業所)の皆様を対象として、地域貢献に対する認識や取り組み等を把握する必要があるため、アンケート調査を行うこととしました。

本アンケートの回答結果は統計的に処理致しますので、企業名等の情報が公開されることは無く、本調査以外の目的に利用されることも一切ございません。

つきましては、ご多用中、誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨及び内容をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月20日

宜野湾市長 佐喜眞 淳

宜野湾市市民協働推進基本指針策定協議会委員長 岩田 直子

- アンケート調査の対象には、宜野湾市に事業所を設置し、従業員数が20名以上の企業(事業所)100社を抽出させていただきました。
- ご回答いただいたアンケート調査票は、恐縮ですが同封の返信用封筒(切手は不要)により、**11月7日(金)まで**に切手を貼らずに郵便ポストに投稿してください。差出人の住所・名前はお書きにならないで結構です。
- この調査に関するご質問、ご意見などがございましたら、下記までお問い合わせください。

宜野湾市役所 企画部 市民協働推進課 市民協働係

担当：普久原・宮城

Tel：098-893-4411(内線)403・422

fax：098-892-7022

【ご記入にあたってのお願い】

1. 回答項目のうち、あてはまると思われるものに○又は文言をご記入ください。
2. 回答数は、(○は1つ)(○は3つまで)(当てはまるもの全てに○)といった()内の指定に合わせて付けてください。
3. 「その他」にあてはまる場合は、()内にその内容を具体的にご記入ください。

企業(事業所の概要)について

問1. 企業(事業所)名をご記入ください。

企業(事業所)名	
----------	--

※アンケート集計・報告にあたって、企業(事業所)名を公表することはありません。

問2. 企業(事業所)の業種についてお伺いします。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 農林漁業 | 2. 鉱業・採石業・砂利採取業 |
| 3. 建設業 | 4. 製造業 |
| 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 6. 情報通信 |
| 7. 運輸業・郵便業 | 8. 卸売業・小売業 |
| 9. 金融業・保険業 | 10. 不動産業・物品賃貸業 |
| 11. 学術研究・専門・技術サービス業 | 12. 宿泊業・飲食サービス業 |
| 13. 生活関連サービス業・娯楽業 | 14. 教育・学習支援業 |
| 15. 医療・福祉 | 16. 複合サービス事業 |
| 17. サービス業(他に分類されないもの) | |

問3. 企業(事業所)の資本金についてお伺いします。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 300万円未満 | 2. 300万円～500万円未満 |
| 3. 500万円～1000万円未満 | 4. 1000万円～3000万円未満 |
| 5. 3000万円～5000万円未満 | 6. 5000万円～1億円未満 |
| 7. 1億円～3億円未満 | 8. 3億円～10億円未満 |
| 9. 10億円～50億円未満 | 10. 50億円以上 |

問4. 企業(事業所)の本社の所在地についてお伺いします。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 宜野湾市内 | 2. 宜野湾市以外の沖縄県内 |
| 3. 沖縄県以外の国内() | 4. 海外() |

問5. 企業(事業所)の営業年数についてお伺いします。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上～3年未満 |
| 3. 3年以上～5年未満 | 4. 5年以上～10年未満 |
| 5. 10年以上～20年未満 | 6. 20年以上～30年未満 |
| 7. 30年以上～50年未満 | 8. 50年以上 |

問6. 企業(事業所)の従業員数についてお伺いします。

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| 1. 20人～29人 | 2. 30～49人 | 3. 50人～99人 |
| 4. 100人～199人 | 5. 200～299人 | 6. 300人以上 |

企業(事業所)の地域貢献活動について

※このアンケートでの「地域貢献活動」とは、企業(事業所)が自社の持っている人的・物的資源などを活用・提供することにより、住みよい地域社会を実現するための活動を言います。(例えば、地域ボランティア活動への社員派遣や物品提供、協賛金の協力のほか、災害時の物品支援、地元学校からの職業体験受け入れなど、幅広い地域貢献活動を指します)

問7. 現在、貴社では地域貢献活動に取り組まれていますか。(○は1つ)

1. 取り組んでいる
2. 過去にはしていたが、現在はしていない
3. 取り組みについて検討中
4. 取り組んでいない

問8. 貴社が地域貢献活動に取り組まれるようになったのはなぜですか。あるいは取り組もうとする理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

1. 地域社会とのコミュニケーション
2. 利益の地域社会還元
3. 企業イメージ・知名度の向上など間接的なメリットがあるから
4. 従業員のモラルの向上、社内の活性化が期待できるから
5. 従業員が自主的に始めた
6. その他 ()

問9. 貴社の地域貢献活動の対象分野を教えてください。現在実施しているものだけでなく、過去に実施していたもの、今後予定しているものも含まれます。
(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 社会福祉・保健・医療 | 2. 学校教育・社会教育 |
| 3. 子どもの健全育成 | 4. 環境保護・保全 |
| 5. 国際協力・支援 | 6. 文化・芸術・スポーツ |
| 7. 地域安全 | 8. 災害救援 |
| 9. 人権擁護・平和推進 | |
| 10. その他 () | |

問14. 問7で、2「過去にはしていたが、現在はしていない」と回答された企業(事業所)に伺います。

貴社が過去に行っていたのに、現在は行っていない理由について教えてください。

(当てはまるもの全てに○)

- 1. 忙しくなって時間がなくなった
- 2. 経済的な余裕がなくなった
- 3. 従業員の理解や協力が得られなくなった
- 4. 行ってきた活動に限界を感じた
- 5. 会社として行う意義が薄くなった
- 6. その他 ()

問15. 問7で、3「取り組みについて検討中」若しくは、4「取り組んでいない」と回答された企業(事業所)に伺います。

貴社がこれまで地域貢献活動を行ってこなかった理由について教えてください。

(当てはまるもの全てに○)

- 1. 忙しくて時間がない
- 2. 経済的な余裕がない
- 3. 従業員の理解や協力が得られない
- 4. 社会貢献を行うきっかけがつかめない
- 5. 社会貢献に関する知識やノウハウがない
- 6. 社会貢献活動への意義が見出せない
- 7. その他 ()

問16. 企業が「地域貢献活動」を積極的に行なう環境をつくるための市役所の役割は何だと思えますか。(当てはまるもの全てに○)

- 1. 企業と地域貢献活動を繋げるコーディネート機能
- 2. 企業が地域貢献をする際のルールや支援体制づくり
- 3. 企業に対する地域貢献活動への啓発活動
- 4. 企業の地域貢献に関する情報提供
- 5. 関与すべきでない
- 6. 特になし
- 7. その他()

「協働」について

※このアンケートで「協働」とは、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所などが、住んでいる地域の課題などに対して一緒になって解決することをいいます。「協働」することによって、「自分たちのまちは自分たちでつくる」といった意識が芽生えることにつながります。
(「協働」の事例として、市とNPOが協働して子育て講座やイベントを開催したり、市と自治会、教育機関が交通安全活動を実施することなどがあります。)

問17. 「協働」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

1. よく知っている
2. ある程度知っている
3. 言葉は聞いたことがある
4. 全く知らない

問18. 企業の持つ知識や経験を活かして、協働してみたいと思いますか。(〇は1つ)

1. 協働したい
2. 協働したくない
3. 現在、協働している

問19. 問18で、1「協働したい」若しくは、3「現在、協働している」と回答された企業(事業所)に伺います。

差し支えがなければ、「協働したい」若しくは「現在、協働している」具体的な内容について、ご記入ください。

問20. 宜野湾市では、「協働」によるまちづくりを進めようと考えていますが、このことについてどのように考えますか。(〇は1つ)

※ここでいう「まちづくり」とは道路や公園整備など街並みに関することだけではなく、地域課題にみんなで行き届く雰囲気づくり、近所付き合いでの人の輪づくりなども含みます。その意味も含めて、「まちづくり」とは、地域で暮らしやすくする様々な活動全般のことを指します。

1. 今後、充実していくことが望ましい
2. 協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい
3. 協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので、何とも言えない
4. 協働には手間や時間がかかるので、あまりやりたくない
5. 協働は特に必要とは思わない
6. その他 ()

問21. 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがあります。今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1. 福祉に関すること
- 2. 健康づくりに関すること
- 3. 文化や歴史に関すること
- 4. 教育や子育てに関すること
- 5. 人権や平和に関すること
- 6. 地球環境や生活環境に関すること
- 7. 暮らしの安全・安心に関すること
- 8. 地域経済に関すること
- 9. 都市の開発や整備に関すること
- 10. 地域活動や交流に関すること
- 11. その他 ()

問22. 問21でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

問23. 「協働」によるまちづくりを進めるために、市に期待することは何だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1. 市民のニーズや地域課題の把握
- 2. まちづくり活動に参加するきっかけづくり
- 3. 市民の力を活かすコーディネート機能の強化
- 4. 市民の参加を促す啓発の取り組み
- 5. まちづくり活動の担い手育成
- 6. まちづくりの活動に使える補助金や助成金を設ける
- 7. 市の施策やまちづくりに市民が参画しやすい仕組みを作る
- 8. 市民や市民団体、NPO等が相談や活動の行える拠点場所を整備する
- 9. その他 ()

自由意見

問24. 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由にご記入ください。

(記入スペースが足りない場合には、別の用紙を追加してご記入ください)

*質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

宜野湾市市民協働推進基本指針の 策定に向けた職員アンケート

アンケートへのご協力をお願い

宜野湾市では、多様化する市民ニーズやまちづくりに対応していくため、市民、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)などを新たなまちづくりの担い手として捉え、それぞれの持つ能力や資源等を活用する「市民協働のまちづくり」の推進に取り組んでいます。

平成26年度においては、「市民協働のまちづくり」を進めるにあたっての協働の理念や方向性を定めた「宜野湾市市民協働推進基本指針」の策定を行う予定です。

指針の策定にあたっては、市職員の皆様を対象として、協働に対する認識や取り組み状況等を把握する必要があるため、アンケート調査を行うこととしました。

なお、この調査は無記名によるアンケート調査であり、ご回答いただきました内容は、市民協働推進基本指針の策定のみを使用いたします。

つきましては、ご多用中、誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨及び内容をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月22日

宜野湾市長 佐喜眞 淳

宜野湾市市民協働推進基本指針策定協議会委員長 岩田 直子

- アンケート調査の対象には、宜野湾市の職員(臨時・嘱託を除く)としています。
- 恐縮ですが、**11月7日(金)まで**に回答をお願いします。
- この調査に関するご質問、ご意見などがございましたら、下記までお問い合わせください。

宜野湾市役所 企画部 市民協働推進課 市民協働係

担当：普久原・宮城

Tel : 098 - 893 - 4411 (内線) 403・422

fax : 098 - 892 - 7022

【ご記入にあたってのお願い】

1. 回答項目のうち、あてはまると思われるものに○又は文言をご記入ください。
2. 回答数は、(○は1つ)(○は3つまで)(当てはまるもの全てに○)といった()内の指定に合わせて付けてください。
3. 「その他」にあてはまる場合は、()内にその内容を具体的にご記入ください。

※このアンケートで「協働」とは、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所などが、住んでいる地域の課題などに対して一緒に解決することをいいます。「協働」することによって、「自分たちのまちは自分たちでつくる」といった意識が芽生えることにつながります。

(「協働」の事例として、市とNPOが協働して子育て講座やイベントを開催したり、市と自治会、教育機関が交通安全活動を実施することなどがあります。)

※参考：市業務の「協働」の手法としては以下の例が挙げられます。

① 各施策への参画・提案

市民等を各施策の立案過程や事業の企画段階から、参画・提案することにより、それぞれの立場から最も市民ニーズに適した事業を推進することができます。ただし、形式的な参画にならないように注意が必要です。(※附属機関等の委員会に市民公募を実施した。市の計画策定の際にパブリックコメントを実施した。等)

② 委託

市民等へ委託を推進していくことでの専門性や柔軟性などそれぞれの特性を生かした効果的な取組により、先駆的な取り組みや多様なサービスの提供が可能となります。ただし、対等なパートナーであることや、コスト削減を主たる目的としないことが必要です。(※専門的知識を持つNPO等に就労支援事業を委託した。地域の自治会に地域の公園管理を委託した。等)

③ 共催

市民等と市が主体となり、共同でひとつの事業を行います。この場合、それぞれの得意分野を生かした役割分担で、効率的・効果的な事業展開ができます。(※市と市民団体が共催して「まちづくり討論会」を実施した。等)

④ 後援

市民が主体的に行なう公益性・公共性の高い事業に対して市の後援名義の使用を認めて支援することにより、事業の信頼性が高まり、高い事業効果を生み出すことが期待できます。ただし、事業内容に公益性・公共性があるかなどチェックする必要があります。(※NPO主催の「子育てイベント」に対して、市が後援した。等)

⑤ 実行委員会

市民と市などで構成される「実行委員会」や「協議会」などが主催して事業を行います。それぞれの特性やネットワークを活用して、市民と市が対等な立場で責任を共有した事業の展開ができます。(※はごろも祭りや産業まつりを実行委員会で行った。市と地域商店街とでまちづくり協議会を結成して、地域商店街の活性化事業を行った。等)

⑥ 補助金・負担金

市民等が主体的に行なう公益性・公共性の高い事業に対し、市が補助金・助成金の支援を行い、活動の推進を行います。(※地域づくり助成事業、福祉振興基金事業。等)

問4. 問3で1.「参加したことがある」とお答えした方におたずねします。

どのような「地域活動」に参加しましたか？具体的な内容について、ご記入ください。

「協働」について

問5. 「協働」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. 言葉は聞いたことがある 4. 全く知らない |
|---|

問6. あなたがこれまでに担当した業務の中で、地域団体(自治会)、市民団体、ボランティア、NPO、教育機関、民間企業などと「協働」した経験がありますか。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. ある 2. ない 3. わからない |
|--|

問7. 問6で 1.「ある」を選んだ方に伺います。

協働した内容はどのような内容でしたか。(当てはまるもの全てに〇)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 各施策への参画・提案 2. 委託 3. 共催 4. 後援 5. 実行委員会 6. 補助金・負担金 7. その他 () |
|--|

問8. 差し支えがなければ、問7の協働した具体的な内容について、ご記入ください。

問9. 問6で、1「ある」を選んだ方に伺います。

協働した理由はなんですか。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. きめ細かなサービスが可能となる2. よりの確に市民のニーズに答えることができる3. 市の財政負担の軽減につながる4. 効率的、効果的に事業が実施できる5. 市民の意識啓発となる6. その他 () |
|--|

問10. 問6で、1「ある」を選んだ方に伺います。

協働した際に、課題と感じたことがありましたら、ご記入ください。

問11. 問6で、2「ない」を選んだ方に伺います。

これまで担当した業務で、協働しなかった理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 協働に関する情報が不足していた2. 協働の仕組み・制度(ルール)ができていなかった3. 協働に対する理解が不足していた4. 課題に対する専門性を持つ市民活動団体がなかった5. 信頼できる市民活動団体がなかった6. 事務量が増大する懸念があった7. 協働に相応しい事業がなかった8. 市だけで対応した方が効率的であった9. その他 () |
|---|

問12. 本市において、協働が進んでいると思いますか。(〇は1つ)

- 1. 進んでいるとは思わない
- 2. 進んでいると思う
- 3. よくわからない

問13. 問12で1「進んでいるとは思わない」を選んだ方に伺います。

本市において協働が進んでいるとは思わない理由は何だと思えますか。

(当てはまるもの全てに〇)

- 1. 行政内部で、協働の趣旨・目的が十分理解されていない
- 2. 行政内部で、市民活動団体に対する理解が不足している
- 3. 行政内部で、市民との協働のルール化や明確な役割分担がされていない
- 4. 行政内部で、協働事業に対する評価の仕組みがない
- 5. 市民や市民活動団体に、行政との協働の必要性が認識されていない
- 6. 市民や市民活動団体から、行政との協働事業についての提案を受ける仕組みがない
- 7. 市内に協働事業を実施できる団体が少ない
- 8. 市内に協働事業を実施できる団体の情報がない
- 9. 市民と進めると時間や手間がかかる
- 10. 協働事業を行う人材育成がされていない
- 11. その他 ()

問14. 今後、本市において、協働を進めることが必要だと思えますか。(〇は1つ)

- 1. 必要だと思う
- 2. どちらかといえば必要だと思う
- 3. どちらかといえば必要だと思わない
- 4. 必要だと思わない
- 5. わからない

問15. 問14で、1「必要だと思う」若しくは、2「どちらかといえば必要だと思う」を選んだ方に伺います。

市の協働が必要だと思う理由は何ですか。(当てはまるもの全てに〇)

- 1. 市では対応が難しい地域課題に対応するため
- 2. きめ細かなサービスが可能となるため
- 3. より的確に市民のニーズに応えるため
- 4. 人件費等の市の財政負担の軽減のため
- 5. 市民の自治意識向上のため
- 6. 団体活動の活性化のため
- 7. 職員の意識改革のため
- 8. 市民目線を取り入れた、適切な行政運営を進めるため
- 9. その他 ()

問16. 問14で3.「どちらかといえば必要だと思わない」若しくは、4.「必要だと思わない」を選んだ方に伺います。

市の協働が必要だと思わない理由は何だと思えますか。(当てはまるもの全てに○)

1. 協働のプロセスに時間や手間がかかる
2. 事業実施能力などの面において信頼できるパートナー(市民活動団体等)がない
3. 事業の実施責任の所在が不明確だから
4. 市だけで対応した方が効率的である
5. その他 ()

問17. 市行政の「協働」によるまちづくりを進めていくために、地域団体(自治会)、市民団体、ボランティア、NPO、教育機関、民間企業などに期待することは何ですか。

(当てはまるもの全てに○)

1. 団体に関する情報や活動内容の情報開示
2. 市の組織・仕組みに関する理解の促進
3. 自立性の向上
4. スタッフの充実(人材の育成)
5. 専門性の追求(専門知識やノウハウの蓄積)
6. 事務処理能力の向上
7. 企画・立案能力の向上
8. その他 ()

問18. 「協働」については、自治会、ボランティア、NPO、教育機関(大学等)、企業(事業所)、市役所など、いろいろ組み合わせて行うことがありますが、今後「協働」で取り組むことが必要、あるいは有効なのはどのような分野だと思えますか。(○は3つまで)

1. 福祉に関すること
2. 健康づくりに関すること
3. 文化や歴史に関すること
4. 教育や子育てに関すること
5. 人権や平和に関すること
6. 地球環境や生活環境に関すること
7. 暮らしの安全・安心に関すること
8. 地域経済に関すること
9. 都市の開発や整備に関すること
10. 地域活動や交流に関すること
11. その他 ()

問19. 問18でお答えした分野の具体的な内容がありましたら、ご記入ください。

自由意見

問20. 最後に、宜野湾市の「協働」によるまちづくりについて、ご意見・アイデア等がありましたらご自由に記入ください。

(記入スペースが足りない場合には、別の用紙を追加してご記入ください)

*質問は以上です。ご協力ありがとうございました。